

- (ロ) 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ、其ノ死亡ノ日マテノ給料ヲ船主ヨリ支拂フヘキモノトス (商法第五八〇條)、
- (ハ) 一定ノ航海ニ付テ給料ヲ定メタル場合ニ於テ、航海日數ヲ延ハシ又ハ別ニ不可抗力ニ由ラス航海里程ヲ延長シタルトキハ、海員ハ其ノ割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、但シ航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタル場合トテ、給料ノ全額ヲ請求シテ差支ナシ (商法第五七九條)、
- (ニ) 海員カ職務ノ不適任、懈怠、過失、處刑等ノ爲メ雇止メラレタルトキハ、其ノ服役シタル時日ニ對スル給料ノミ之ヲ請求スルコトヲ得 (商法第五八一條二項)、
- (ホ) 海員カ自己ノ過失ニ原因セサル疾病又ハ傷痍ノ爲メ職務ニ堪ヘサルニ至リタルカ、或ハ不可抗力ノ爲メ其ノ船舶航海ニ上リ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルニ依リ雇止メラレタルトキハ、雇止ノ日マテノ給料ト雇入港マテノ無賃送還トヲ請求スルコトヲ得 (商法第五八一條三項)、
- (ヘ) 海員カ正當ノ事由ナクシテ雇止メラレタルトキハ、其ノ服役シタル時日ニ對スル

給料ノ外ニ、損害賠償トシテ給料一ヶ月分ヲ請求スルコトヲ得、若シ又雇入港外ニテ雇止メラレタルトキハ、右ノ外更ニ雇入港マテ歸着スルニ必要ナル時日ニ對スル給料ト、雇入港マテノ無賃送還ヲ請求スルコトヲ得 (商法第五八二條)、

(ト) 海員カ船舶國籍ノ喪失、自己ノ過失ニ原因セサル疾病傷痍又ハ船長ノ虐待ノ爲メ自ラ雇止ヲ請求シタルトキハ、之ト同時ニ雇止ノ日マテノ給料ト、雇入港マテノ無賃送還トヲ請求スルコトヲ得 (商法第五八三條二項)、

(チ) 前數項ノ如ク海員カ雇入港マテ無賃送還ヲ請求スルノ權利アル場合ニハ、必スシモ船舶ニテ送還セラル、ヲ要セス、自己ノ便宜ニ從ヒ相當ノ費用ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ヘシ (商法第五八八條)、

(五) 債權ノ時効

海員給料ノ請求權ヲ始メ其他船主ニ對スル一切ノ債權ハ、船長ノ場合ト均ク時効ヲ一ケ年トス (商法第五八九條)、

(乙) 義務

海員ハ普通ノ被備者トシテ其ノ雇主タル船主又ハ船長ニ對シテ諸種ノ義務ヲ有スルハ當然ナレトモ、是等ハ特筆スルノ必要ナキヲ以テ、茲ニハ唯、海員カ其ノ職務上特ニ有スル義務ノ二三ヲ擧クルニ止メント欲ス、

(一) 妄ニ船舶ヲ去ルヘカラサル事

海員ハ雇入ノ手續終了シタルトキハ、船長指定ノ時日ニ乗船スヘキモノニシテ、一旦乗船シタル後ハ其ノ雇入期間ノ滿了スルカ若クハ船長ヨリ雇止メラル、時マテ、自己ノ隨意ヲ以テ其ノ船舶ヲ去ルコトヲ得ス、必スヤ一々船長ノ許可ヲ經サルヲ得サルモノトス(商法第五七六條)、蓋シ船舶ノ碇泊中船長ハ船務ニ差支ナキ限り、各部役員及屬員ノ各、半數以內ヲ限リ上陸ヲ許可スルハ一般ノ風習ニシテ、船長ハ其ノ上陸ヲ許可スル際亦歸船時刻ヲモ指定スヘキヲ以テ、海員タルモノ深ク注意シテ其ノ時刻ニ後レサルコトヲ要ス、然ルニ海員若シ船長ヨリ指定セラレタル日時ニ乗船セサルカ、若クハ船長ノ許可ヲ得スシテ妄ニ船舶ヲ去リタルトキハ、船長ハ懲戒ヲ加フルヲ得ルノミナラス飽迄其ノ乗船ヲ強制スルコトヲ得ヘキナリ(船員法第三六及四四條)、

(二) 妄ニ雇止ヲ請求スヘカラサル事

海員ノ雇入契約中ニ雇入期間ヲ定ムル場合ニハ、其ノ期限ニ至レハ直ニ雇止ト爲ルヘキコト當然ナレトモ、若シ此ノ期間ヲ定メアラサルトキハ、他ニ特約ヲ以テ「何時にても海員の都合に依り雇止を請求することを得」等ノ旨ヲ定メサル限り、海員ハ航海ノ途中ニ於テ妄ニ自己ノ都合ヲ以テ雇止ヲ請求スルコトヲ得ス、須ク寄航港又ハ到達港(若クハ一航海ヲ終リ原發航港ニ歸着シタルトキ)ニ至リ、船舶カ安全ニ碇泊シ且ツ積荷ノ陸揚并ニ旅客ノ上陸ヲ終ハリタル上始テ之ヲ請求スヘキモノトス、然ラサレハ船舶ハ不時ニ必要ナル海員ヲ欠クニ依リ、航海ヲ繼續スルコト能ハサルノ不幸ニ陷ルヘシ(商法第五八六條)、

(三) 上長ニ從順ナルヘキ事

船長ハ一船ノ主宰ニシテ指揮命令ノ出ツル源ナレハ、海員ハ甘シテ之カ命令ニ服從セサルヘカラサルハ勿論ニシテ、其他一般ニ下級ノ者ハ上級ノ者ヲ尊敬シ、決シテ從順ノ途ヲ失ハサルコト肝要ナリトス、若シ然ラスシテ或ハ上長ノ指揮ヲ奉セス或ハ上

長ノ命令ニ抵抗スルカ如キ者アラン乎、管ニ船内ノ秩序ヲ亂シ紀律ヲ破ルノミナラス到底満足ナル航海ヲ成就スルコト能ハサルヘシ、是レ即チ船長ニ特殊ノ懲戒權ヲ附與スルノ必要アル所以ナリ、

第三 船長ノ懲戒權

(一) 懲戒權ノ行使

船舶ノ安危ハ直ニ延テ人命財産ノ安危ニ關スルノミナラス、船舶ハ往々國家統治權ノ及ハサル遠洋ニ航行スヘキモノナルヲ以テ、一船ノ主宰タル船長ニ至大ナル懲戒ノ權ヲ與ヘ、船内ノ秩序ヲ保チ紀律ヲ維持スルカ爲メ、臨機應變ノ處分ヲ爲サシムルハ實ニ其ノ當ヲ得タルモノトス、英國ノ大家マクラクラン氏曰ク「船長ノ懲戒權は宛も父母若くは教師かその子弟に對するものに似たり」ト今本邦ニ於テ船長カ海員ニ對シテ懲戒權ヲ行使シ得ヘキ場合ヲ示セハ左ノ如シ(船員法第三六條)、

- 一、海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
- 二、海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
- 三、海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

- 四、海員カ喧争シタルトキ
- 五、海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテ歸船セザリシトキ
- 六、海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ點火又ハ焚火シタルトキ
- 七、海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ端艇ヲ使用シタルトキ
- 八、海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
- 九、海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
- 十、海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
- 十一、其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

(二) 懲戒ノ種類及適用

船長ノ行使スヘキ懲戒ハ左ノ四種トス、

- 一、監禁 三日以内船内ノ一室ニ拘置スルモノトス
- 二、上陸禁止 七日以内ニシテ船舶碇泊日數ノミヲ算入ス
- 三、加役 七日以内常務時間外ニ役務ニ服セシムルモノニシテ一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス
- 四、減給 月給十分ノ一以下トス

而シテ懲戒ノ適用ハ、海員ノ不法行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ムルモノニシテ、二種

以上ノ懲戒ハ之ヲ併セ科スルコトヲ得ス、

其他海員カ船内ニ於テ兇器、爆發物、劇藥等ノ危險物或ハ酒類ヲ所持スルトキハ、船長ハ紀律維持ノ必要上ヨリ之ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得ヘク、又海員カ人身或ハ船舶ニ危害ヲ及ホサントスルトキハ、船長ハ必要ト認ムル時日間其ノ身体ヲ拘束スルコトヲ得ヘシ、而シテ必要ニ臨メハ旅客其他船内ニ在ル者ニ向テモ、右二種ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ（船員法第二七乃至四三條）、蓋シ是等ハ司法警察權ノ一部ニシテ、陸上ニ在リテハ當ニ司法警察官ノ職權ニ屬スヘキモノナリ、

(三) 公權ノ援助

海員ト旅客トヲ問ハス船内ニ在ル者ニシテ、暴力ヲ以テ船長ノ命令ニ抵抗スルカ、若クハ海員密ニ脱船シテ歸船ヲ拒ムカ如キ、苟モ船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニハ、船長ハ軍艦、地方官廳又ハ管海官廳（外國ニ於テハ領事館又ハ貿易事務館）ニ届出テ、其ノ援助ヲ求メテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ（船員法第四五條）、

第四 船主ノ變更

船舶ノ航海中船主ノ變更シタルトキハ、海員ト舊船主トノ間ニ結ヒタル雇傭契約ハ、新船主ニ對シテモ依然効力ヲ有スルモノニシテ、該契約ヨリ生スル權利義務ハ毫モ變スルコトナシ（商法第五八四條）、蓋シ此ノ場合ニ於テ一般ノ原則ヨリ云ヘハ、舊船主トノ間ニ結ヒタル契約ハ、船舶所有權ノ移轉ト同時ニ自然消滅ニ歸シ、新船主トハ未タ何等ノ雇傭關係ナキヲ以テ、其儘役務ヲ離ル、モ差支ナキカ如シト雖モ、斯クテハ航海ヲ中途ニ廢絶セシムルノ不幸ヲ來シ、公私ノ不便殆ト測ルヘカラサルモノアルニ由リ、國法ヲ以テ此ノ特例ヲ設ケタルモノナリ、尤モ航海前又ハ航海後ニ於テ船主カ變更シタルトキハ、舊契約ハ當然消滅シ新ニ契約ヲ結ハサルヘカラサルコト勿論ナリ、

第五 海員給料支拂方ニ關スル便宜

海員ハ航海中殆ト金錢消費ノ途ナキヲ以テ、陸上ノ被傭者（殊ニ勞働者）ノ如ク日給若クハ一週一度現金給與ヲ受クル等ノ必要ナキモ、之ニ反シテ其ノ妻子眷族ハ陸上ニ一家ヲ構ヘテ、偏ニ主人ノ給料ニ依頼シ生計ヲ立ツルノ常ナルカ故ニ、内外國ノ政府又ハ船主ハ、海員實際ノ便利ヲ圖リ法律又ハ規則ニ依テ給料前渡法、給料内渡法等ヲ設クル

ヲ例トス、試ニ英國ノ現行法并ニ日本郵船會社ノ内規ヲ摘示セハ左ノ如シ、

(甲) 英國現行法

(一) 給料前渡法 (Advance notes)

海員カ雇入契約ニ從ヒ航海ニ上ルトキハ、給料一ヶ月分以内ヲ當人又ハ其ノ代人ニ前渡スルコトヲ得、

(二) 給料内渡法 (Allotment notes)

商務院ノ認可ヲ經タル書式ヲ用ヒ、其中ニハ支拂ノ期日、支拂ノ金高、請取人ノ姓名等ヲ記入スヘキモノニシテ、請取金高ハ當該海員給料ノ半ヶ月分ヲ超過スルヲ得ス、又請取人ハ近親ノ者(妻子、父母、祖父母、孫)或ハ海員貯蓄銀行等ニ限ル、而シテ支拂期日ハ請取人近親者ノ場合ニハ雇入日ヨリ一ヶ月ノ後、貯蓄銀行ノ場合ニハ雇入日ヨリ三ヶ月ノ後トス、

(三) 海員爲替 (Seamen's Money Orders)

海員カ海外ニ在テ雇止メラル、ニ方リ、一時ニ多額ノ金圓(即チ長ク服役シタル所得)ヲ給與スル

トキハ、忽チ浪費スルノ虞アルヲ以テ、商務院ハ國會ノ決議ニ據リ海員給料ノ遞送法ヲ開キ、其ノ給料ヲ無賃ニテ本國ニ送附セシムルコト、爲ス、

(乙) 日本郵船會社内規

(一) 遠洋航船屬員給料前渡ノ事

歐、米、濠及孟買ノ遠洋航船ニ乗組ム水火夫、給仕等ノ屬員ニ限り、横濱出帆ノ際左ノ規定ニテ給料ヲ前渡スヘシ、

(イ) 歐洲航船ニ在リテハ向フ一ヶ月分ノ給料及手當金ヲ前渡スヘシ

(ロ) 米國航船ニ在リテハ月ノ十九日以前ニ出帆スルトキハ其ノ月ニ對スル給料半ヶ月分、二十日以後ニ出帆スルトキハ同一ヶ月分ヲ前渡スヘシ

(ハ) 濠洲及孟買航路ニ在リテハ其ノ月ニ對スル給料一ヶ月分ヲ前渡スヘシ但シ出帆ノ當月新ニ乗組ミタル者ニハ半ヶ月分ヲ前渡スヘシ

(二) 遠洋航船役員給料家族渡ノ事

四遠洋航路船舶ニ乗組ム各部役員ハ、毎月末日當人給料ノ一ヶ月分以内ヲ家族渡ニスルコトヲ得ヘシ、但シ歐洲航船ニ於テハ屬員ハ前示第一項(イ)號前渡ニ相當スル時日ヲ經過シタル翌日ヨリ航海ヲ終フル前月末マテ毎月末日ノ手當金ヲ受クルノミニテ、

其ノ給料ノ半額ハ之ヲ家族渡等ノ爲メ日本海員救濟會ニ渡シ、殘ル半額ハ本船横濱歸着ノ上海員救濟會ヲ經テ當人ニ拂渡スモノトス(是レ航海中ノ濫費ヲ豫防スル一手段ナリ)、

(三)金圓仕拂通知書 (Cash Order)ノ事

會社海陸社員ニ限り、仕拂通知書ノ便ヲ以テ支店又ハ出張所ノ設アル甲地ヨリ乙地へ無貸送金スルコトヲ得ルノ特典アルヲ以テ、船舶乗組役員ハ此ノ便法ヲ利用シテ、給料其他ノ金圓ヲ家族等ニ送付スルコトヲ得ルナリ、

第十六章

船長、船主ト水先人トノ關係并ニ

水先事務ニ關スル規定

第一 水先區 (Pilotage Districts)

各國政府ハ自國領海中船舶ノ航行ニ危險ノ虞アル區域ヲ指定シテ水先區ト稱ス、而シテ水先區ニ強制水先區 (Compulsory) ト非強制 (又ハ自由) 水先區 (Non-Compulsory or Free) ノ二様アリ、強制水先區トハ、船舶ノ出入頻繁ナルモ航路狹隘ナルカ又ハ深淺不同ニシテ衝突、膠座等ノ虞著シキカ爲メ、其地ヲ航行スルノ船舶ハ必ス免許水先人ヲ雇用セサル可カラスト規定セラル、港灣又ハ河川ヲ云ヒ、自由水先區トハ、其ノ航路多少危險ノ虞ナキニ非サルモ、航行ノ際水先人ヲ雇用スルトセサルトハ一ニ船長ノ自由ナル場所ヲ云フ、

我國ニ於テハ左ノ如ク東京灣、瀬戸内、長崎及函館ノ四區ヲ指定シテ水先區ト爲シタレトモ、元ト強制水先區ニ非サルヲ以テ、是等ノ區域ヲ航行スル船舶ハ、船長又ハ船主

ノ見込ニ依リ水先人ヲ雇用スルモ雇用セサルモ隨意ナリトス、尤モ船長ニシテ航路不案内ナルカ若クハ船主ニシテ飽迄航海ノ安全ヲ圖ルノ心ヨリ、別ニ専門者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメント欲スルトキハ、水先法ノ命スル所ニ依リ、必スヤ水先免狀ヲ有スル水先人ヲ雇用スヘキコトニ注意セサルヘカラス、

日本水先區

一、東京灣水先區

安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ヶ島西端ヲ經テ諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

二、内海水先區

紀伊國田倉崎ヨリ友ヶ島ヲ經テ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國押登崎ヨリ阿波國大磯崎ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地藏崎ニ引キタル線及長門國網代崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三、長崎港水先區

肥前國福田崎ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經

テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四、函館港水先區

渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

(參考)

英國ニ於テハ古來ノ慣習ニ依リ沿岸處々ニ水先事務所 (Pilotage Authority) ノ設アリ、各事務所ハ其ノ管轄區域ニ屬スル水先人ヲ任免シ水先案内料ヲ定ムル等ノ特權ヲ有シ、又同國商船條例ニ依リテ與ヘラヘタル權能ノ下ニ水先事務ニ關スル諸般ノ規程ヲ設ケ、勅裁ヲ經タル上之ヲ實施スルノ常ニシテ、或點ニ付テハ商務院ノ保護監督ヲ受ケヘキモノトス

第二 水先人ノ雇用

船長ハ強制水先區ヲ航行スルトキハ、法律ノ命スル所ニ依リ必ス水先人ヲ雇ヒ水路ヲ嚮導セシムヘキコト論ヲ待タス、又強制ニ非サル水先區ト雖モ船長其ノ水路ニ不案内ナル以上ハ、水先人ヲシテ嚮導セシムルノ常ニシテ、其他指定ノ水先區ニ非サルモ航行危險ト認ムル場所ニ於テハ、漁夫若クハ他ノ水理ヲ熟知スル者ヲ雇ヒ案内セシムルコトヲ得ヘシ、

從來我國水先人ニハ成規ノ水先免狀ヲ有スル者ト之ヲ有セサル者トアリ、免許水先人

無免許水先人ト通稱シ來リタルトモ、今回新ニ發布セラレタル水先法ニ依レハ、我國ノ水先人ト云フハ水先免狀ヲ有スル者ニ限り、其ノ以外ノ者ハ法律ニ謂ユル水先人ト稱スルコトヲ得ス、從テ亦水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スル權能ヲ有セス、之ヲ犯スルハ船長モ其ノ當人モ俱ニ罰金ニ處セラル、(船長ハ當該水先區ノ水先案内料ト同額乃至二倍ノ罰金ニ當人ハ二圓乃至百五十圓ノ罰金ニ處セラルヘシ)ナリ尤モ水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ、他ニ水先人ヲ得難キトキノ如キハ、已ムナク免狀ヲ有セサル者即チ水先人ニ非サル者ヲ雇用スルヲ得ヘシ、

其他又水先區ハ強制ナルモ折惡ク免許水先人ヲ得ヘカラサル場合アルヘシ、斯ル場合ニハ船長ハ其ノ見込ヲ以テ水先人ヲ雇入レスニ航行スルモ可ナリ、但シ此際船長ハ本船ノ進行ニ付テ至重ノ注意ヲ加ヘ、且ツ免許水先人ヲ得シカ爲メ猶豫セハ船舶ニ非常ノ危險又ハ損害ヲ生スルノ虞アルトキニ限ルモノト知ルヘシ、

第三 水先人ニ對スル船長ノ權限

水先人ニ對スル船長ノ權限ハ、水先區ノ強制ナルト然ラサルトニ依リ、其ノ廣狹ヲ異ニスルモノニシテ各國亦一様ナラスト雖モ、大略左ノ如ク概括スルコトヲ得ヘシ、

- 一、強制水先區ニ於テハ、通例船舶ノ運航ヲ水先人ニ委任スヘキモノニシテ、船長ハ必要ノ注意ヲ與フルニ止マリ、水先人ノ業務ニ干涉セサルヲ旨トス、
- 二、強制ニ非サル水先區即チ自由水先區ニ於テ、免許水先人ヲ雇入レタルトキハ、船長ハ其ノ責任ヲ以テ水先人ノ業務ヲ監視スヘシ、但シ船舶ノ運航ヲ水先人ニ委任シタルトキハ、船長ハ其ノ結果ニ付テ技術上ノ責任ヲ免レ水先人獨リ其ノ責ヲ負フヘキモノトス、
- 三、一般ニ無免許水先人ヲ雇入レタル場合ニハ、該水先人ヲ以テ水路ノ參考人ニ止メ

船長自ラ船舶ヲ指揮スヘシ、

第四 水先人ニ對スル船長ノ義務

強制ニ非サル水先區ニ在リテハ、船長又ハ船主ハ結局損害賠償ノ責ヲ負フヘキモノナレハ、其ノ雇入ルヘキ水先人ノ適任ニシテ十分信用ヲ置クニ足ルヘキモノナルヤ否ヤニ注意スルコト最モ肝要ナリ、然ルニ強制水先區ニ於テハ、當局者ヨリ水先人ヲ指定シ其ノ選擇ニ付テ彼是異見ヲ申立ツルコト能ハサルノ例ニシテ、此ノ場合ニハ水先人ハ其ノ責任ヲ以テ船舶ノ運航ヲ指揮シ船長ハ航海ノ安危ニ關スル責任ヲ免ルヘシト雖モ、左レ

ハトテ部下ノ海員カ誠實ニ水先人ノ號令ニ從ヒ正當ノ助力ヲ與フルヤ否ヤヲ監視スルノ義務アルモノトス、即チ詳説セハ舵柄操轉ノ號令カ能ク遵守セラル、ヤ否ヤ、機關室ノ傳令機ニ十分注意セラル、ヤ否ヤ、錨カ迅速ニ引揚又ハ投下セラル、ヤ否ヤ、看守及測深手カ正當ニ其ノ職務ニ服スルヤ否ヤ等ヲ監視セサルヘカラス(帆船ニ於テハ海員ハ錨索及帆ニ關スル水先人ノ號令ヲ遵守セサルヘ)、而シテ水先人若シ不時ノ疾病ニ罹ルカ或ハ精神錯乱スルカ爲メ一船ノ責任ヲ委スルニ適セスト認ムル場合ニハ、船長ハ直ニ其ノ責任ヲ以テ同水先人ヲ退ケ自ラ代テ船舶ヲ指揮スヘキコト亦當然ノ義務ナリト謂フヘシ、

第五 水先人雇用ノ場合ニ於ケル船主及船長ノ責任

是レ甚タ重要ナル問題ニシテ、英、獨、米ノ如キハ強制水先區ニ於テ水先人ヲ雇用スルトキハ、該水先人ニ船舶運航ノ權ヲ委任シ、其ノ過失等ノ爲メ惹起シタル損害ニ付テ船主又ハ船長ハ賠償ノ責ヲ有セスト雖モ、佛國ハ之ニ反シ強制水先區ト雖モ水先人ヲ單ニアトテ考人ノ資格ニ止メ運航ノ權ヲ委任セサルヲ以テ、其ノ行爲ニ由リ惹起シタル損害ハ、依然船主又ハ船長ノ責任ニ歸スヘキモノトス(蘇西運河及ダニユーブ河モ亦佛法ニ同シ)、今參考ノ爲メ英法ノ規定ヲ

左ニ摘載スヘシ、

強制水先區ニ於テ、免許水先人ニ船舶ノ運航ヲ委任シタルトキハ、該水先人ノ過失又ハ不當ノ行爲ニ依リ惹起シタル損害ニ付テハ、船長又ハ船主ハ賠償ノ義務ナキモノトス、一例ヲ示セハ強制水先區ニ於テ、水先人ノ過失ノ爲メ他船ト衝突シ損害ヲ與ヘタリトスルモ、船長及船主ハ該水先人ノ行爲ニ付テ全ク責任ヲ免ルヘシ、然レトモ斯ル場合ニハ船長又ハ船主ハ、衝突ノ起リタルハ強制水先區ニシテ指定ノ水先人ヲ雇ヒ運航チ之ニ委任シタルコト、并ニ當時水先人ニ對スル船員ノ補助行爲ニハ何等ノ缺點ナキコト、若シ有リトスルモ衝突ノ原因ニ毫モ關係ナキコトヲ申明スルノ義務アルモノトス、
其他強制水先區ニ於テ、水先人ノ過失ノ爲メ本船ニ損害ヲ生シタルトキハ、船長又ハ船主ハ該水先人ニ對シ勿論起訴スルコトヲ得ヘキモ、通例水先人ハ鉅萬ノ財産ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ、之ヲ訴フルモ實際賠償ヲ得ルノ途ナシト謂ハサルヲ得ス、

列國現行法ノ多クハ、強制水先人ノ場合ニ於テ、船主及船長ノ責任免除ヲ規定スルコト前述ノ如シト雖モ、近頃各國海上法ヲ均一ナラシムヘキ目的ヲ以テ設立セラレタル國際海事委員會(去ル一八九七年ノ創立ニ係リ同年九月第一回ナブラツセル市ニ開キ英、佛、獨、比、蘭、丁、諸ノ七國ヨリ委員ヲ派遣セリ)ノ決議ニ依レハ、元來水先人ハ一ノ「アドヴァイザ參考人」ニ過キサルモノニシテ、強制水先人縱ヒ船内ニ在ルトモ、船主ノ責任上ニ何等ノ變更ヲ來スヘキモノニ非ス、即チ強制水先人ノ過失又ハ懈怠ノ爲メ他船ト衝突シタル場合ニ於テ、船主ノ責任ハ水先人ノ乗船セサル場合ト全然同様ナルモノト

認メタリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、列國當事者ノ意向ハ英、獨法ノ如ク船主責任免除主義ヲ採ラスシテ却テ佛法ノ如ク船主責任主義ヲ採ルノ傾向アルヲ知ルヘシト雖モ、要スルニ均ク強制水先區ニ在リト雖モ、水先人ニ船舶ノ運航ヲ委任スルト委任セサルトニ由テ、責任ノ歸スル所ヲ異ニスヘキモノニシテ、運航ノ權ヲ水先人ニ委任シ航海ノ安危ニ付テ責任ヲ有セシムル場合ニ於テハ、船主又ハ船長ハ全然其ノ責任ヲ免除スヘク、若シ之ニ反シテ水先人ヲ以テ船長ノ參考ニ供スル一種ノ參考人ト看做シ、船長自ラ運航ノ權ヲ握ル場合ニ於テハ、水先人ハ其際ニ生シタル損害ニ對シ責任ヲ免ルヘキモノト斷定シテ不可ナカルヘキ歟、

次ニ強制ニ非サル水先區ノ場合ヲ考察センニ、是レ言フマテモナク船長又ハ船主ハ結局損害賠償ノ責ヲ負ハサルヘカラス、英法ニ曰ク「強制ニ非サル水先區ニ於テハ水先人ノ過失ニ由リテ生シタル損害ト雖モ船主ハ之ニ對スル責任ヲ負フ」ト、而シテ保險契約等ノ關係ヨリ之ヲ觀ルニ、保險ヲ附シタル船舶ハ強制ニ非サル水先區ニ在リテモ大抵免許水先人ヲ雇入ル、ノ例ニシテ、此ノ場合ニハ縱令該水先人ニ船舶ノ運航ヲ委任スルニ

セヨ、其ノ行爲ニ由リ惹起シタル損害ニ對シ、保險人ハ責ヲ免ルヘカラサルモノ、如シ、

第六 水先船、水先旗、水先信號等

1 水先船 (Pilot Boat)

水先人ハ其ノ業務ニ從事スル爲メ水先船ニ乗組ムトキハ、晝間ナラハ水先旗ヲ船ノ檣頭、旗竿又ハ帆ノ上部等最モ他人ニ見エ易キ場所ニ掲ケ(水先人水先船ヲ去ルトキハ水先旗ヲ撤去スルモノトス) 夜間ナラハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依リ一ノ白燈ヲ檣頭ニ掲ケ、且ツ十五分以内ノ間隙ヲ以テ閃火一個又ハ數個ヲ發スヘシ(左記「備考」參看)、而シテ水先船ハ常ニ相當ノ艤裝ヲ整ヘ成規ノ免狀ヲ備フヘキモノニシテ、船体ノ外部ヲ黑色ニ塗ルコト(一)、船側及大帆ノ上部ニ於テ水先船タルコトヲ明ニ表示スルコト(二)ノ二條件ヲ具備セサルヘカラス、

(備考)

海上衝突豫防法第八條抄出

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ、他船ニ要スル燈ヲ掲ケヘカラス、單ニ周圍ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲ケ、且ツ十五分ヲ超エサル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ、

第十六章 船長、船主ト水先人トノ關係并ニ水先事務ニ關スル規定

三百六十五

水先船ニハ右ノ外縁紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ、他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ示スヘシ、但シ此時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス、水先人ヲ要スル船舶ヘ直付スヘキ水先船ハ、白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ、又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヒタル燈籠一箇ヲ手近ニ備置キ、前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得、水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サルトキハ、其ノ積量ニ應ジテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ、

(一) 水先旗 (Pilot-Flag)

水先旗ハ白赤二段ニ色別ケ、上段ヲ白色ニシ下段ヲ赤色ニスル堅三尺横四尺五寸ノ旗章ニシテ、遠方ヨリ容易ニ識別シ得ヘキ様常ニ鮮明ナルヲ必要トシ、若シ汚染又ハ破損シタルトキハ直ニ新調セサルヘカラス、

(二) 水先信號 (Pilot-Signals)

水先信號ハ晝間用ト夜間用トノ別アリ、而シテ晝夜トモ信號ニ二種アルコト左ノ如シ、船長水先人ヲ要招セントスルトキハ、二種ノ中何レカ一種ヲ用ユルカ若クハ兩者ヲ併用スヘシ、

晝間用

一、前檣ニ船首旗又ハ國旗ヲ掲揚スルコト

二、萬國普通信號書ニ掲クル水先信號 (Pilot) ヲ表示スルコト

夜間用

一、十五分間毎ニ青色ノ焰火ヲ發射スルコト

二、少許ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間明亮ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

水先人ハ右ノ信號ヲ認ムレハ、直ニ其ノ要招ニ應ジテ本船ニ赴キ雇用セラレヘキモノトス、而シテ二雙以上ノ船舶同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ、水先人ハ自己ニ最モ近キ方ノ要招ニ應スヘキ事ナレトモ、其中現ニ危難ニ罹レル船舶アルトキハ、最初ニ之カ要招ニ應スヘキハ蓋シ當然ナリトス、若シ又二人以上ノ水先人同時ニ船長ノ要招ニ應ジ來リタルトキハ、其ノ撰擇ハ一ニ船長ノ見込ニ在ルモノニシテ、水先人ハ決シテ之ヲ強ユヘキニ非ス、而シテ水先人應テ本船ニ乗込ムトキハ、其ノ氏名及免許水先人タルコトヲ船長ニ告ケ、船長ハ水先信號ヲ撤去シ、本船ノ名稱、船主ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告ケ、又水先人ノ要求アレハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ、

是ニ至テ水先人雇入ノ手續ヲ了リ、其ノ本職タル水路嚮導ニ從事セシムヘキナリ、

(備考)

我國ニ於テハ水先人ハ水路嚮導中、隨意ニ水先修業生一名ヲ伴フコトヲ得、但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ、船長ノ承諾ヲ經サルヘカラス、而シテ又水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ、其ノ修業ニ關スル證明書ヲ交附スヘキモノトス、

(四) 水路嚮導ノ證明

水先人既ニ水路ノ嚮導ヲ終リタルトハ、左ノ事項ヲ記入シ得ヘキ様ニ調製シタル書面ニ自ラ記名調印シテ、之ヲ船長ニ差出シ、船長ハ之ニ各事項ヲ記入シ、記名調印ノ上更ニ水先人ニ交付シ、以テ水路嚮導ノ証明ト爲スヘシ、

- 一、船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及吃水
- 二、水路ヲ嚮導シタル區域
- 三、水路ノ嚮導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時
- 四、水先案内料ノ高

若シ又水先人カ水先修業生ヲ伴ヒ乗船シタルトキハ、前述ト大約同一ノ手續ニ依リ、

船長ハ書面ヲ水先人ニ交付シ、更ニ水先人ヨリ該修業生ニ交付シテ他日ノ証明ニ供セシムヘシ、

(五) 水先人報告ノ義務

- (イ) 水先人其ノ業務ニ從事中海難ニ罹リタルトキハ、速ニ其ノ始末ヲ管海官廳又ハ警察署ニ届出ツヘシ、
- (ロ) 水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ、速ニ其ノ狀況ヲ遞信省又ハ管海官廳ニ報告スヘシ、

- 一、航路、航路標識ニ異變アルコト
- 二、航路ノ防害ト爲ルヘキモノ、存在スルコト
- 三、其外航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第七 水先案内料 (Pilotage)

水先區ニ於テ水先人ヲ雇ヒ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ、船長ハ該水先人ニ對シ成規ノ水先案内料ヲ仕拂ハサルヘカラス、水先案内料ハ當局者ニ於テ水先區毎ニ之ヲ定メ、

其ノ定額ヲ超過セシメサルコト各國同様ニシテ、若シ定額ヲ超過シテ水先料ヲ授受シタルトキハ、我國ニ於テハ双方ヲ二圓乃至二百五十圓ノ罰金ニ處スヘシ、又水先人ハ同時ニ二隻以上ノ船舶ヲ嚮導スルヲ得サルノ規則ナレトモ、船舶カ既ニ運航ノ自由ヲ失フカ若クハ水先人ヲ得ルコト能ハサルカ爲メ、水先人ノ乗組メル他ノ船舶ヲ先導トシテ之ニ曳キ行カレタルトキハ例外ニシテ、此ノ場合ニハ水先人ハ各隻ニ付案内料ヲ請求スルコトヲ得ルナリ、而シテ水先案内料ハ結局何人ノ仕拂義務ニ屬スヘキモノナリヤト云フニ、水路ヲ嚮導セシメタル船舶ノ船長カ第一着ニ之カ義務ヲ負フヘキコト當然ナルモ、便宜上船主又ハ其ノ代理者（支店、代理店等）ヨリ仕拂フコト多シ、若シ船長、船主又ハ其ノ代理者ニシテ之ヲ仕拂ハサルトキハ、水先人ハ船員等ト均ク船舶債權者タル資格ヲ以テ船舶、其ノ屬具及未収運送費ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ（商法第六八〇條參看）。

船長若シ已ムヲ得サル必要ノ爲メ又ハ豫メ水先人ノ同意ヲ得スシテ其ノ水先區以外ニ水先人ヲ伴ヒタルトキハ、當然之ヲ送還スルノ義務アリ、我國ニ於テハ之ニ付テ別ニ何等ノ規定ナシト雖モ、英國ノ如キハ此際船長ハ水先人ニ對シ其ノ雇入地ニ歸着スル時マデ、一日ニ付半「ギニア」（我五圓餘）ヲ支給セサルヘカラス、而シテ水先人カ同一ノ船舶ニテ送還セラル、トキハ、往航水先區ノ境界線ヲ通過シタル時ヨリ最初水先人ノ乗船シタル港ニ歸着スル時マデノ日數ヲ計算スルモ、若シ他ノ船便若クハ汽車便ニテ送還セラル、トキハ、其ノ歸着迄ニ要スヘキ相當ノ日數ヲ見込ミテ計算シ、此外旅費ヲモ支給スヘキ規則ナリ、

我國水先區ノ案内料ハ遞信省令ニ依テ規定セラレ、即チ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫水十二呎又ハ十二呎未滿ノ船舶ニ付テハ、左表ニ依リテ計算シ、更ニ總噸數千噸（若クハ千噸未滿）又ハ喫水一呎（若クハ一呎未滿）ヲ増加スル毎ニ、同表ニ定ムル額ニ百分ノ三ヲ加フルモノトス、此ノ喫水ハ水先人カ水路嚮導ノ爲メ乗船シタル時ヨリ其ノ嚮導ヲ終フル時マテノ間ニ、船首又ハ船尾ノ有セル最深ノ喫水ヲ謂フモノニシテ、若シ水先人カ船長ノ便宜ニ依リ左表ニ掲クル各航路ノ一部ヲ嚮導シタルトキハ、別ニ特約アルニ非サレハ、其ノ全部ニ對スル水先案内料ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、若シ又水路嚮導

中ニ在リテ海難其他不可抗力ノ爲メ、各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ、水先案内料ハ實際嚮導シタル里數ノ割合ニ應シ計算スヘキモノナリ、

○日本水先區案内料表

水先區	航路	水先案内料		
		汽船	帆船	
東京灣	水先區境界線ヨリ横濱錨地マテ往航又ハ復航	三〇	四五	
	水先區境界線ヨリ品川錨地マテ往航又ハ復航	四〇	六〇	
	横濱錨地ヨリ品川錨地マテ往航又ハ復航	一五	二五	
	友ヶ島水道ヨリ神戸錨地マテ往航又ハ復航	三〇	四五	
	友ヶ島水道ヨリ大阪錨地マテ往航又ハ復航	四〇	六〇	
	神戸錨地ヨリ大阪錨地マテ往航又ハ復航	一五	二五	
	神戸錨地ヨリ門司若クハ下ノ關錨地迄往航又ハ復航	一〇〇	一七五	
	神戸錨地ヨリ水先區西境界線マテ往航又ハ復航	一〇〇	一七五	
	門司若クハ下ノ關錨地ヨリ水先區西境界線マテ往航又ハ復航	二五	三五	
	門司若クハ下ノ關錨地ヨリ下ノ關海峽東口マテ往航又ハ復航	二五	三五	
内海	水先區西境界線ヨリ下ノ關海峽東口マテ往航又ハ復航	四〇	五〇	
	豐後水道北口ヨリ門司若クハ下ノ關錨地マテ往航又ハ復航	五〇	八〇	
	豐後水道北口ヨリ水先區西境界線マテ往航又ハ復航	七〇	一〇〇	
	豐後水道北口ヨリ神戸錨地マテ往航又ハ復航	一〇〇	一七五	
	水先區境界線ヨリ港内錨地マテ往航又ハ復航	二〇	三〇	
	函館港	水先區境界線ヨリ港内錨地マテ往航又ハ復航	二〇	三〇

第八 水先人組合 (Pilots' Association)

水先人組合ハ遞信大臣ノ命令ヲ受ケ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組織スヘキモノニシテ、遞信大臣ニ於テ先ツ某水先區ノ水先人三名ヲ撰テ創立委員ヲ命スレハ、該委員ハ組合規約ヲ起草シ、之ヲ水先區ニ屬スル水先人一同ノ會議ニ附シ、決議ノ上左ノ事項ヲ記スル

成案ヲ遞信大臣ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ、然ル後組合長及副長ノ選舉ヲ行ヒ組合長ハ組合事務所ヲ定メ、其ノ所在地ヲ管轄管海官廳ヲ經テ遞信省ニ届出テ以テ水先人組合ノ成立ヲ告グルモノトス、

組合契約ニ記載スヘキ事項

- 一、組合ノ名稱
- 二、組合長及組合副長ノ選舉、任期及職務ニ關スルコト
- 三、組合員ノ營業ニ關スルコト
- 四、組合ノ風紀秩序ニ關スルコト
- 五、組合ノ會計ニ關スルコト
- 六、組合ノ會議ニ關スルコト
- 七、水先修業生ノ資格等ニ關スルコト
- 八、其他組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

遞信大臣ハ水路嚮導ノ事ニ關シ水先人組合ニ諮問シ、若シ必要ト認ムルトキハ組合會議ヲ開テ之ヲ審議セシムルコトアルヘシ、其他組合長ハ毎年一月限り、過ル一ケ年中ニ於ケル組合員營業ノ狀況及組合ノ會計ニ關スルコトヲ遞信省ニ報告スル義務アリ、又水先人カ前示規約中第三號又ハ第四號ノ事項ニ違犯シタルトキハ、海員審判所ノ裁決ヲ以

テ懲戒ヲ加ヘラルヘキモノニシテ、組合長ハ斯ル犯則ノ水先人アルトキハ、其ノ始末ヲ管轄管海官廳ニ申告セサルヘカラス、

第五篇 航海

船主カ船舶ヲ利用シテ營業ノ目的ヲ達セントスルニハ、其ノ船舶ヲ安全ニ航海セシムル技術的ノ作用ト其ノ船舶ニ可成多數ノ旅客、貨物等ヲ搭載シ、之ニ對スル運送賃ヲ取得スル商賣的ノ作用トヲ兼備セサルヘカラス、而シテ運送ノ事ハ之ヲ次篇ニ譲リ、本篇ハ主トシテ航海ノ技術及之ニ關聯スル公私ノ事務、手續等ヲ叙述スルモノニシテ、論旨ヲ分テ航海ノ準備、航海中ノ業務、着港ノ手續、及海難即チ海上ニ於テ遭遇スヘキ危難ノ四章ト爲シ、何レモ法令又ハ内外ノ慣例ヲ參酌シ、妄ニ著者ノ意見ヲ加ヘサランコトヲ期セリ、

第十七章 航海ノ準備

第一 準備ノ大要

船舶一タヒ錨ヲ拔テ航海ノ途ニ上ラントスルトキハ、其ノ目的地ノ内國ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハス、之カ船長タルモノハ發航前豫メ、本船ノ構造及其ノ取ルヘキ航路ニ關

スル特殊ノ要件ヲ知悉シ、船艙機關ニ何等ノ故障ナキコトヲ確ムルト共ニ、定數ノ船員ヲ乘組マセ、屬具、石炭、清水等ノ船用品ヲ充備シ、又必要書類及準備金ヲ備附クル等諸般ノ準備ニ整頓シテ萬カ一ニモ航海ニ差支ナカラシムルヲ要ス、若シ是等ノ一ヲ怠ルトキハ途中ニシテ如何ナル危險、災難ニ遭遇スルヤモ測リ知ルヘカラス、而モ之ニ對シテ船主又ハ船長ハ損害賠償ノ責ヲ負フヘキハ勿論法律上亦處罰ヲ免ルヘキニ非ス、豈ニ慎マサル可ケンヤ、以下航海ノ準備ニ必要ナル事項ヲ順次分説スヘシ、

第二 船員ノ乘組并ニ雇人雇止等ノ公認

船舶ハ其ノ大小、種類、航路ノ遠近等ニ依リ船長以下ノ乘組定員ヲ異ニスルモノニシテ、是等ノ定員ハ一々船内業務ノ必要ヨリ割出シタルモノナレハ、若シ缺員アルトキハ管ニ航海ニ差支ヲ生スルノミナラス、船舶職員法ニ定ムル運轉士又ハ機關士ノ定員ヲ欠クトキノ如キハ、忽チ法律違反トシテ罰金ヲ受クルニ至ルヘシ、

而シテ乘組定員タル船長及海員カ愈、船舶ニ乗込ムニ付テハ、夫々公ケノ手續ヲ履ムノ必要アリ、先ツ船長タルモノハ乘船前ニ其ノ船員手帖ト共ニ、就職及就職ノ年月日ヲ

證スル書面（就職辭令書ノ如シ）、其ノ乗込ムヘキ船舶ノ種類、名稱、航路定限及積量ヲ記セル書面、并ニ海技免狀ヲ管海官廳ニ差出シテ、就職ノ認證ヲ受クルコト便宜ナルヘシ、斯クテ就職ノ認證ヲ得タル船長ハ、其職ヲ退クニ方リ退職及退職ノ年月日ヲ證スル書面（解雇辭令書ノ如シ）ヲ添ヘテ其ノ船員手帖ヲ管海官廳ニ差出シ、認證ヲ受クルコトヲ要ス、是等ノ認證ハ言フ迄モナク後日船長ノ履歴ヲ確ムル證據ト爲ルヘキモノニシテ、管海官廳ニ於テハ右手帖中ニ認證ノ旨及認證ノ年月日ヲ記シ且ツ該官廳ノ印ヲ捺スヘシ、右船長ノ就職又ハ退職認證手数料ハ一件ニ付拾錢ナリ、

次ニ海員ニ付テハ各船々長ハ必要ノ人員ヲ雇入レタル上、同ク乗船前ニ公認ヲ受クヘキモノニシテ、其後航海ノ途中或ハ航海ノ終ニ於テ、雇入期間滿ツルカ又ハ他ノ事由ニ依リ雇止ムルトキハ、須ク雇止公認ノ手續ヲ爲シ、若シ期間滿了ノ後モ引續キ雇入レ置カントスルトキハ、更ニ更新ノ手續ヲ爲スヘキ等、必スヤ管海官廳ノ公認ヲ受ケテ常ニ必要ノ乗組員ヲ充備シ置カサルヲ得ス、即チ是等ノ公認ヲ受クル手續一班ヲ左ニ説示スヘシ、

（一）海員雇入ノ場合

海員雇入ノ公認ヲ受ケントスルトキハ、雇者即チ船長（若シ代理人ヲ用フルトキハ其ノ理由委任狀ヲ代理人）ハ海員名簿ニ成規ノ事項ヲ記入シ、左記ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳ニ交附スヘシ）

（若シ其港ニ該官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ同官廳）ニ差出スヘシ、

一、海員雇入公認申請書

此ノ申請書ニハ船主、船名、番號、船籍港、航路（又ハ航路定限）、船主ノ氏名、并ニ被雇者ノ氏名、其ノ船員手帖番號、職務、雇入期間、給料ヲ記入スルモノトス、

二、被雇者ノ海技免狀

右海員名簿及雇入公認申請書ニ、被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記入スルニハ、甲板部、機關部、事務部、衛生部ノ順序ニ從フヘキモノニシテ、同一ノ部ニ屬スル海員ハ勿論上長ヲ先ニスヘシ、而シテ管海官廳カ右ノ申請書ヲ受ケ公認ヲ爲スニハ、雇者被雇者ヲ官廳ニ出頭セシメ、双方ニ向ヒ海員名簿ニ記入シタル事項ヲ讀聞カセタル上之ニ署名捺印セシムルモノニシテ、之ヲ終フレハ該官廳ハ右海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記入シ該官廳ノ印ヲ捺シ、曩ニ差出セル海技免狀ト共ニ海員名

簿ヲ雇者（即チ船長）ニ返付スヘシ、是ニ於テ雇入公認ノ手續全ク終ルヲ以テ、被雇者タル海員ハ猶豫ナク其ノ船員手帖ニ成規ノ事項ヲ記入シ、之ヲ同一ノ管海官廳ニ差出シ雇入ノ公認アリタルコトニ付テ認證ヲ申請スヘキナリ、而シテ海員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタル爲メ交付又ハ書換ヲ申請シ之ヲ受ケタルトキモ、亦同ク公認ノ認證ヲ受クル手續ヲ爲スヘキモノトス、

(二)海員雇止ノ場合

先ツ海員雇止ノ公認ヲ受クヘキ場合ヲ示セハ左ノ如シ、

- 一、海員ノ雇入期間満了シタルトキ
- 二、海員カ死亡シタルトキ
- 三、商法第五八一條又ハ第五八三條ニ依リ海員ヲ雇止メタルトキ
- 四、同法第五八七條ニ依リ海員雇入契約終了シタルトキ

(參照)

商法第五八一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一、發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ

二、海員カ著ク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ重大ナル過失アリタルトキ

三、海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四、海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

五、不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

同第五八三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一、船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

二、自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

三、船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

同第五八七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一、船舶カ沈没シタルコト

二、船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト

三、船舶カ捕獲セラレタルコト

即チ右ニ掲クルカ如キ事實ノ起ルトキハ、雇者タル船長ハ海員名簿ニ成規ノ事項ヲ記入シ、左記ノ書類ヲ添ヘテ事實ノ起リタル港ノ管海官廳（若シ其港ニ該官廳ナキトキ又ハ航行ニ到着シタル管海官廳アル港ノ同官廳）ニ差出スヘシ、

一、海員雇止公認申請書

此ノ申請書ニ記入スヘキ事項ハ前示雇入公認申請書ト大約同一ニシテ前申請書中「雇入期間及給料」ノ二項ノ代リニ「雇止ノ事由」ナル一項ヲ入ル

二、被雇者ニ關スル記事アル航海日誌

其他代理人ノ申請方、被雇者氏名記入ノ順序、管海官廳公認ノ方法、雇止公認ノ認
證等ニ關スル手續ハ、雇入公認申請ノ場合ト大同小異ニシテ、尤モ雇止ノ場合ニハ正
當ノ理由アル上ハ、當事者タル雇者又ハ被雇者ノ一方カ該官廳ニ出頭セサルモ公認ヲ
與ヘラルヘシ、

(三)海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ場合

海員ノ雇入契約ヲ更新又ハ變更シ之カ公認ヲ受ケントスルトキハ、雇者タル船長ハ
海員名簿ニ夫々成規ノ事由ヲ記入シ、左記ノ書類ヲ添ヘテ更新又ハ變更ヲ爲シタル港
ノ管海官廳(若シ其港ニ該官廳ナキトキ又ハ航行中事實ノ起リタル
トキハ其後最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ同官廳)ニ差出スヘシ、其他ノ手續ハ大
概雇入又雇止公認申請ノ場合ト同一ナリ、

(イ)契約更新ノ場合

- 一、海員雇入契約更新公認申請書
前示申請書中「船種」乃至「職務」ノ外ニ「更新ノ要旨」ヲ記入ス
- 二、被雇者ノ海技免狀

三、被雇者ニ關スル記事アル航海日誌

(ロ)契約變更ノ場合

- 一、海員雇入契約變更公認申請書
「船種」乃至「職務」ノ外ニ「變更ノ要旨」ヲ記入ス
- 二、契約ノ變更カ被雇者ノ職務ニ係ル場合ナルトキハ該被雇者ノ海技免狀

(四)手数料

- 一、海員ノ雇入雇止又ハ雇入契約ノ更新(若クハ變更)ニ關スル公認手数料 被雇者一人ニ付 拾 錢
- 二、海員ノ雇入又ハ雇止ニ關スル公認ノ認証手数料 一件ニ付 五 錢
- 三、管海官廳ノ休日又ハ該官廳外ノ場所ニ於テ公認又ハ公認ノ認証ヲ受ケタルトキハ二倍ノ手数料ヲ納ムルモ
ノトス

茲ニ又注意スヘキハ航海獎勵金ヲ受クル船舶又ハ特別命令航路ニ使用セララル、船舶
ニ於テ、船員トシテ外國人ヲ雇入レントスルトキハ、豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受ケサル
ヲ得サルコト是レナリ、尤モ外國ニ在リテ死亡其他已ムヲ得サル事由ノ爲メ船員ニ欠
員ヲ生シタル場合ニハ、其地日本領事館ノ公認ヲ得テ一時補缺ヲ爲シ、事後遞信大臣
ノ承諾ヲ受クルコトヲ得ヘシ、

(參照)

船員手帖 (Sea-service Book)

(イ) 船員手帖ノ申請、返納等

船員トシテ日本船舶ニ乗組マントスル者ハ、船長ヲ始メ甲板部、機關部、事務部、衛生部ノ海員ハ總テ、戸籍吏ノ書面又ハ他ノ公正証書ヲ以テ、(一)氏名(二)本籍地(三)身分(ノ別ヲ云フ)(四)出生年月日ノ四項ヲ証明シ、最寄ノ管海官廳ニ向テ船員手帖ノ交附(交附手数料一)ヲ申請セサルヘカラス、船員手帖ハ船長及海員カ海上勤務ニ従事シタル履歴ヲ証明スル記録ニシテ、以テ其ノ資格、技能ヲ詳知スヘキ憑証ト爲ルヘク、船長ハ自ラ其ノ手帖ヲ保管スルモ海員ノ手帖ハ雇入期間中船長ノ手ニ保管シ置クモノナリ、而シテ此ノ手帖ヲ交附スルハ必ス日本國內ノ管海官廳ニ於テスヘキモノナルヲ以テ、外國ニ於テ雇入レラレタル船員ハ本邦ニ到着ノ日ヨリ一ヶ月内ニ申請スルヲ要ス、

前示ノ四項ハ船員手帖ノ冒頭ニ記載スルモノニシテ、若シ是等ノ事項ニ誤謬又ハ變更アリタルトキハ、船員ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ管海官廳ニ向ヒ、成規ノ手数料(訂正事項一)ヲ納メ訂正ヲ申請シ、又該手帖ヲ滅失(全部記入シテ了リ餘白ナキ)ニ至リタルトキ亦同シ、又ハ毀損シタルトキハ、遲滞ナク更ニ交附又ハ書換ヲ申請スヘク(手数料ハ手帖一部ニ付七錢)其他脱船、廢業、若クハ死亡シタルトキハ管海官廳ニ手帖ヲ返納スヘキモノトス、

(ロ) 船員手帖ノ様式

手帖ノ寸法ハ、縦五寸、横三寸五分、一部七十七頁ヨリ成リ、表面ニハ「船員手帖」ト題シ、之ヲ交附シタル管海官廳ノ名印、交附年月日、番號ヲ記シ、第一頁ニハ船員ノ氏名、本籍地、身分、出生年月日ヲ記シ、第

二頁乃至第五頁ハ官廳記事ニ供シ、第六頁ニハ船種、船名、船籍港、積量、航路(又ハ航路定限)、船長ノ氏名、船員ノ職務、給料、雇入期間、雇入地、雇入年月日、其ノ公認年月日等ヲ、第七頁ニハ雇入契約ノ變更又ハ更新ノ事、雇止事由、雇止地、雇止年月日、其ノ公認年月日等ヲ記シ、第八頁乃至第七十五頁ハ順次右第六及七頁ニ倣ヒ、第七十六及七十七兩頁ニハ船員ノ履歴ヲ記スルニ供ス、

第三 船用品ノ充備

船用品トハ船舶ニ要スル一切ノ需用品ヲ云ヒ、即チ屬具(機裝具)、備付品、燃料石炭、食品、消耗品等ヲ包括スルモノニシテ、是等ノ物品ハ船舶ノ航海ニ一日モ欠クヘカラサルモノナリ、左ニ之ヲ逐次分説スヘシ、

(一) 屬具 (Equipments)

屬具ハ法律上船舶ノ從物ト看做サレ屬具目錄ニ列記スヘキモノニシテ、船舶ノ賣買又ハ保險ニ關係ヲ有ス、屬具ハ譬ヘハ家屋ノ建具ノ如シ、建具ナケレハ大厦高樓モ人間ノ住所ニ適セサルト均ク、屬具ヲ備付ケサレハ如何ニ壯大堅牢ナル船舶モ安全ナル航海ヲ持續スルヤ難シ、故ニ船舶検査規程ニモ若干ノ屬具ヲ指定シアリ、其ノ種類若クハ定數ヲ缺ケハ航海ニ堪ヘサルモノト認ムルノ規則ナリ、

(一) 備付品 (Fittings)

備付品トハ船内ノ什器、裝飾品、文房具、寢具等ヲ云フモノニシテ、是等ハ旅客船タルト貨物船タルトニ由リ、大ニ其ノ多寡及良否ヲ異ニスヘシ、而シテ素ト旅客ノ快樂ト便宜トヲ旨トスルモノナレハ、平素之カ手入ヲ良クシ清潔ニ保存スルコトヲ勉メサルヘカラス、

(三) 燃料石炭 (Bunker Coal)

石炭(重油ヲ燃料トスル)ハ船舶ノ食料トシテ動力ヲ發生スル源ナルヲ以テ、常ニ不足ナク準備シ置キ航海中欠乏ヲ告クル如キ不都合ナカラシムヘシ、且ツ其ノ消費額ハ通常航海費ノ最大部分ヲ占ムルノミナラス、海運業者ノ營業費中亦第一二位スルモノナレハ、船長及機關長ハ堅ク之カ節約ヲ勉メ、其ノ最モ經濟ニシテ又最モ効力アル方法ヲ取ルコトニ注意セサルヘカラス、

(四) 賄品 (Provisions)

賄品トハ旅客及船員ニ供スヘキ一切ノ食物ニシテ、其ノ品質ノ善惡ト料理方ノ巧拙

トハ忽チ旅客ノ批評ニ上リ延テ本船ノ名譽、船主ノ利益ニモ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ、決シテ之カ用意ヲ輕忽ニ附スヘカラス、元來賄品ハ時々補充ヲ要スルモノナルヲ以テ、當事者ハ航海ノ途中其ノ價格可成廉ニシテ品質佳ナルノ土地ヲ撰テ之ヲ購入シ且ツ常ニ保存方ニ注意シ、生物、凍水等ノ如キ腐敗滅損シ易キ種類ニハ殊ニ注意ヲ要スルモノト知ルヘシ、

(五) 消耗品 (Running Stores)

消耗品トハ、燃料石炭及賄品ヲ除キ石油、機關油、糸屑、筆紙墨等ノ如キ船内一切ノ消耗性物品ヲ指スモノニシテ、航海上何レモ必要ノモノナレハ、本船ノ性質及航路ノ遠近ニ應シ相當ノ數量ヲ準備シ、且ツ飽迄浪費ヲ戒メサルヘカラス、

(六) 旅客需用品 (Passengers' Requisites)

其他旅客ヲ主トスル船舶ニ於テハ、旅客需用品トシテ船内ニ煙草、酒類等ヲ備ヘ置キ其ノ需ニ應シテ賣却スルノ便宜法ヲ設クルノ例アリ、

第四 必要書類ノ備付

船舶ハ商法第五百六十二條第一項ニ依リ、必スヤ(一)船舶國籍證書、(二)海員名簿、(三)屬

具目錄、(四)航海日誌、(五)旅客名簿、(六)運送契約及積荷ニ關スル書類(船荷証券謄本、積荷目錄等)、(七)税關ヨリ交附シタル書類(出港免狀、輸出免狀等)ヲ備ヘ置カサルヘカラス、又(八)船舶検査法ニ依テ備付クヘキ検査證書、(九)船舶ノ無事健康ナルコトヲ証スル健全證書、其他船主ヨリ交附スル主要ノ文書ヲモ、發航前夫々準備スル必要アラン、以下各書類ニ就テ略述スル所アルヘシ、

(一)船舶國籍證書 (Certificate of Vessel's Nationality)

是レ從前ノ登簿船免狀ト異名同質ノモノニシテ、日本ノ船舶即チ日本ノ國籍ヲ有スル船舶ナルコトヲ證明シ、此ノ證書ヲ受有シタル後ニ非サレハ、日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ航海ノ用ニ供スルヲ得サルモノトス、此ノ證書ハ汽船又ハ帆船ニ用ユル分ト石數ヲ以テ積量ヲ示ス船舶ニ用ユル分トノ三様アリ、而シテ是等ノ三様トモ本證書ト假證書ノ別アリ、今參考ノ爲メ汽船ニ用ユル船舶國籍證書(本證書)ニ記載スル要件ヲ示セハ左ノ如シ(詳細ハ船舶法施行細則第三及四號書式甲乙丙參看)

- 一、船舶ノ登録番號、種類及名稱、船籍港、造船地、船造者、進水年月日、甲板ノ層數、外板及船骨ノ材料、

櫓ノ數、網具ノ裝置、船首及船尾ノ形狀

- 一、積量測定法ニ依ル船舶ノ尺度(長、幅、深)及噸數(総噸數、登簿噸數并ニ船内各部ノ噸數別)
- 一、機關ニ付テハ汽機、汽鐘、推進器ノ種類及數、汽機汽鐘ノ製造者及製造年月日
- 一、船舶ノ所有者又ハ共有者ノ氏名
- 一、以上ノ諸項ヲ記載シタル上日本帝國管海官廳ノ名ヲ以テ「前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコト」ヲ證明スルモノナリ

(二)海員名簿 (Seamen List or Muster-roll)

是レ乗組員ノ氏名及員數ヲ始メ、其ノ雇入雇止ノ詳細ヲ明ニスルモノニシテ、茲ニ書式ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ(詳細ハ明治三十二年遞信省令第十九號第一號書式參看)

- 一、(一)乃至(六)表ヨリ成リ(一)表ニハ「海員名簿」ト題シテ船名、番號、船籍港、積量(総噸數及、登簿噸數)航海定限、船主及船長ノ氏名、住所ヲ記ス
- 一、(二)表ニハ「官廳記事」ト題シテ本名簿ヲ當該官廳ニ提出シタルトキ當事者ノ記入ヲ爲スニ供ス
- 一、(三)表ハ海員ヲ雇入レタル特別契約ノ條項及飲食物ニ關スル要件ヲ始メ雇入ノ場所、時日及期間ト海員ノ住所、職務、給料及船員手帖ノ番號トヲ記入シ且ツ雇者タル船長及被雇者タル海員ノ署名捺印ヲ爲シタル管海官廳ノ公認ヲ受クルニ供ス
- 一、(四)表ハ海員雇止ノ事由、時日及場所ヲ記入シ雇者被雇者ノ署名捺印ヲ爲シタル上公認ヲ受クルニ供ス
- 一、(五)表ハ海員ノ雇入ヲ更新シ又變更スル時ニ用ユルモノニシテ其ノ時日、場所、要旨ヲ記入シ同ク雇者被雇

者ノ署名捺印ヲ爲シタル上公認ヲ受クルニ供ス

一、(六)表ハ一旦海員ノ雇入ヲ了リタル後更ニ補充又ハ追加シタルトキ公認ヲ受クル爲メ設ケタルモノニシテ(三)表ト均ク雇入ノ場所、時日及期間ト海員ノ住所、職務、給料等ヲ記入シ雇者被雇者ノ署名捺印ヲ要ス

海員名簿ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ、船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り、之ニ公認申請書、海員ノ海技免狀、船員手帖(現存スルトキ)ヲ添ヘテ管海官廳ニ差出シ、成規ノ手数料(被雇者一人ニ付五錢)ヲ納メテ公認ヲ受クヘキモノトス、

(三) 屬具目録 (Inventory of Equipments)

此ノ目録中ニ掲クル屬具ハ、法律上本船ノ從物ト看做サルヘキモノニシテ、船舶附屬ノ物品中、如何ナル種類マテ屬具目録ニ記入スヘキヤハ、法令ニ於テ特ニ指定スル所ナキモ、船舶検査規程等ニ依リ之ヲ推測スレハ、大約左ノ如キモノト思惟シテ大過ナカルヘシ、而シテ該規程ニ於テハ、遠洋航船、近海航船、沿海航船等航路ノ定限ニ應シ、甲板機關兩部ニ關スル屬具ノ備付員數ヲ指定セリ、
(第七章第
三)參看

(甲) 甲板部ニ屬スルモノ

一、檣、帆、帆架及他ノ圓材、綱具

一、鎗、鐵鑽、揚鐵機

一、大索、挽索

一、操舵具、起重機、電燈機

一、唧筒及附屬器

一、端艇

一、救命具(救命浮環、浮帶、烟)

一、旗章(國旗、社旗等)

一、船燈(檣燈、舷燈、碇泊燈)

一、信號器(紅燈、黑球、轟彈、火箭、烟管、露中號角、號鐘、信號旗、信號書)

一、測量器(羅針盤、時辰儀、六分儀、手持測程具、砂漏計、測程機械、手持測鉛、深海測鉛、測深機械、晴雨計、寒暖計)

一、雜具(時計、双眼鏡、消防用手桶、斧等)

一、圖誌(海圖、水路誌、航海曆、航海日誌、航路標識便覽、燈臺表、船名錄等)

(乙) 機關部ニ屬スルモノ

吸鑄環環、吸鑄發條、吸鑄螺釘及母螺、滑瓣錐、接續錐上下ノ螺釘、接續錐上下ノ黃銅、主軸受螺釘及母螺、接軸螺釘及母螺、曲拐軸、冷汽管、冷汽管填箍、排氣唧筒錐、排氣唧筒瓣、循環唧筒錐、循環唧筒瓣、給水唧筒瓣及座、制限瓣及座、塗水唧筒瓣及座、安全瓣發條、火床架、驗水器硝子、烟管、管擴器、管塞器、輔、滑車及綱、螺旋切道具、錐孔器、鐵砧、据付萬力、鐵板、鐵棒、螺釘及母螺、機關室用小道具、驗鹽器、寒暖計、機關日誌

(丙) 事務部及衛生部ニ屬スルモノ

船舶検査規程ニハ事務部及衛生部ノ屬具ヲ一モ指定セス、是等ノ屬具ハ元來船舶ノ種類ニ依リ船主ノ任意ニ備付クヘキモノニシテ、一旦法定ノ屬具目錄ニ記入セハ商法ノ規定ニ依リ本船ノ從物ト推定セラルヘキヲ以テ、之ヲ記入スルト否トハ一ニ船主ノ任意ニ在リト謂フヘシ、

而シテ屬具目錄ノ書式ハ二表ヨリ成リ、(一)表ハ屬具目錄ト題シ其他記載事項ハ前示海員名簿ノ(一)ニ同ク、(二)表ハ屬具ノ名稱、數量及記事ノ三段ニ分テ夫々列記スルニ供ス、

(四) 航海日誌 (Official Log)

是レ航海中ニ生シタル異常ノ事變并ニ船舶ノ發着ヲ證明スヘキ最モ必要ナル書類ニシテ、從來普通ニ使用セル船用航海日誌ト區別センカ爲メ、公用航海日誌ト通稱スルコト便宜ナラン、茲ニ書式ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ(詳細ハ前示省令第三號書式參看)

- 一、前後八表ヨリ成リ(一)表ニハ「航海日誌」、(二)表ニハ「官廳記事」ト題シ其ノ記載事項ハ海員名簿ニ同シ
- 二、(三)表ニハ本日誌ノ記載目次ト謂フヘキ左ノ十二ノ事項ヲ示ス
- 一、豫定ノ航路ヲ變更シタルコト

- 二、人命又ハ船舶ヲ救ヒタルコト
- 三、衝突其他ノ海難ニ罹リタルコト
- 四、豫定セサル港ニ寄港シタルコト
- 五、船舶ニ於テ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルコト
- 六、船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルコト
- 七、船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルコト
- 八、船員法第四十五條ニ依リ救助ヲ求メタルコト
- 九、船中ニ於テ犯罪アリタルコト
- 十、船中ニ於テ出生アリタルコト
- 十一、船中ニ於テ死亡アリタルコト及ヒ死亡者ノ遺産ヲ處分シタルコト
- 十二、其他船中ニ於テ異常ノアリタルコト
- 一、(四)表ニハ前(三)表中六、七、九、十一號等ニ該當シタル海員ニ付テ其ノ氏名、職務等ヲ記入スルニ供ス
- 二、(五)表ニハ「航海表」ト題シ航行中ノ發着港及其ノ日時ヲ記入ス
- 三、(六)表ニハ前(三)表中ノ事項發生シタルニ方リ其ノ發生ノ日時、場所、狀況等ヲ記入スルニ供ス
- 四、(七)表ニハ「出生」ト題シ出生シタル子ノ男女ノ別、出生ノ日時、場所ヨリ父母ノ氏名族籍等ヲ詳記シ、又(八)表ニハ「死亡」ト題シ死亡者ノ氏名、出生年月日、本籍地、死亡ノ日時、場所等ヲ詳記シ、兩表トモ船長及証人ニ調印シ、其ノ謄本ヲ戶籍吏ニ送付スルノ義務アルモノトス、

(五) 旅客名簿 (Passengers List)

是レ讀テ字ノ如ク乗船旅客ノ名簿ニシテ、二表ヨリ成リ(一)表ニハ「旅客名簿」ト題

シ前示書類ニ示セル事項ノ外旅客定員(一、二、三等)ヲ記入スルヲ要シ、(二)表ニハ旅客ノ氏名、國籍、住所、年齢、等級、乗船、下船ノ日時及港名ヲ記入スルヲ要ス、
(備考)

遞信者ニ於テハ前示(二)乃至(五)ノ書類ニ付キ、右ノ如ク一定ノ書式ヲ示セリト雖モ、船主ハ海事局ノ認可ヲ經タル上、更ニ欄ヲ設ケテ自己ノ必要ト認メタル他ノ事項ヲ記入スルコトヲ得、又航海日誌及旅客名簿ハ内國航行ノ船舶ニ限リ、海事局ノ認可ヲ經タル上、書式ニ定ムル事項ヲ便宜省略スルコトヲ得ヘシ、

(六)運送契約并ニ積荷ニ關スル書類

運送契約書ヲ始メ船荷證券(Bill of Lading)積荷目録(Manifest)等ハ、何レモ貨物ノ運送ニ關スル證據書類ニシテ、船舶出帆ノ際之ヲ用意シ置カサルヘカラス、運送契約ハ船主ト備船者トノ間ニ結フ契約ニシテ、其ノ書式條項固ヨリ一定スヘキ限ニアラス、船荷證券ハ船長ノ控トシテ謄本一通ヲ船内ニ備置クモノニシテ、其ノ記載事項ハ後文ニ詳ナリ、積荷目録ハ船舶ノ實際積載シ居ル貨物ノ種類、數量等ヲ明ニスルモノニテ船舶ノ名稱及國籍ヨリ貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、個數、數量、并ニ荷受人ノ氏名ヲ記載シ、入港ノ際税關ニ差出スヘキモノトス、

(七)税關ヨリ交附シタル書類

是レ船舶ニ對スル出港免狀(Certificate of Clearance)貨物ニ對スル輸出免狀(Export-Permit)等ヲ謂フモノニシテ、何レモ外國通船舶ノ爲メ開港場ノ税關ヨリ交附スル免許狀ナリ、

(八)船舶検査證書(Certificate of Vessel's Survey)

是レ船舶カ遞信大臣ノ定ムル船舶検査規程ニ合格シ、一定ノ限度ニ於テ安全ナル航海ニ適スルコトヲ證明スル船舶資格證明書トモ看做スヘキモノニシテ、證書面ニハ船舶ノ名稱、定繫港、登簿噸數、船主、船長ノ氏名、航路ノ定限、航行ノ有効期間、旅客ノ定員、汽機、汽鑪ノ種類、汽壓ノ制限、端艇ノ隻數等ヲ記入シアリ、總テ日本ノ船舶ハ外國ニ於テ之ヲ新造又ハ購入シタル場合ノ如ク已ムヲ得サル事由アルニ非サルハ、成規ノ検査證書ヲ備ヘスニ航行スルヲ得ス、若シ之ヲ犯ストキハ罰金ヲ課セラレヘシ、

外國ニ航行スル船舶ハ通例右ノ検査證書ヲ英譯シ、當該官廳ノ承認ヲ受ケタルモノ

ヲ所有スルノ常ニシテ、海外諸港ニ於テ噸税ヲ支拂ヒ旅客ヲ乗船セシムル等ノ場合ニハ此ノ證書ヲ利用スルノ便アリ、其他日本船舶中英國「ロイド」協會検査員ノ検査ヲ受ケ、等級ヲ定メテ同協會船名録ニ編入セラレ、其ノ資格ヲ証明スル所謂「ロイド」検査證書ヲ受有スルモノモ亦尠ナカラス、此ノ證書ニハ船名、定繫港、噸數、船主、船長ノ氏名、検査期限ニ關スル規定等ノ外本船ノ航海ニ適シ、貨物ノ運送ニ堪フル旨ヲ記入シアリ、旅客定員ニ付テハ、別ニ記載スル所ナキモ「ロイド」協會カ世界ノ海運社會ニ於ケル信用ノ高キヨリ、自然其ノ証明シタル本船ノ資格ニ信用ヲ繫キ、營業上之カ爲ニ裨益スル所頗ル多シト云フ、

(九) 船舶健全證書 (Bill of Health)

外國ニ航行スル船舶ハ發航前其筋ヨリ健全證書ヲ申受ケ之ヲ船内ニ備置クノ常ニシテ、航路ノ狀況ニ應シ日本海港檢疫所又ハ本船ノ向テ航行セント欲スル邦國ノ駐在領事ニ就キ、成規ノ手数料(海港檢疫所ノ分ハ五圓ナレトモ外國領事ノ分ハ國ニ依リ多少ヲ異ニス)ヲ納メテ之ヲ申請スヘシ、例ヘハ郵船會社ノ歐洲航船ハ英、佛、伯耳義ノ三國ヲ經由スヘキヲ以テ、橫濱及各寄港地

出帆ノ前ニ、其地駐在ノ右三國領事ヨリ一々健全證書ヲ申受クヘキカ如シ、而シテ此ノ證書ハ當時出帆港ニ傳染病ノ流行ナク且ツ本船ノ健全ナルコトヲ証明スルモノニシテ、海外諸港ニ入港ノ際之ヲ港長其他ノ當事者ニ示セハ、檢疫上ノ煩累ヲ避クルノ便利アルヤ論ヲ待タサルナリ、

第五 準備金

船舶一タヒ航海ノ途ニ上ルトキハ、必スヤ中途ニ於テ船用品ノ購入、船主其他關係者トノ通信、海員ノ雇入雇止等ノ爲メ、多少ノ現金支拂ヲ要スルモノアルハ明ニシテ、從テ是等ノ必要ニ應スル爲メ發航前相當ノ準備金ヲ用意セサルヲ得ス、彼ノ航海ニ關スル必要ノ經費ト看做スヘキ噸税、燈台税、稅關手数料、水先案内料、挽船料等ノ如キモ、支店又ハ代理店ノ設アリテ本船ニ代リ支辨スルニ非サル以上ハ自然本船ヨリ支拂ヲ要シ、其他船員ノ給料及諸手當金ノ如キモ本船ヨリ臨時支拂ヲ要スル場合ナキニ非サルヘシ、而シテ船中取運賃ヲ始メ船内一切ノ收入金ハ之ヲ右準備金ニ繰込ムノ例ニシテ、若シ多額ニ過ルトキハ船主又ハ支店ニ返納シ、不足ヲ生スルトキハ之カ補給ヲ請求スヘキコト

亦當然ト知ルヘシ、

第十八章 航海中ノ業務

第一 業務ノ大要

船舶一タヒ灣頭ヲ離レ波ヲ蹴リ風ヲ凌キ萬里ノ鵬程恙ナク彼岸ニ着セントスルニハ、諸般ノ業務ヲ執行シ萬遺憾ナキヲ期セサルヘカラス、是等ノ業務タルヤ種々錯雜シ、且ツ時ニ臨ミ場合ニ應シテ其様ヲ異ニシ、固ヨリ一々枚舉スルニ遑アラスト雖モ、海難、修繕又ハ戰爭ノ如キ不時ノ場合ニ處スル手段ハ之ヲ他ノ章ニ譲リ、茲ニハ唯、航海中ニ於ケル普通ノ業務一班ヲ掲ケント欲ス、即チ出港ノ際（入港ノ時亦同シ）ニハ船長ハ必ス船橋ニ在リ機關長ハ必ス機關室ニ在リテ各自部下ヲ指揮シ、爾餘ノ海員亦各、其ノ持場ニ就テ職務ヲ執ルノ常ニシテ、徐々港外ニ出テ針路ヲ一定シ諸事整頓スルニ至レハ、甲板部及機關部ニ成規ノ通り當座ヲ置キ、當直連轉士ハ本船ノ進退ニ關スル命令ヲ、當直機關士ハ機關ノ連轉ニ關スル命令ヲ、一々遵守スルト共ニ、各自其ノ部下ヲ指揮シテ所要ノ業務ニ服セシメ、看守ハ終始一定ノ場所ニ駐マリテ四方ヲ見張り、而シテ港灣ヲ出入スルトキ、又ハ狹隘ナル水路ヲ通航スルトキノ如ク危險ノ虞アル場合ニ臨テハ、船長

自ラ船橋ニ出テ、本船ヲ指揮スヘキモノニシテ、船長ハ又常ニ航路ノ安全ヲ圖リ航海具ノ整否ニ注意シ、本船ノ位置、速力、水深ノ測量、氣象ノ觀測等ヲ怠ラス、時ニ水先人ヲ雇用シタリトテ自己ノ責任ヲ輕減スヘキモノト思惟スヘカラス、又機關長ハ終始船橋トノ聯絡、機關ノ現狀ニ注意シ、自ラ當直セサル時ト雖モ時々機關室ヲ巡視シテ必要ノ命令ヲ與フヘキコト、恰モ甲板部ニ於ケル船長ノ如クナルヘシ、其他船内各部ノ人員ニハ地位ノ高低、資格ノ優劣ニ依リ夫々業務ノ分擔アリ、各自其ノ擔當スル業務ニ從事シ、以テ日夜ノ航海ヲ持續スルモノト知ルヘシ、

帝國軍艦職員勤務令ノ綱領第五ニ所謂留意スヘキ本領ナルモノヲ掲ケテ曰ク、

(甲)同等の機械を以て闘ひ而して他に勝つは人の力なり人力の大本は忠君愛國の精神なり軍事教育の主眼は技術と共に此の大本を養成するに在り

(乙)此の精神は延て國利民福を進むると共に自己の榮達を資くるの途なり

(丙)衝突豫防の第一義は嚴密なる見張を爲すに在り

(丁)航路の安全に關しては頼むべきものは圖誌なり雖も實際の過失は多く圖誌の妄信に由來す而して又自己の所信の動搖するときは是れ宜しく止るべき時期なりとす

(戊)各種の障礙に應ずるの準備は自ら障礙を遠ざくる道なり

蓋シ右ノ數句ハ、亦移シテ以テ商船職員ノ業務ニ關シ、綱領ト爲スニ足ルモノナリ、

以下更ニ甲板、機關部ニ屬スル主要ノ業務ニ付キ、項目ヲ別テ順次説明セント欲ス、

第二 船長船橋ニ在ルヘキ場合

船長ハ一船ノ首領ニシテ、船内ノ人命財産ニ關スル責任ヲ双肩ニ擔ヒ船内一切ノ業務ヲ統括スルモノナレハ、假令一時一刻ノ間ニセヨ、苟モ疎愚懈怠ノ所業アルヘカラスヤ當然ナリ、而シテ本船ノ運航ニ關スル日常ノ業務ハ、甲板部ニ屬スルモノハ、當直運轉士ニ委任シ、機關部ニ屬スルモノハ當直機關士ニ委任シテ、苟モ危險ノ虞アル場合ニ於テハ、當直運轉士ヲ置クニモ拘ラス必スヤ自ラ船橋ニ在リテ本船ヲ指揮シ、以テ航海ノ安全ヲ圖ルコトヲ努メサルヘカラス、船員法第十七條ニ曰ク、

船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ、其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

即チ夜間陸地ノ近傍ヲ航行スルトキ、又ハ航行中濃霧其他不良ノ天候ニ際會スルトキノ如キモ、當然右ノ法規ニ包含スルモノニシテ、其他針路ノ變更、速力ノ増減ノ如キ、亦一船ノ安危ニ取り重大ノ關係ヲ有スルモノナレハ、之カ命令ヲ下スノ際船長自ラ船橋ニ在ルコトヲ要スルヤ勿論ノ事トス、

第三 命令簿 (Night Order Book)

前項ニ示ス所ニ反シ船舶ニ危険ノ虞ナキ場所ヲ航行スルトキハ、船長ハ就眠、休息若クハ船内巡視ノ爲メ、船橋ヲ去リ當直運轉士ニ運航ヲ委任スルコトヲ得ヘシ、此際ハ豫メ夜間命令簿ナルモノニ、當ニ執ルヘキ針路并ニ航海ノ必要ナル命令ヲ自ラ明確ニ記載シテ(其他毎夜八時ニ本船ノ位置ヲ測定シ之ヲ命令簿ニ記入スルノ例ナリ)、之ヲ當直運轉士ニ交附シ、該運轉士ハ此ニ依テ本船ノ運航ヲ爲スヘキモノトス、此ノ命令簿ニハ數箇條ノ通則 (Standing Order) ヲ卷首ニ掲ケ、以テ航海中ニ於ケル當直運轉士ノ心得并ニ船長ヲ呼起シテ更ニ命令ヲ受クヘキ場合等ヲ規定スルヲ常トス、試ニ其ノ一例ヲ舉クレハ左ノ如シ、

命令簿通則

一、當直運轉士ハ相當ノ交代者ヲ得ルニ非サレハ須臾モ船橋ヲ離ルヘカラス

- 二、總テ本船ノ針路ハ原基羅針盤ニ據リ之ヲ定ム當直運轉士ハ特ニ船長ノ命令ヲ受ケタル場合ニ非サレハ針路ヲ變更スヘカラス
- 三、當直運轉士ハ時機ヲ得ルトキハ必ス太陽ノ方位角 (Azimuth) 及出沒方位 (Amplitude) ヲ測リ以テ羅針盤ノ誤差ヲ照査シ差異ヲ發見シタルトキハ直ニ其旨ヲ船長ニ報告スヘシ
- 四、當直運轉士ハ夜間成規ノ各船燈カ何レモ明瞭ニ光輝ヲ放チ居ルヤ否ヤニ注意シ且ツ當雷舵取チシテ少ナクモ三十分毎ニ燈光ノ現狀ヲ報告セシムヘシ
- 五、一定ノ看守ヲ船首部ニ置キ嚴ニ本船ノ進路ヲ見張ラサシメ船舶、燈光、陸地等ヲ認メタルトキハ直ニ船橋ニ報告セシムヘシ
- 六、當直運轉士ハ海上衝突豫防法ノ各條項ヲ遵守シ暴風又ハ暗黒ノ天候ニ於テハ特ニ警戒ヲ嚴ニスヘシ
- 七、當直運轉士ハ可成屢次本船ノ位置ヲ測定シ著名ノ岬角、燈臺等ヲ通過スルトキハ必ス其ノ方位及距離ヲ測ルヘシ
- 八、當直運轉士ハ降雪、降雪等ノ天候ノ變化アリタルトキ又ハ他船ニ接近シタルトキハ直ニ船長ヲ呼フヘシ
- 九、當直運轉士ハ急迫ノ場合ニ臨ミ船長ノ命令ヲ請フノ違ナキトキハ自己ノ判斷ヲ以テ機關ノ停止、後退若クハ針路ノ變更等臨機應急ノ處置ヲ施スヘシ但シ可成速ニ船長ヲ呼フヘシ
- 十、一等運轉士ハ毎夜壹回船内各部ヲ巡視シ消防具ヲ始メ其他夜間ノ航海ニ諸事整頓シ居ルヤ否ヤヲ検査シ船長ニ報告スヘシ

第四 航路ニ關スル注意

(一) 海圖及水路誌ノ撰用

航海中ノ指針トモ稱スヘキ海圖及水路誌ハ、本邦近海ニ於テハ必ス帝國海軍水路部發刊ノモノヲ用ヒ、其他ノ方面ニシテ未タ該水路部ノ精測ヲ經サル部分ニ於テハ、外國(中ニモ英國海軍水路部出版)ノモノヲ用フヘシ、而シテ何レモ最近ノ刊行ニ係ルモノヲ選擇スヘキハ勿論ノ事トス、又右圖誌中淺灘(英國海圖ニハ Patch 又ハ Shoal)ト記シ點線又ハ尋線ヲ以テ之ヲ區別シタル部分ハ、例令船脚以上ノ水深ヲ有スル場所ニセヨ、特ニ通航スルヲ得ヘシトノ明文アルニ非サレハ之ヲ通航スヘカラスト心得ヘシ、

(二) 航路及通航時間ノ撰定

我カ瀬戸内ノ諸海峽又ハ他ノ狹隘ナル水路ヲ通航スルトキハ、常ニ安全ナル航路ト安全ナル時間トヲ撰フコトヲ要ス、即チ瀬戸内ヲ通航スル船舶カ、來島海峽ノ捷路ヲ取ラスシテ北航路(三原瀬戸)ヲ迂廻スルハ、安全ナル航路ヲ撰フ所以ニシテ、又下ノ關海峽ヲ通航スル船舶カ殊更ニ夜間ヲ避ケ、或ハ上海行并ニ太沽行ノ船舶カ(一ハ吳淞門洲^{ウソンバイ}一ハ太沽門洲ヲ乘リ越ス爲メ)河口ニ於テ特ニ滿潮ノ時刻ヲ待チ居ルハ、何

レモ安全ナル時間ヲ撰フ所以ニ外ナラス、彼ノ徒ラニ速達ヲ希望スル餘リ、通航時間ヲ短縮シ若クハ之ヲ線上ケ以テ危險ヲ冒スカ如キハ最モ警ムヘキ所ニシテ、些少ノ利益ヲ得ント欲シテ遂ニ救済スヘカラサル莫大ノ損失ヲ醸スコト其例乏シカラス、豈ニ慎マサルヘケンヤ、

(三) 陸地、岩礁等ノ近傍ヲ航行シ又ハ未測港等ニ入港スルトキ

陸地、岩礁、淺瀬等ノ近傍ヲ航行シ又ハ海上ニ於テ濃霧、降雪其他暗黒ノ天候ニ際會スルトキハ、須ク機關ノ運轉ヲ緩メ且ツ絶エス水深ヲ測量シツ、進行スヘシ、又測量未済ノ港若クハ船舶ノ出入稀ナル港ニ入港スルトキハ、先ツ端艇ヲ案内ト爲シ、精密ニ航路ヲ測量セシメタル後進行スヘシ、

(四) 水先人ヲ雇用スルトキ^(第十六章參看)

船長ハ水先區其他航路不案内ノ場所ニ於テハ、水先人ヲ雇入レ水路ヲ嚮導セシムルコトヲ得ヘシ、此ノ場合ニハ船長又ハ一等運轉士船橋ニ在リテ水先人ノ行爲ニ注意シ、苟モ本船ノ爲メ危險ト認ムル以上ハ責任ヲ以テ干涉スルモ可ナリ、而シテ船長ハ免許

水先人ヲ雇用シタル際ナリトテ、之ガ爲メ船主ニ對スル自己ノ責任ヲ輕減スルコトナキモノト思惟シ萬注意ヲ怠ラサルヲ要ス、

(五) 衝突豫防ノ注意

船舶ハ常ニ海上衝突豫防法ノ各條項ヲ遵守シ、暗黒ノ天候ニ際會スルトキノ如キハ殊ニ警戒ヲ加フヘキコト勿論ナリトス、蓋シ衝突豫防法ハ海員試驗課目中ノ重ナル一科ニシテ船燈、速力、航法及信號ニ關スル全篇三十餘條ノ規定ハ、苟モ運航ヲ掌ル海員ノ業己ニ暗知スヘキ所ナルニモ拘ラス、衝突接觸等ノ災害常ニ跡ヲ絶タサルモノハ何ソヤ、熟々内外衝突事件ノ真相ヲ察スルニ、其ノ基因スル所、多クハ豫防法ヲ知ラサルニ在ラスシテ寧ロ之ヲ等閑ニ附スルニ在リ、又天災不可抗力ニ在ラスシテ寧ロ人事ノ盡クサ、ルニ在ルカ如シ、試ニ一二ノ例ニ付テ之ヲ言ヘハ、濃霧其他暗黒ノ天候中海上ヲ航行スルトキ(特ニ狹隘ナル水路ヲ通航スルトキ)ハ速力ヲ緩メテ徐行スヘキ筈ナルニ、萬一ヲ僥倖シテ之ヲ怠リ依然高速力ヲ持續シテ駛走スルカ如キ、又漁舟其他ノ小帆船カ我カ針路ヲ橫切ルノ時ニ際セハ、我ヨリ適宜針路ヲ變更シテ危險ヲ避ク

ヘキ筈ナルニ、相手方ヲ輕蔑シテ之ヲ爲サ、ルカ如キハ、往々行ハル、弊風ニシテ一旦危急ニ迫リ衝突ノ殆ト避クヘカラサルヲ見ルニ及テ、倉皇應急ノ處置ヲ施スト雖モ事已ニ晚ク、機關ノ停止モ後退モ全ク無効ニ歸スルモノ比々皆然ラサルハ莫シ、其他陸地近傍ニ在リテ濃霧ニ出逢ヒ、又ハ暗夜潮流急激ノ場所ヲ通航スルトキノ如キハ、本船ノ正確ナル位置ヲ測定シ難ク却テ海圖水路誌ノ適用ヲ誤リ易キノ常ナルヲ以テ、極テ慎重ノ注意ヲ用ヒ終始看守ヲ嚴ニシ四周ノ水深ヲ測量スヘキハ勿論、或ハ船ノ進退ヲ踟躕シ或ハ遠ク沖合ニ出テ、危險ヲ避クヘキ筈ナルニ、惜ムラクハ船長ハ斯ル際ニ自己ノ推測ヲ過信シテ輕々シク針路ヲ定ムルノ傾向アリ、遂ニ端ナク暗礁ニ乗揚ケ又ハ他船ニ衝突スルコト尠ナシトセス、要スルニ是等ノ忌ムヘキ弊風ハ、何レモ豫防準備ノ時機ヲ失シ延テ莫大ノ損害ヲ惹起スヘキモノナレハ、世ノ航海ヲ業トスル者、須ク這般ノ機微ニ鑑ミ深ク自ラ戒ムル所ナカルヘカラス、

(六) 航路ノ變更

不良ノ天候其他已ムヲ得サル事由ノ爲メ、船長ノ見込ヲ以テ豫定ノ航路ヲ變更シ若

クハ豫定セサル港ニ寄港シタルトキハ、法令ノ定ムル所ニ依リ猶豫ナク其ノ事情ヲ具シテ管海官廳ニ届出ツヘキハ勿論、是等ノ事實ハ時トシテ運送契約ノ上ニ利害ノ關係ヲ生スヘキモノナルヲ以テ、右ト同時ニ船主ニモ報告スルノ必要アリトス、

第五 原基羅針盤及時辰儀取扱方ノ注意

原基羅針盤ハ船舶ノ針路ヲ定ムル標準ニシテ、時辰儀ハ船舶ノ位置（即チ經緯度）ヲ實測スル基本ナリ、兩者何レモ航海要具中最モ重要ナルモノナルヲ以テ、船長ハ常ニ之ヲ取扱方ニ注意シ、若シ誤差アルトキハ直ニ之ヲ記録シ置キ依テ以テ調整スルコトヲ怠ルヘカラス、

又羅針盤ニ付テハ少ナクモ毎年一回本船ヲ回轉シテ其ノ自差ヲ測リ、自差表ヲ作り置クヘキモノニシテ、其他船舶ノ修繕、改造又ハ鐵材ヲ船積シタル爲メ、不時ニ羅針ニ感應ヲ及ホスヘキ虞アル場合ニハ、其ノ都度自差表ヲ調整スルコト亦肝要ナリトス、

第六 本船ノ位置及速力ノ測定(一)、海上氣象ノ觀測(二)、航路標識ノ異狀(三)、及海圖水路誌ニ關スル新發見(四)

(一)總テ船舶ノ航海中ハ出來得ル限リ屢々本船ノ位置(實測ハ船長自ラ之ヲ爲シ又方位ノ測定ハ當直運轉士ニ命スルノ例ナリ)及速力ヲ測ルヘキモノナルハ勿論、(二)公益ニ對スル義務トシテ海上氣象ヲ觀察シ、其ノ結果ヲ中央氣象臺ニ報告スルヲ要ス、此ノ報告書ニハ觀測ヲ爲シタル日時、場所ヲ始メ風及潮流ノ方向速度、波ノ方向高低、雲ノ方向分量、海水ノ溫度比重、天候、溫度等ヲ詳示スヘキモノニシテ、以テ海上氣象學ノ研究ニ資スヘシ、又(三)航海中燈臺ノ燈光不明ナルコトイ、霧中信號ノ音響正當ナラサルコトロ、其他航路標識ニ異狀アルコトヲ發見シタルトキハハ、速ニ其ノ詳細ヲ具シテ航路標識管理所ニ報告スヘシ、其他(四)海圖或ハ水路誌ニ誤謬アルコトイ、又ハ該圖誌ニ記載ナキ岩礁、淺瀬、島嶼アルコトヲ發見シタルトキロハ、實測又ハ略測ヲ爲シ其ノ得タル圖面ヲ添ヘテ速ニ詳細ヲ海軍水路部ニ報告スルノ義務アリ、要スルニ是等諸般ノ義務ハ何レモ航海ノ安危ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナレハ、世ノ船長タルモノハ誠心誠意ヲ以テ之ヲ履行スルコトニ心懸ケサルヘカラス、

第七 甲板部當直及當直員ノ職責

(一) 當直ノ組織

甲板部ノ當直ハ通例左舷直 (Port Watch) 右舷直 (Starboard Watch) ノ二直ニ區別シ、一等運轉士ハ左舷直ヲ監督シ、二等運轉士ハ右舷直ヲ監督シ、乗組水夫 (一等、二等、若水夫等) ノ等級ニ應シ適宜平等ニ區分シテ兩直ニ附屬セシム、當直ハ大抵四時間毎ニ交代スルモノニシテ左ノ如キ名稱アリ、

- 一番直 毎日午後八時ヨリ夜半十二時ニ至ル
- 夜半直 夜半十二時ヨリ翌午前四時ニ至ル
- 朝直 午前四時ヨリ同八時ニ至ル
- 午前直 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
- 午後直 正午十二時ヨリ午後四時ニ至ル
- 夕直 午後四時ヨリ同八時ニ至ル

一等及二等運轉士ハ部下ノ當直員ヲ率井前示ノ當直時間ヲ交互順番ニ勤務シ、若シ船長ノ見込ニ由リ三等運轉士ニモ當直ヲ命スルトキハ、該運轉士ハ如何ナル海技免狀ヲ受有スル者ニセヨ、其ノ船舶ニ於テハ職員法ニ謂ユル職員ニ非サルヲ以テ公ケノ責任ヲ負ハシムルコト能ハス、故ニ此際ハ船長モ共ニ船橋ニ出テ、指揮監督ヲ爲シ、結

局其責ニ任スルノ覺悟アルコトヲ要ス、而シテ今日二三千噸以上ノ船舶ニ於テハ、大概三人以上ノ運轉士ヲ乗組マセ、此ノ三直法ヲ採ルノ習慣ニシテ、從テ乗組水夫ヲモ平等ニ三分シ各ノ所屬ヲ定ムヘキハ當然ノ事ト知ルヘシ、

(參照)

英國彼阿汽船會社ニ於テハ三直法ヲ採リ、一等運轉士ハ朝直及夕直ニ當リ、二等運轉士ハ午後直及夜半直ニ當リ、三等運轉士ハ午前直及一番直ニ當ルノ慣例ニシテ、船長ハ別ニ一定ノ當直ヲ爲サス、四等以下ノ運轉士ニ付テハ必要ナル場合ニ限リ上級ノ運轉士ニ從ヒテ當直ヲ爲サシム、

(二) 當直ヲ置クヘキ場合

航行中ハ常ニ甲板部當直ヲ置クヘキモノニシテ、碇泊中ト雖モ外國ノ港灣ニ在ルトキイ、天候ノ不良ナルトキロ、風波ノ隱蔽ナキ露開ノ場所ハ、或ハ潮流ノ急激ナル場所ニ在ルトキニノ如キハ、甲板部ニ成規ノ通り當直ヲ置クコト肝要ナリ、

(三) 當直運轉士ノ職責

(イ) 職員一班

當直運轉士ハ常ニ船橋ニ在リテ安リニ之ヲ去ルヘカラス、其ノ本務ヲ括言セハ、

- (一) 船舶ノ運航ニ關シ船長ノ與フル命令ヲ執行シ、(二) 部下ノ當直員ヲ指揮監督シテ各其ノ業務ニ服セシメ、(三) 甲板部當直日誌ノ記入ニ付テ責ヲ負フモノトス、
- (ロ) 命令ノ遵守

當直運轉士ハ船長船橋ニ在ルトキハ直接ニ命令ヲ承クヘキモ、船長若シ船橋ヲ去リ就眠休息スルトキノ如キハ、豫メ命令簿ニ必要ナル命令ヲ記載シ置クノ常ナルヲ以テ一々之ヲ遵守スヘシ、又命令簿ニ依リ船長ヲ呼び起シ或ハ船長ニ通知スヘキ場合ニ至ルトキハ、必ス之ヲ履行シテ更ニ其後ノ命令ヲ承ケ、苟且ニモ獨斷ヲ以テ輕卒ノ處置ヲ爲スヘカラス、今當直中船長ヲ呼び起シ或ハ船長ニ通知スヘキ場合ヲ示セハ先ツ左ノ如シ、

- 一、他船、燈光、陸地、嶋嶼等ヲ認メタルトキ
- 二、天候變化ノ徵候アルトキ
- 三、本船ニ不時ノ故障ヲ生シタルトキ
- 四、其他異常ノ事アルトキ

(ハ) 急迫ノ場合

右ノ如ク當直運轉士ハ一々船長ノ命令ヲ仰キ之ヲ履行スヘキモノナレトモ、本船又ハ人命カ危険ニ瀕スル場合ノ如ク、事急ニシテ船長ノ命令ヲ請フノ違ナキトキハ、固ヨリ自己ノ責任ヲ以テ臨機應急ノ處置ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ノ事ニシテ、斯ル場合ニハ事後直ニ船長ニ報告スルヲ要ス、

(ニ) 舵取及看守ノ監督

當直運轉士ハ部下一同ノ配置及役務ヲ監督スヘキコト勿論ナレトモ、中ニモ舵取ノ操舵方並ニ看守ノ見張方ニ注意シ以テ針路ノ正當、見張ノ精確ヲ期スヘシ、

(ホ) 船燈ノ監視

當直運轉士ハ夜間本船ノ檣燈(Masthead Light)及舷燈(Side Lights)カ正シク光輝ヲ放ツヤ否ヤニ注意シ、船首ノ看守ヲシテ時々(少ナクモ三十分毎ニ)燈光ノ現狀ヲ報告セシムヘシ、又碇泊燈(Anchor Light)ハ當直運轉士ヲ置ク場合ニハ該運轉士自ラ監視スヘキモ、之ヲ置カサル場合ニハ舵取ヲシテ監視セシムルモノトス、

(ヘ) 速力、位置、漏水等ニ關スル注意

當直運轉士ハ(一)本船速力ノ正確ヲ期スル爲メニハ、測程機械及手用測程具ヲ併用シ、(二)本船ノ位置ヲ詳ニスル爲メニハ、航行中船長實測ノ補助ヲ爲スヘキハ勿論、沿岸ヲ航行スルトキノ如キハ山嶽、岬角、燈臺等ノ目標ニ付テ交叉方位又ハ四點方位及其ノ距離ヲ測ルコト必要ナリ、又(三)船内漏水ノ有無ヲ確メンカ爲メニハ、少ナクモ航行中ハ當直交代毎ニ碇泊中ハ毎日二回淦水溜ノ水量ヲ檢測シ、殊ニ諸水槽又ハ二重底ニ水ヲ容ル、際ハ屢之カ檢測ヲ爲シ、若シ淦水増加スルノ徵アルトキハ直ニ送水ヲ停止シ同時ニ船長ニ報告スヘク、(四)其他船底漏水ノ憂ヲ豫遏センカ爲メニハ、少ナクトモ毎日一回各支水隔壁ノ嘴子及支水瓣ノ動作ヲ試ミ其ノ完否ヲ船長ニ報告スヘシ、

(ト)碇泊中ノ注意

船舶碇泊スルトキハ陸上ノ目標ニ付キ、交叉方位ニ依テ其ノ位置ヲ測定シ置キ、本船ノ移動ニ注意スヘシ、碇泊中風雨ニ際會スルトキ又ハ露開ノ場所若クハ潮流ノ急激ナル場所ニ碇泊スルトキノ如キハ、右測定ヲ爲スノ外、測深具ヲ投下シ且ツ強

索ヲ以テ浮標ヲ錨ニ繋キ置ク等ノ用意ヲ爲スト共ニ、錨及錨鎖ノ現狀、晴雨計ノ昇降等ニ注意シ決シテ警戒ヲ怠ルヘカラス、

(チ)交代

當直運轉士當直ヲ終リ交代スルトキハ、現在ノ針路、速力、位置等ヲ後直者ニ告ケ、且ツ當直中口頭又ハ命令簿ニ依リ與ヘラレタル命令ヲ漏ナク傳へ、命令簿及當直日誌ニ自ラ記名シテ後直者ニ引繼クヘシ、

第八 看守 (Look-Out)

船舶ハ航行中ナルト碇泊中ナルトヲ問ハス、晝夜ノ別ナク絶エス船首、船尾又ハ舷門ノ如キ適當ノ場所ニ、看守ヲ置キ四方ヲ見張ラシメ、若シ異様ノ物件ヲ認ムルトキハ直ニ其旨ヲ當直運轉士ニ報告セシメ、以テ本船ヲ警戒スヘキモノニシテ、而モ狹隘ナル水路ヲ通航スルトキ(一)、夜間陸地、岩礁又ハ淺瀬ノ近傍ヲ航行スルトキ(二)、本船ノ針路ニ方リ黒煙、燈火若クハ障碍物ヲ認メタルトキ(三)、航行中濃霧其他暗黒ノ天候ニ際會スルトキ(四)ノ如キハ、檣頭ニモ亦看守ヲ置キ、特ニ警戒ヲ嚴重ニシ萬一ノ危険ニ備フルコト

肝要ナリ、

第九 機關長ノ機關室ニ在ルヘキ場合

機關長ハ船長監督ノ下ニ機關部一切ノ業務ヲ掌理シ、船長ニ次テ重大ナル責任ヲ有スルモノナレハ、航海中ト碇泊中トヲ問ハス時々機關部各室ヲ巡視シテ部下ノ業務ヲ監督スヘキハ勿論、殊ニ機關ハ汽船發動ノ源ニシテ、其ノ一端ノ故障モ乍チ本船ヲ不用ニ歸セシメ或ハ危地ニ陥ラシムル虞アルモノナルヲ以テ、終始周到ナル注意ヲ要シ、自ラ當直ヲ爲サ、ル場合ト雖モ時々機關室ニ出入シテ監督ヲ怠ルヘカラス、而シテ左ノ如キ場合ニ於テハ、機關長ハ必ス機關室ニ在リテ自ラ機關ノ運轉ヲ指揮スヘキモノトス、

- 一、港灣ヲ出入スルトキ
 - 二、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ
 - 三、機關ヲ發動シ又ハ停止スルトキ
 - 四、試運轉ヲ行フトキ
 - 五、濃霧其他不良ノ天候ニ際會スルトキ
- 元來機關ノ運轉ハ船橋ヨリ與ヘラル、命令ニ從ヒ之ヲ加減スヘキモノナレトモ、若シ

機關ニ不意ノ故障ヲ生シ至急ノ手當ヲ要スルトキノ如キハ、豫メ船長又ハ當直運轉士ニ事ノ次第ヲ通知セストモ、機關ノ運轉ヲ増減シ又ハ停止スルコトヲ得ヘシ、

第十 機關要部并ニ石炭庫等ニ關スル注意

汽機汽罐ノ各部分ハ均ク機關ノ運轉ニ關係ヲ有シ、其ノ現狀ニ付テ何レモ至重ノ注意ヲ要スヘキモノナレトモ、一々枚擧スルニ遑アラサレハ茲ニ其ノ大要ヲ説示スヘシ、

(一) 指壓圖ヲ寫シ取ル事

汽機ニ於ケル蒸氣ノ働カ即チ實馬力ヲ確知スルコトハ最モ必要ノ事ナルヲ以テ、少ナクモ毎月一回指壓器 (Indicator) ヲ巧ニ使用シテ指壓圖 (Indicator Diagram) ヲ寫シ取り、實馬力ヲ算出シ其ノ増減ヲ見テ汽機ノ完否ヲ詳ニスルヲ要ス、

(二) 蒸氣ヲ常用定度ニ保ツ事

聯成汽機ノ船舶ニ於テハ、蒸氣ヲ常用定度ニ保チ高度ノ膨脹力ヲ利用シ、以テ石炭ヲ節約スルコトヲ努ムヘシ、

(三) 一方ノ汽笛ニテ運轉スル事

聯成汽機ノ船舶ニ於テ一方ノ汽笛ニ故障ヲ生シタルトキハ、他方ノ汽笛ヲ以テ運轉スヘキモノナルヲ以テ、機關長ハ平素此ノ方法ヲ詳知シ事ニ臨テ巧ニ利用スルコトヲ圖ルヘシ、

(四) 曲拐軸、スラスト軸、中間軸、及螺旋軸

是等ノ諸軸ハ相待テ汽機ノ動力ヲ傳送スルモノニシテ、時々丁寧ニ現狀ヲ検査シ、若シ裂目腐蝕等ヲ發見シタルトキハ、直ニ之ヲ修繕スルカ或ハ新規引替フルコトヲ忽ニスヘカラス、

(五) 正副汽罐及加熱器 (Main and Donkey Boilers and Superheater)

是等ハ即チ汽機ヲ作動セシムル蒸氣ヲ發生スル源ナレハ、其ノ整否ハ忽チ機關ノ効力ニ影響シ、或ハ又汽罐破裂等ノ災害ヲ惹起スコトモ無キニ非サレハ、常ニ其ノ現狀ニ注意シ、汽罐掃除ノ際ニハ、綿密ニ内外ヲ検査シテ腐蝕ノ徴候ナキヤ否ヤヲ確ムヘシ、

(六) 安全瓣 (Safety Valve)

安全瓣ハ海事官カ船舶検査ノ際、汽壓制限ヲ定メ其ノ定度ニ於テ之ヲ封鎖シ、其ノ鍵ハ紙囊中ニ封入シテ船長ニ交附スルノ規則ナリ、若シ安全瓣ニ蒸氣ノ洩泄其他ノ故障アルカ爲メ封鎖ヲ解カサルヘカラサルトキハ、機關長ハ船長ヨリ鍵ヲ受取り解封ノ上適宜手當ヲ爲スヘシ、尤モ此ノ場合ニハ直ニ其ノ事由ヲ當該官廳ニ届出テサルヘカラス、而シテ安全瓣ノ整否ハ往々本船ノ安危ニモ關係スヘキヲ以テ、機關長新ニ乗船スル場合ニハ先ツ其ノ船ノ安全瓣ヲ一見シ、其ノ重壓ト常用汽壓定度トノ權衡ヲ得ルヤ否ヤ等ヲ検査スルノ必要アルヘシ、

(七) 驗汽器及驗空器 (Pressure and Vacuum gauges)

是レ亦以上列記ノモノト同様常ニ十分ノ注意ヲ加ヘ、其ノ指示スル壓力ニ誤ナキヤ否ヤヲ検査スヘシ、前示指壓器ニ依テ求メタル壓力ト比較シテ若シ誤差アルトキハ、直ニ調整ノ手續ヲ爲スヲ要ス、

(八) 石炭庫并ニ焚火室ノ附近

石炭 (殊ニ濕氣ヲ帶ヒタル石炭) ハ自然發火又ハ爆發ノ虞アルコト世人ノ能ク知ル

所ナレハ、機關長ハ時々石炭庫内ノ現狀ヲ検査シ、其ノ通風、繰替等ヲ怠ラシムヘカ
ラス、其他焚火室ニ接近スル場所ニシテ高度ノ熱ヲ受ケ易キ部分ニハ、其ノ危険ヲ豫
防スル爲メ亦相當ノ方法ヲ施スヘシ、

(九) 船底「セメント」

機關室及石炭庫ノ下部ナル船底「セメント」ハ頗ル減損シ易ク、從テ船底ニ腐蝕漏
水ノ個所ヲ生スル虞アルモノナルヲ以テ、時々其ノ現狀ヲ検査シ、掃除及防腐ノ手當
ヲ怠ルカラス、

(十) 船内機械類

左ニ掲クル機械類ハ、元來甲板部ノ使用ニ屬スルモノナレトモ、何レモ機械的ノ作
用ヲ有スルモノナルヲ以テ、機關部ニ於テ之カ保管整頓方ヲ擔當スルヲ常トス、故ニ
機關長ハ時々是等ノ現狀ヲ検査シ、何時ニテモ使用ニ差支ナカラシムヘキ様整備スル
コトヲ要ス、

- 一、海水、淡水、二重底、壓縮水槽、清水槽、雑用水槽等ニ用フル諸種ノ唧筒并ニ該唧筒ニ附屬スル管、嘴子、
弁、

- 二、蒸溜器、蒸化器、蒸米釜及暖室器
- 三、操舵機、揚錨機及起重機
- 四、通風機及凍冷機
- 五、各支水隔壁及石炭庫ニ設クル支水戸、支水弁
- 六、電燈機及其ノ附屬具
- 七、汽笛、汽笛及傳令機
- 八、其他船内有ラユル機械類

(十一) 凍冷機 (Refrigerator)

凍冷機ハ冷室ト之ニ附屬スル機械トヨリ成リ、冷室ニハ食料品ヲ貯藏シ永ク之ヲ保
存セシムルヲ目的トスルモノニシテ、今日新式ノ汽船ニハ大抵之カ設備アラサルハナ
シ、此ノ機械ノ取扱方ハ最モ注意ヲ要スルモノニシテ、若シ破損ノ爲メ用ヲ爲サ、ル
トキハ、冷室内ニ貯蓄スル多量ノ食料品ハ直チニ腐敗又ハ減損シテ莫大ノ損耗ヲ醸ス
ヘキハ勿論、冷室ヲ屢ニ開閉スルトキノ如キモ之カ爲メ亦均ク其ノ効力ヲ失フニ至ルヘ
シ、故ニ冷室ハ已ムヲ得サル場合ノ外ハ、内室ヲ開クハ一晝夜貳回以内、外室ヲ開クハ
全三回以内ニ止メ、内室ヲ開クトキハ必ス外室ヲ閉チ置クコト、爲シ、又可成開放ノ時

間ヲ短クシ一回ニ付決シテ十五分間ヲ超過スヘカラス、其他冷室用ノ鍵及凍冷機日誌ノ如キハ機關長自ラ之ヲ保管シ、該日誌ニハ夫々成規ノ記入ヲ爲スヘシ、

第十一 機關部當直及當直員ノ職責

(一) 當直ノ組織

船舶職員法ニ依レハ機關部ノ職員ハ大概機關長一人及一等機關士一人ト定メラレ、其ノ以上ノ機關士(免狀ヲ有スルモノ)ヲ乗組マシムルモ、公ケノ責任ヲ以テ當直ヲ爲サシムルコト能ハサルカ故ニ、若シ二等以下ノ機關士ニ當直ヲ爲サシムルトキハ、機關長ハ飽迄其ノ責ニ任セラルヘカス、而シテ機關部ニ於テモ部員ノ員數及資格ニ應シ二直又ハ三直ニ適宜平分シ、交互當直ヲ爲サシムルハ猶ホ甲板部ノ如シ、

(二) 當直ヲ置クヘキ場合

航行中ハ甲板部ト均ク機關部ニモ當直ヲ置キ、碇泊中ト雖モ汽罐ノ埋火ヲ爲シテ蒸氣ヲ貯フルトキイ、或ハ汽罐ノ火ヲ消シタルトキ(此ノ場合ハ相當ノ時限内ニ止メテ可ナリ)(ロ)ハ亦成規ノ當直ヲ置クヘシ、其他夜間ニ機關部ノ作業ヲ終リタル場合又ハ休業シタル日ニハ、仮ヒ別

ニ當直ヲ置カストスルモ特ニ「ランプ」、熱灰、海水嘴子、瓣等ニ注意シテ發火或ハ漏水ノ憂ナカラシムルヲ要ス、

(三) 當直機關士ノ職責

(イ) 職責一斑

當直機關士ハ常ニ機關室ニ在リテ安ニ之ヲ去ルヘカラス、其ノ本職ヲ括言セハ一) 船橋ヨリ命令ヲ承ケテ機關ノ運轉ヲ掌リ、二) 部下ノ當直員ヲ指揮監督シテ各其ノ業務ニ服セシメ、三) 又機關室日誌用石盤或ハ略日誌(何レモ甲板部當直日誌ニ相當スルモノ)ノ記入ニ付テ責ヲ負フモノトス、

(ロ) 命令ノ遵守

當直機關士ハ機關ノ運轉ニ付テハ、一) 船橋ニ在ル船長又ハ當直運轉士ヨリ與ヘラル、命令ヲ遵守シ正當ニ履行スヘキモノニシテ、若シ機關ニ故障ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ機關長ニ報告シ、其ノ指揮ヲ承ケテ何分ノ處置ヲ爲シ專斷ノ所爲アルヘカラス、

(ハ) 急迫ノ場合

右ノ如ク當直機關士ハ船橋ヨリノ命令ヲ遵守シ、機關ニ故障アルトキハ機關長ノ指圖ヲ待テ處置スヘキノ原則ナレトモ、急迫ノ場合ニ於テハ當直機關士自ラ責任ヲ以テ臨機應急ノ處置ヲ爲スコトヲ得ルハ、當直運轉士ノ權能ト全様ニシテ、斯ル場合ニハ直ニ機關長ニ報告シ、而モ速力ニ關スル件ニ付テハ同時ニ船長又ハ當直運轉士ニモ通知スルヲ要ス、

(ニ) 軸受、硝子驗水器、排水嘴子及滲水溜ニ關スル注意

當直機關士ハ汽機汽鐘ノ現狀ニ注意シ何等ノ故障ナカラシムヘキハ勿論ニシテ、中ニモ左ノ條々ニ深く注意ヲ要スルモノトス、即チ(一)汽機中各軸受ハ熱摩シ易ク之カ爲メ不時ノ災難ヲ惹起スルコトアルヲ以テ、當直中注油方ニ嚴重注意スヘシ、(二) 汽鐘ノ水量著ク減スルトキハ、時トシテ汽鐘破裂ノ大難ニ罹ルヤモ圖リ難キヲ以テ時々硝子驗水器ヲ見テ(當直機關士一人ナルトキハ大抵汽機室ニ居ルノ常ナルヲ以テ火夫ヲシテ驗水器ヲ見セシメテ可ナリ) 鐘内ニ適當ノ水量アルヤ否ヤヲ察シ、若シ水量著ク減下シタルトキハ當直機關士自ラ相當ノ處置ヲ爲ス

ヘシ、其他當直中少ナクモ一回驗水器ノ驗水嘴子ヲ試ミテ、其ノ完全ヲ確ムルコトモ亦決シテ等閑ニ附スヘカラス、(三) 鐘水ノ濃淡モ亦當直中少ナクモ一回之ヲ檢測シ、鐘水ノ排出ヲ必要トスルトキハ自ラ嘴子ヲ開閉シ決シテ火夫等ノ手ニ委任スヘカラス、是レ鐘水ヲ缺乏スル原因ハ多クハ一旦排水シタル後嘴子ヲ閉ツルコトヲ忘レ若クハ充分ニ閉チサルニ歸スルモノナルヲ以テ、責任ヲ重セサル者ニ之ヲ委託スルノ極テ危険ナルヲ以テナリ、(四) 其他又機關部ノ底ニ在ル滲水溜ノ水量ヲ時々檢測シ、若シ滲水次第ニ増加スルノ徵アルトキハ直ニ機關長ニ報告シ、其ノ指圖ヲ承ケテ適宜處置スヘシ、

(ホ) 交代

當直機關士當直ヲ終リ交代スルトキハ、機關ノ現狀并ニ當直中與ヘラレタル命令等ヲ漏ナク後直者ニ傳ヘ、機關日誌用石盤又ハ略日誌ヲ引繼クヘシ、

第十二 旗章及信號

(一) 旗章 (Flags)

船舶ハ其ノ國籍及所有主ヲ表示シ又敬禮ヲ行ハンカ爲メ、夫々成規ノ旗章ヲ掲クヘキモノナルヲ以テ、居常必要ノ旗章一通ヲ備ヘ置カサルヘカラス、我國ニ於テハ船舶法施行細則第四十三條ニ、日本船舶ノ國旗ヲ掲ク（後部ニ）ヘキ場合ヲ左ノ如ク指示セリ、

- 一、帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
- 二、帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
- 三、外國ノ港ヲ出入スルトキ
- 四、外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
- 五、法令ニ別段ノ定アルトキ

尙ホ茲ニ商船ノ旗章掲揚方ニ關スル一般ノ慣例ヲ示セハ大畧左ノ如シ、

(イ) 一般船舶

碇泊中及港灣出入ノ際ハ、船尾ノ旗竿ニ國旗ヲ掲ケ後檣ニ船主ノ旗章（通例社旗ト稱ス）ヲ掲ケ、一旦海上ニ出テタル後ハ即チ海洋航海中ハ（陸地近傍ヲ航行スルトキハ此限ニアラス）總テノ旗章ヲ撤去スルモノトス、

(ロ) 郵便船及外國航船

郵便船ハ港灣出入ノ際（出港ノ際ハ郵便物ヲ搭載シタル時ヨリ港外ニ出ヅル時マテ入港ノ際ハ港ヲ望ミ保存スル間ハ終始旗章ヲ掲クルモノトス）前示國旗及ヒ社旗ノ外前檣ニ郵便旗ヲ掲ケ、又外國ニ往來スル定期船ハ均ク出入ノ際其ノ到達港ニ屬スル邦國ノ旗章ヲ掲クルノ例ナリ、例ヘハ郵船會社及東洋氣船會社ノ米國航船ハ出入共米國旗ヲ掲ケ、郵船會社ノ歐洲航船及濠洲航船ハ英國旗ヲ掲ケ、又歐米諸國ト日本トノ間ニ往來スル外國船舶ハ日本國旗ヲ掲クルカ如シ、

(ハ) 貴顯ノ乗船スルトキ

内外國ノ皇族、大臣、公使、海陸軍將官、其他貴顯ノ乗込ム船舶ニ於テハ、特ニ敬禮ヲ表スルカ爲メ乗船ト同時ニ國旗（外國人ナレハ其國ノ國旗）ヲ前檣ニ掲ケ、港灣出入ノ際ハ勿論碇泊中ト雖モ其ノ在船スル間ハ之ヲ掲ケ置クヘキモノトス、
(ニ) 軍艦ニ出逢ヒ又ハ燈臺前ヲ通航スルトキ

航海中内外國ノ軍艦ニ出逢フトキ又ハ内外國ノ燈臺前ヲ通航スルトキハ、國旗ヲ上下シテ敬禮ヲ行フモノトス、

(ホ) 滿船飾又ハ半旗ノ禮

碇泊中國祭日其他ノ祝日ニ際シ、賀意ヲ表センカ爲メ滿船飾又ハ船飾ヲ爲スコト、又ハ國葬、葬式其他ノ凶事ニ付テ吊意ヲ表センカ爲メ半旗ヲ掲クルコトハ、内外普通ノ慣例ニシテ、同港内ニ帝國軍艦碇泊スルトキハ之ニ倣ヒ、若シ不在ノトキハ船長ノ見込ヲ以テ適宜之ヲ定メテ可ナリ、

(參照)

○海軍旗章條例抄出

第三十三條 滿船飾艦飾ハ軍艦在泊中ニ行フモノニシテ滿船飾ハ各橋頂ナリ艦首ヨリ艦尾ニ旗旗ヲ列揚シ各橋頂ニ軍艦旗ヲ掲ク艦飾ハ單ニ各橋頂ニ軍艦旗ヲ掲揚ス但シ外國ノ爲ニスルトキハ大橋頂ノ軍艦旗ヲ其國ノ旗章ニ代フ

第三十五條 左ノ祝日ニハ諸軍艦總テ滿船飾ヲ爲スヘシ但シ暴風雨ノ節ハ之ヲ艦飾ニ代ヘ若クハ禮砲施行時問ノミ滿船飾ヲ爲シ或ハ全ク之ヲ省略スルコトヲ得

- 一、紀元節
- 二、天皇節

三、天皇、皇族、外國ノ皇帝、皇族、大統領ニ對シ禮砲ヲ發スヘキ日

四、其他規則命令ニヨリ滿船飾ヲ施行スヘキ日

第三十六條 左ノ祝日ニハ諸軍艦總テ艦飾ヲ爲スヘシ但シ暴風雨ノ節ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一、一月一日
- 二、第三十五條但書ノ場合

○海軍葬喪令抄出

第五條 水葬ハ陸葬スル能ハサル事由アル場合ニ限り之ヲ行フ

第六條 葬喪ノ禮ヲ分テ左ノ五種トス

- 一、半旗
- 二、分時砲、分時銃
- 三、儀仗隊差遣
- 四、弔砲、弔銃
- 五、表喪

第八條 半旗ノ禮ハ左表ニ依リ之ヲ行フヘシ

官 職	施行艦船	施行期間	報知ノ日没后ニ死亡ノ施行艦船
海軍々令部長	死亡ノ港ニ在ル海軍艦船	死亡ノ日若ハ其ノ報知ヲ受ケタル日ヨリ葬日迄	施行期間
元帥海軍大將ヲ有セ	葬儀地ノ港ニ在ル海軍艦船	葬儀地タルノ報知ヲ受ケタル日ヨリ葬日迄	施行期間
同 令 長 官	部下ノ艦船及之ト同港ニ在ル海軍艦船	死亡ノ日若ハ其ノ報知ヲ受ケタル日ヨリ葬日迄	施行期間

五 佐 官	四 將 官 相 當 官	三 將 官	二 司 令 官		
			死亡ノ港ニ在ル 海軍艦船	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	
部下ノ艦船若ハ本 艦船及之同港ニ 在ル海軍艦船	死亡ノ港ニ在ル 海軍艦船	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	部下ノ艦船及之同 港ニ在ル海軍艦	死亡ノ報知ヲ受ケ タル翌日終日
部下ノ艦船若ハ本 艦船及之同港ニ 在ル海軍艦船	死亡ノ港ニ在ル 海軍艦船	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	部下ノ艦船及之同 港ニ在ル海軍艦	死亡ノ報知ヲ受ケ タル翌日終日
部下ノ艦船若ハ本 艦船及之同港ニ 在ル海軍艦船	死亡ノ港ニ在ル 海軍艦船	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	部下ノ艦船及之同 港ニ在ル海軍艦	死亡ノ報知ヲ受ケ タル翌日終日
部下ノ艦船若ハ本 艦船及之同港ニ 在ル海軍艦船	死亡ノ港ニ在ル 海軍艦船	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	死亡ノ日若ハ其報 知ヲ受ケタル日及 翌日終日	部下ノ艦船及之同 港ニ在ル海軍艦	死亡ノ報知ヲ受ケ タル翌日終日

九 卒	八 下 士	七 尉官同相當官候補生准士官	六 佐 官 相 當 官	一		
					本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	葬儀地ノ港ニ在ル 海軍艦船
本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	葬儀地ノ港ニ在ル 海軍艦船	葬日終日	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船
本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	葬儀地ノ港ニ在ル 海軍艦船	葬日終日	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船
本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	葬儀地ノ港ニ在ル 海軍艦船	葬日終日	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船
本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船	葬儀地ノ港ニ在ル 海軍艦船	葬日終日	本艦船及之同港 ニ在ル海軍艦船

備考 同時ニ本表中ノ二箇以上ノ條項ニ該當スル場合ニ於テハ期間ノ長キニ依ル

第九條 外國ノ海軍艦船ト同港ニ在ル我海軍艦船ニシテ外國ノ海軍艦船ニテ葬儀ノ爲メ半旗ノ禮ヲ行フノ通
知ヲ受ケタルトキハ相當ノ期間半旗ノ禮ヲ行フヘシ
第十條 左ノ場合ニ於テハ海軍艦船ハ葬儀ノ當日終日半旗ノ禮ヲ行フヘシ
一 碇泊地方ニ於テ我現役陸軍將官ノ葬儀アルトキ
二 碇泊地方ニ駐在スル我外交官ノ葬儀アルトキ
三 碇泊地方ニ駐在スル我領事官ノ葬儀アルトキ

第十一條 水葬ニ在テハ前諸條ニ準シ葬儀間ノミ半旗ノ禮ヲ行フヘシ

○海軍葬喪細則抄出

第三條 艦船ニテ半旗ノ禮ヲ行フニハ先ツ一旦之ヲ全揚シ而シテ後之ヲ半下スルモノトス又之ヲ撤下スルニ

モ一旦全揚シタル後ニ於テスヘシ

第四條 艦船ニテ半旗ノ禮ヲ行フ間ハ附屬端舟モ亦其ノ旗ヲ半下スヘシ

第十七條 艦船ニ於ケル葬儀ハ午前八時ヨリ日没迄ニ之ヲ行フナ例トス

第三十七條 海軍艦船士官以上ノ葬儀ヲ行ハントスルニ當リ外國海軍艦船ト同所ニ在ルトキハ葬喪管理者ハ

死者ノ官職葬儀ノ時日及其ノ葬地ヲ彼ニ通知スヘシ

第三十八條 海軍艦船外國ノ海軍艦船ト同所ニ在リテ彼ヨリ士官以上ノ葬儀アルコトノ通知ヲ得タルトキハ

努メテ其ノ死者ト同官等ノ者ヲ遣シ之ニ會葬セシムヘシ

海軍艦船外國ニ在リテ其地在勤ノ外國武官ノ葬儀アルコトノ通知ヲ得タルトキハ亦前項ニ同シ

（ヘ）旗章ノ掲降時刻

旗章ヲ掲揚降下スル時刻ハ、日ノ長短ニ依リ異ナルモノニシテ（通例碇泊中ハ午

前八時ニ掲ケ日没時ニ至テ降ス）、是レ亦前號ト均ク帝國軍艦ニ倣フヘキモノトス、

1) 信號 (Signals)

船舶ハ法令ノ定ムル所ニ依リ或ハ必要アル場合ニハ、夫々成規ノ信號ヲ爲スヘキモノニシテ、信號旗其他信號用ノ器具（霧中號角、空中ニ高響又ハ星火ヲ發スル轟彈、火

箭、紅光焰管、焰管、救命焰等）ヲ臨機ノ使用ニ差支ナカラシムヘキ様常ニ一定ノ場所ニ整頓シ置クコトヲ要ス、左ニ船舶ノ信號心得一斑ヲ示ス、

（イ）旗信號

萬國船舶信號書ハ、信號旗ヲ用ヒテ船舶間ニ諸般ノ通信ヲ爲スヘキ最モ簡易輕便ナル方法ヲ示スモノナルヲ以テ、航海者タルモノハ常ニ之カ利用方ニ習熟スルコトヲ努メサルヘカラス、

（ロ）望樓前ヲ通航スルトキ

海岸望樓ノ前ヲ通航スル船舶ハ、其ノ信號符字（即チ船名符字ヲ示ス信號旗）ヲ掲ケサルヘカラス、

（ハ）軍港、要港ニ入港スルトキ

帝國軍港又ハ要港ニ入港セントスル船舶ハ、港界線外約三海里ノ處ヨリ本船ノ投

錨若クハ繫止スル地點マテ、其ノ信號符字ヲ掲ケサルヘカラス、

（ニ）港則實施ノ開港場ニ出入スルトキ

港則ノ實施セラル、我國ノ開港場ニ入港スルトキハ、國旗及信號符字ヲ掲ケ、着港届ヲ港長ニ差出シタル後ニ非サレハ之ヲ降スヘカラス、尤モ定期郵便船ハ社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得ヘシ、又出港ノ際ハ出帆旗ヲ掲クヘシ、

(ホ) 危險物積載ニ關スル信號

爆發物又ハ容易ニ發火シ易キ物品ヲ積載スル船舶カ、港則實施ノ港ニ至リタルトキハ、港界外ニテ進行ヲ停止シ、港長ノ指圖ヲ待チ居ル内晝間ナラハBノ信號旗、夜間ナラハ紅燈ヲ前檣頂ニ掲クヘシ、

(ヘ) 傳染病ニ關スル信號

傳染病地若クハ流行病地ヨリ來航シ、又ハ航海中船内ニ該病ニ罹リタル者アル船舶ハ、港則ノ定ムル港界外ニ於テ、晝間ハ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネテ前檣頂ニ掲ケ、檢疫官吏ヨリ自由交通ノ許可ヲ受クルニ至ルマテ是等ヲ撤去スヘカラス、

(ト) 航路信號

航行中ノ汽船他船ニ接近シ針路ヲ變セントスルトキハ、他船ニ本船ノ針路ヲ通知センカ爲メ、汽笛若クハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲スヘシ(海上衝突豫防法第二十八條參看)

短聲(大約一秒時間)

一 發

本船針路ヲ右舷ニ取ルノ意

短聲

二 發

本船針路ヲ左舷ニ取ルノ意

短聲

三 發

本船全速力ニテ後退スルノ意

(チ) 霧中信號

霧中、降雪、其他暴風雨ニ際會スル船舶ハ、晝夜ノ別ナク左ノ信號ヲ爲スヘシ、是等ノ信號ヲ爲スニハ汽船ハ汽笛若クハ汽角、帆船并ニ他船ニ曳キ行カル、船舶ハ霧中號角ヲ用ヒ、其他汽船及總積量二十噸以上ノ帆船ニ於テハ號鐘并ニ機關ノ作用ニテ發聲スヘキ霧中號角ヲ備フルヲ要ス(同第十五條)、

一、汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ、長聲(四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ云フ)ヲ一發スヘシ、

二、汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ、二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ、但シ其ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス、

三、帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ、右舷開ナレハ一聲ヲ發シ、左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ、船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ、

四、船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ、大約五分時間號鐘ヲ鳴ラスヘシ、

五、他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若クハ引揚ニ從事スル船舶、及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法（海上衝突豫防法）ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ、右第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ、即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ、又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖モ他ノ信號ヲ爲スヘカラス、

六、總積量二十噸未満ノ帆船ハ、必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス、然レトモ其ノ信號ヲ爲サ、ルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ、

(リ) 難船信號

船舶若シ海難ニ罹リ、他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スルトキハ、左ノ信號ヲ同時ニ又ハ別々ニ使用スヘシ（同第三十一條）、

○晝間信號

- 一、大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二、萬國船舶信號書ニ掲載スルN.C.ノ難船信號ヲ表示ス
- 三、方形旗ノ上又ハ下ニ、球若クハ之ニ類似ノモノヲ掲ケル遠隔信號ヲ表示ス
- 四、霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

○夜間信號

- 一、大約一分時間ノ隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二、船上ノ發煙（タール桶、油樽等）ヲ燃焼スルノ類

- 三、星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ケ
- 四、霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

(ヌ) 港内非常信號（失火及警官ニ關スルモノ）

港則ノ實施セラル、港界内ニ於テ船舶若シ火ヲ失シタルトキハ、救援者ノ來タルマテ船鐘ヲ打鳴ラシ、且ツ晝間ナラハN.M.ノ信號旗ヲ掲ケ夜間ナラハ絶エス紅燈ヲ上下スヘシ、又船内ニ異變ヲ生シタル爲メ警察官ノ救援ヲ要スルトキハ、晝間ナラハGノ信號旗ヲ掲ケ夜間ナラハ藍火或ハ閃火ヲ示スヘシ、

第十三 操練 (Drills)

(一) 操練ノ目的

船内ノ操練ハ平素海員ヲシテ各自ノ部署即チ持場ヲ熟知セシメ、火災ノ消防、端艇ノ上下、漕行等ヲ練習セシメ、一朝船舶カ火災、衝突、其他不慮ノ海難ニ罹リタルトキ應急ノ處置其當ヲ待テ能ク實際ノ功ヲ奏セシムルヲ以テ目的トスルモノナリ、然ルニ平素事ナキノ日ニ斯ル不慮ノ場合ヲ假想シ操練ヲ行フコトナルヲ以テ、動モスレハ形式

的ニ流レ、或ハ上長ノ命令嚴肅ナラス或ハ海員ノ舉動敏活ヲ缺クノ傾向アリ、此ノ如キハ操練ノ精神ヲ失フモノニシテ、一旦事變ニ會セハ焉ソ能ク満足ノ効果ヲ奏スルヲ得ンヤ、故ニ船長以下各員ハ操練ノ際、眞ニ船内ニ火災アリ又ハ衝突若クハ座礁ノ爲メ船艙破損シタルモノト心得、誠意熱心ヲ以テ各自分擔ノ役務ニ従事シ、他日實際ノ海難ニ臨テモ、平素ノ練習能ク速ニ奏功スルノ覺悟ヲ有スルコト最モ肝要ナリトス、且夫レ操練ハ亦船内ノ紀律ヲ振肅スルノ効アルモノニシテ、夫ノ一タヒ警鐘ヲ聞クヤ各員駛セテ己カ部署ニ就キ、坐作進退一ニ上長ノ命令ニ從ヒ、勇往邁進水火モ尙ホ辭セサルノ氣風ハ獨リ操練ニ於テ養フヘキノミ、即チ海員ニ最モ尙フヘキ服從ノ美風ト勇敢ノ良習トヲ涵養スルノ機會ハ、平素ノ操練ニ若クハナシ、

(二) 操練ノ方法

商船ニ於テ行フ操練ハ通常防火操練 (Fire Drill) 及端艇操練 (Port Drill) ノ二種ニシテ、重ナル船主ニ在リテハ、豫メ部署表ヲ調製シ各船ニ交附スルノ常ナルヲ以テ、船長ハ船員及旅客ノ見易キ場所ニ之ヲ掲ケ置キ、又此表ヲ標準トシテ船内各員ノ部署ト

役務トヲ定メ、毎週一回右兩種ノ操練ヲ行フヘシ、而シテ

(イ) 防火操練ニ於テハ

各員ヲシテ其ノ部署ニ就キ、消防用ノ唧筒、布管、手桶等ノ配置、用法ニ習熟セシメ、同時ニ唧筒及其ノ瓣ノ働作并ニ端艇ノ上下、通風器、舷窓等ノ適否ヲ検査セシムヘシ、

(ロ) 端艇操練ニ於テハ

同ク各員ヲシテ部署ニ就キ、乘艇ノ順序、端艇ノ上下等ニ習熟セシメ、同時ニ「テークル」、艇体及其ノ屬具ノ整否ヲ検査セシムヘシ、而シテ又碇泊中ニハ時々端艇ノ漕方帆走等ヲ練習セシムルヲ要ス、

(三) 操練部署表

防火及端艇兩操練ニ於テ、各員ノ部署及役務ノ一班ヲ示サンカ爲メ、茲ニ部署表ノ一例ヲ掲ク、

(イ) 防火操練部署表

警報

警鐘ヲ續ケテ打鳴ラス、

船長

船内ニ火災アルコトヲ假定シ、當直舵取ニ命シテ前項ノ警報ヲ爲サシメ、本船ノ進行ヲ遅緩若クハ停止シ、又総テ通風装置ノ作用ヲ遮斷セシムヘシ、

船長自ラ船橋ニ在リテ該般ノ指揮監督ヲ爲シ、非直舵取ヲ以テ傳令者トス、

一等運轉士

左舷當直全員并ニ水夫長、大工ヲ率并テ直ニ火災ノ現場ニ駛セ、消防用布管ヲ延布シ、辦ノ働作ヲ試ミ、手用唧筒ニ受持人ヲ配置スヘシ、

二等運轉士

右舷當直半數ヲ率并テ上甲板ニ駛セ、右舷端艇ヲ掌ルヘシ、

三等運轉士

右舷當直ノ殘ル半數ヲ率并テ上甲板ニ駛セ、左舷端艇ヲ掌ルヘシ、

機關長

機關室ニ在リテ所要ノ蒸汽ヲ保チ蒸汽唧筒ノ働作ヲ監視シ、吸水瓣ヲ開キ排水瓣ヲ閉ツヘシ、當直機關士

部下當直員ヲ率并平素ノ通り其ノ位置ニ在ルヘシ、

非直上席機關士

部下ノ人員ヲ率并蒸汽唧筒ヲ掌ルヘシ、

非直下席機關士

機關長ノ傳令者ト爲ルヘシ、

事務長及事務員

豫定ノ分擔方ニ從ヒ司厨及給仕ヲ率并、夫々一三客室ニ在リテ旅客ノ動搖混雜ヲ防キ、且ツ氣窓ヲ閉チ後部唧筒ニ受持人ヲ配置スヘシ、

荷物方

毛布ヲ濡ラシテ火災場ニ持チ運ヒ、又ハ火災場ノ近傍ニ在ル可燃質ノ物品ヲ持チ去ルノ用意ヲ爲スヘシ、

料理人

船橋又ハ上甲板ニ駛セ、消防用手桶ヲ執ルヘシ、

船醫

看護方ヲ率并病人ヲ救助スヘシ、

甲板庫番及機關庫番

各自管理スル倉庫室ヲ護ルヘシ、

各部主任

部下ノ各員部署ニ就キタルトキハ直ニ之ヲ船長ニ報告スヘシ、

(注意)

一、本部署表ハ船舶ノ構造及海員ノ多寡ニ應ジ、船長ノ見込ヲ以テ適宜變更スルコトヲ得、

一、本部署表ハ火災消防、漏水防禦等ノ場合ニ適用ス、

(ロ) 端艇操練部署表

船長

平素本船備付ノ各端艇ニ付テ、受持主任(役員ヲ充シ)及屬員ヲ定メ、且ツ各端艇ニ乗込ミ得ヘキ員數ヲ限定シ置クヘシ、

端艇操練ヲ執行セントストキハ、全部又ハ一部ノ端艇ニ付テ端艇用意ノ號令ヲ下シ、同時ニ本船ノ進行ヲ

停止スヘシ、
端艇主任

各自所持ノ端艇及其ノ器具ノ整理保存ニ付テ責ヲ負フ、

端艇用意ノ號令下ルトキハ、直ニ其ノ所持ノ端艇ニ駛セ、端艇ヲ下ス準備ヲ爲スヘシ、

端艇ヲ下シタル後ハ、本船ノ指揮ヲ承ケテ其ノ進退ヲ掌ルヘシ、

端艇風員

端艇用意ノ號令下ルトキハ、直ニ其ノ所持ノ端艇ニ駛セ、主任者ノ命令ニ從フヘシ、

(注意)

本部署表ハ本船退去(避難ノ爲メ)、海難救助等ノ場合ニ適用ス、

第十四 航海日誌及機關日誌

(一) 日誌ノ種類及其ノ保管者

航海ニ關シ船内ニ備付クル日誌及保管者ヲ表示スレハ左ノ如シ、

種類	保管者
航海日誌	船長
甲板部當直日誌	當直運轉士(但シ當直ヲ置カサルトキハ)等運轉士)
船用航海日誌	一等運轉士
機關略日誌(又ハ日誌)	當直機關士(但シ當直ヲ置カサルトキハ機關長)
機關略日誌(用石盤)	

機關日誌

機關長

(二) 日誌ニ記載スル事項及方法

(イ) 航海日誌 (Official Log)

本日誌ハ船用航日誌ニ類シ公用航海日誌ト通稱スルヲ便ナリトス、即チ法令ニ定

ムル書式ニ依リ、隨時夫々ノ欄内ニ記入シ、必要アル場合ニハ當該官廳ニ差出シ其ノ

檢閲ヲ受クヘシ、尙ホ記載事項其他詳細ハ第十七章第四ノ(四)航海日誌ノ項下ニ説明

セリ、

(ロ) 甲板部當直日誌 (Deck Log-book)

本日誌ハ甲板上便宜ノ場所(通例海圖室)ニ備ヘ置キ、當直運轉士鉛筆ヲ以テ之

ニ記入シ、當直ノ終ニ於テ記名ノ上後直者ニ引渡スヘキモノニシテ、其ノ記載事項

ヲ示セハ大約左ノ如シ、

第一、本欄内ニ記入スヘキ事項

一、針路

- 二、速力
 - 三、羅針自差
 - 四、風候(風位及風力)
 - 五、天候
 - 六、晴雨計及寒暖計ノ指度
 - 七、海水ノ溫度
 - 八、汽機ノ回轉數
 - 九、塗水溜ノ水量
 - 十、船舶發着當時ノ喫水
- 第二、記事欄内ニ記入スヘキ事項
- 一、船舶發着ノ日時
 - 二、汽機ノ發動停止ニ關スルコト
 - 三、針路變更ノ時刻及事由
 - 四、交叉方位又ハ視定方位ニ依リ船舶ノ位置ヲ測リタル時刻、方位及距離
實測ヲ爲シタル時刻、方位及高度
 - 五、水深測量ノ成績
 - 六、用帆ノ増減、展縮
 - 七、出逢ヒタル艦船并ニ交換シタル信號
 - 八、投錨拔錨ニ關スルコト
 - 九、旅客ノ上下船并ニ郵便物及貨物ノ積卸ノ日時、員數

- 十、水先人ヲ雇入レタルトキハ其ノ氏名及上下船ノ日時
 - 十一、船内操練ニ關スルコト
 - 十二、暗礁ノ發見又ハ航路標識ノ異狀等ニ關スルコト
 - 十三、甲板部風具ノ滅失毀損ニ關スルコト
 - 十四、甲板部風具ノ滅失毀損ニ關スルコト
- (ハ) 船用航海日誌 (Ship's Log-book)

一等運轉士ハ毎日正午、當直日誌ヨリ前日來ノ記事ヲ漏ナク本日誌ニ轉寫シ、各運轉士ヲシテ其ノ當直ニ係ル部分ニ記名セシメ、且ツ自ラ左ニ掲クル事項ヲ追記シ、記名ノ上下后一時船長ニ差出シ、其ノ檢印ヲ受クヘキモノトス、

- 第一、本欄内ニ追記スヘキ事項
- 一、直航方位及距離
 - 二、經緯度
 - 三、眞方位及距離
 - 四、羅針偏差
 - 五、潮流(方向及速率)
- 第二、記事欄内ニ追記スヘキ事項
- 一、石炭ノ受取高及消費高
 - 二、船長ノ交代并ニ海員ノ進退、缺勤及懲戒處分
 - 三、船員又ハ旅客ニ關スル出生、死亡等ノ異變

- 四、船舶又ハ積荷ノ處分ニ關スルコト
- 五、豫定航路又ハ發着期日ヲ變更シタルトキハ其ノ時刻及事由
- 六、滿艦節、艦飾又ハ半旗ノ禮ヲ行ヒタルコト
- 七、工事ノ個所并ニ開始、終了ノ日
- 八、碇泊中ニ於ケル甲板部員作業ノ概略

船用航海日誌ハ全部ニ記入ヲ了ルマテ船内ニ保存スヘキモノナルヲ以テ、一等運轉士ハ航海ヲ終ル毎ニ、右船用航海日誌ニ基キ撮要日誌（之ヲ甲板部航海撮要日誌 Commander's Abstract Log ト稱ス）ヲ作り、記名ノ上船長ニ差出シ、船長更ニ檢閲記名シテ之ヲ船主ニ送附シ、以テ航海中ニ於ケル甲板部ノ狀況ヲ知ルニ便ナラシムヘシ、

(ニ) 機關略日誌又ハ日誌用石盤 (Rough Log-book or Log Slate)

本日誌(又ハ石盤)ハ汽機室内便宜ノ場所ニ備ヘ置キ、當直機關士鉛筆(又ハ白墨)ヲ以テ之ニ記入シ、當直ノ終ニ於テ記名ノ上後直者ニ引渡スヘキモノニシテ、其ノ記載事項ハ左ノ如シ、

一、汽壓

- 二、塞 ストップ、ヴァルヴ 弁及咽 スロット、ヴァルヴ 喉 弁ノ明キ方
- 三、膨脹度
- 四、真空
- 五、汽機ノ回轉數
- 六、「ホット、ウエル」ノ溫度
- 七、罐水ノ高低濃淡
- 八、灰盤及燃 シカ 屑
- 九、汽機室及焚火室ノ溫度
- 十、機關油ノ消費高
- 十一、計數器ノ指數 カウンタ
- 十二、船内機械類ニ關スルコト

(ホ) 機關日誌 (Chief Engineer's Log-book)

機關長ハ毎日正午、機關略日誌(又ハ石盤)ヨリ前日來ノ記事ヲ漏ナク本日誌ニ轉寫シ、各機關士ヲシテ其ノ當直ニ係ル部分ニ記名セシメ、且ツ自ラ左ニ掲クル事項ヲ追記シ、記名ノ上午後一時船長ニ差出シ、其ノ檢閲ヲ受クヘキモノトス、

第一、本欄内ニ追記スヘキ事項

- 一、展帆
- 二、速力

三、航走里數

四、石炭ノ種類、品質、并ニ其ノ受取高、消費高及殘有高

第二、記事欄内ニ追記スヘキ事項

- 一、船舶發着ノ日時
- 二、汽機ノ發動、停止ニ關スルコト
- 三、速力又ハ汽壓ヲ増減シタル時刻及其ノ事由
- 四、船舶發着當時ノ吃水
- 五、天候、風候
- 六、碇泊ノ場所及碇泊中ニ於ケル機關部員作業ノ概畧
- 七、汽機、汽鐘及其ノ附屬裝置ノ故障、修繕、検査并ニ汽鐘掃除ニ關スルコト
- 八、海難ニ關スルコト
- 九、機關部員ノ進退、欠勤及懲戒處分

機關日誌ハ全部ニ記入ヲ了ルマテ船内ニ保存スヘキモノナルヲ以テ、機關長ハ航海ヲ終ル毎ニ右機關日誌ニ基キ、撮要日誌（之ヲ機關撮要日誌 Engineer's Condensed Logト稱ス）ヲ作り、記名ノ上船長ニ差出シ、船長更ニ檢閲記名シテ之ヲ船主ニ送付シ、以テ航海中ニ於ケル機關部ノ狀況ヲ知ルニ便ナラシムヘシ、

（ヘ）甲板部、機關部両日報ノ交換

船用航海日誌中機關部ニ關スル事項ヲ記入シ、又機關日誌中甲板部ニ關スル事項ヲ記入スルニ付テ、毎日正午船長及機關長ハ成規ノ事項ヲ記スル甲板部日報（展帆、速力、航走里程、前後艙ノ滲水量等）、及機關部日報（汽壓、真空、膨脹度、汽機回轉數、石炭ノ消費及現在高、機關室ノ温度及滲水量等）ヲ夫々調製シ互ニ交換スヘシ、

（三）日誌ニ關スル一般ノ注意

（イ）日誌ノ記事ニ關スル注意

前示ノ諸日誌特ニ航海日誌、船用航海日誌及機關日誌ノ三種ハ、公私ノ關係ニ於テ他日ノ證據又ハ參考ト爲ルヘキモノナルヲ以テ、當該擔當者ハ正確且ツ明瞭ニ之カ記入ヲ爲スコトニ注意シ、何等ノ場合ト雖モ用紙ヲ引裂キ若クハ書キ損シタル文字ヲ抹殺スヘカラス、若シ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ、船長及當該擔當者之ニ記名シテ責任ヲ明ニスヘシ、

（ロ）日誌ノ始末ニ關スル注意

當直日誌及機關略日誌ハ他日ノ參考ニ供スル爲メ、全部記入済ノ時ヨリ大約二三
年間船内ニ保存シ置クノ必要アルヘシ、又航海日誌、船用航海日誌及機關日誌ハ全
部記入済ノ上ハ、遲滞ナク船主ニ送付スルヲ例トス、尤モ航海獎勵金ヲ受クル船舶
及特別命令航路ニ使用セラル、船舶ハ、遞信省ノ檢閲ニ供スル爲メ、航海ヲ終フル
毎ニ船用航海日誌及機關日誌(命令航路使用船ハ船用航
海日誌ノミニテ可ナリ)ニ内外諸港ノ發着證明書ヲ添ヘテ
差出スヘキ規則ナリ、

第十九章 着港ノ手續

第一 手續ノ大要

船舶ノ入港スルトキハ到着港タルト寄航港タルトヲ問ハス、其ノ國旗、信號符字旗、
其他必要ノ旗章ヲ掲ケ、苟モ港則ノ實施セラル、港ナラハ、港口附近ニ港長ノ端艇出張
シ居ルヲ以テ、其ノ指圖ニ依リ適當ノ場所ニ投錨スヘシ、然ル後遲滞ナク着港届ヲ港長
ニ差出シ、旅客ノ上陸、郵便物又貨物ノ陸揚ニ取懸リ、稅關手續ヲ済マセ噸稅其他ノ課
稅ヲ納付シ、外國通航船ナラハ着港後二十四時間内ニ航海日誌ヲ其地ノ管海官廳ニ提出
シ、其他航海中ノ出來事ニ付テハ、各船舶必ス法令ノ定ムル所ニ依リ夫々當該官廳ニ届出
ノ義務ヲ怠ルヘカラス、尤モ傳染病地ヲ經由シ若クハ船内ニ傳染病患者ヲ生シタル船舶
ナラハ、海港檢疫法ノ定ムル所ニ依リ入港前ニ當該官吏ノ檢疫ヲモ受ケサルヲ得ス、而
シテ海外諸港ニ在リテハ、各其地ノ規則習慣ヲ遵守スルノ必要アルハ勿論ノ事トス、
尙ホ左ニ主要ノ項目ニ就テ詳説スル所アルヘシ、

第二 港則ニ關スル手續(目下横濱神戸及長崎ノ三港ニ實施セラル ハモ遠カラズ、下ノ關、函館ニモ及フヘシ)

(一) 着港届并ニ交通證書

船舶ハ港則ノ實施セラル、開港場ニ入港スルトキハ、着港後二十四時間内ニ(日曜及大祭日ハ此限ニ非ス)着港届(Report of Arrival)ヲ其地ノ港務局ニ差出スヘシ、然スレハ沿海通航船ヲ除クノ外、該局官吏ハ船内ニ臨檢シ、別ニ傳染病患者等ノ在ラサルヲ認メタル上、交通證書(Patrick Certificate)即チ當船舶ヲ健康ナリト認ムル旨ヲ記スル證書ヲ船長ニ交付スヘシ、是ニ於テ始テ他船或ハ陸地トノ交通自由ト爲リ、旅客ノ上陸、郵便物貨物等ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ルナリ、而シテ右着港届ニハ船舶ノ種類、名稱、所有者、國籍、船籍港、總噸數、登簿噸數、發航地(原發航地ト最、後ノ發航地)及發航年月日ヲ記スヘキモノトス、

(二) 出港届

港則實施ノ港ヲ出帆セントスルトキハ、亦出港届(Notice of Departure)ヲ港務局ニ差出サ、ルヘカラス、此ノ届書ニハ單ニ船名ヲ掲ケ、何月何日何時何地ニ向テ出帆スヘキ旨ヲ記スレハ可ナリ、

(備考)

船籍證書ヲ有スルニ及ハサル小船、并ニ一定ノ諸港間ニ往復スル積量百噸以下ノ沿海通航船ハ、船主ヨリ豫メ港務局ニ届ケ許可ヲ受クルトキハ、前示着港及出港届ヲ略スルトコトヲ得、

(三) 着發届

定期發着ノ船舶ハ前示ノ如ク發着毎ニ一々届出ツルニ及ハス、其ノ着港及出港ニ付唯、一回ノ届出ヲ爲セハ足レリ、之ヲ着發届(Report of Arrival & Departure)ト稱シ之ニ船舶ノ名稱、所有者、國籍、船籍港、總噸數、登簿噸數、發航地(原發航地ト最、後ノ發航地)發航年月日及到達地名ヲ掲ケ、何月何日何時入船シ何月何日何時出船スヘキ旨ヲ記スヘシ、

(四) 港界内ニ於ケル注意

(イ) 碇泊區域及航路
港界内ノ廣狹ニ應シ三四區ニ分チ、軍艦、汽船、帆船及雜種船ニ付テ夫々碇泊スヘキ區域ヲ指定スルモノナレハ、之ニ從フヘキハ勿論、且ツ港界内ニ出入スルトキハ規定ノ航路ヲ取ルヘシ、

(ロ) 速力

汽船港界内ヲ運航スルトキハ速力ヲ減シテ徐行シ、若クハ曳船ヲ用フヘシ、

(ハ) 進路横切等ノ禁止

港界内ニ於テ他船ノ進路ヲ横切り又ハ追越等ヲ爲スヘカラス、

(ニ) 双錨泊

港長ヨリ指定セラレタル錨地ニ到リタルトキハ、双錨ヲ投シテ碇泊スヘシ、

(ホ) 船燈

港界内ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ、夜間ハ海上衝突豫防法ニ規定スル各種ノ船

燈ヲ掲クヘシ、

(ヘ) 曳船

港界内ニ於テ曳船ヲ爲サントスルトキハ、港務局ノ特許ヲ得タル場合ノ外左ノ成

規ニ從フヘシ、

一、荷船又ハ端艇ヲ曳クトキハ山船ト被曳船トノ距離三百五十尺ヲ超ユヘカラス

二、荷船又ハ端艇ハ二隻ヲ限リ並列シテ曳クコトヲ得

三、航洋船ハ一隻ヲ限リ曳クコトヲ得

(ト) 「スウキンギング、ブーム」ノ使用禁止

碇泊中「スウキンギング、ブーム」ヲ用フヘカラス（軍艦ヲ除ク）、

(チ) 灰爐其他汚穢物ノ投棄

港界内ニ於テハ灰爐、荷足、塵芥、動物ノ屍骸等荷モ港ニ害アル物ヲ海中ニ投棄

スヘカラス、若シ是等ヲ捨ツル必要アルトキハ、其ノ目標トシテ船内見易キ所ニ

ノ信號旗若クハ籃ヲ掲クヘシ、左スレハ豫テ港務局ノ承認ヲ經タル塵船來リ其用ヲ

辨スヘシ、

(リ) 位置變更ノ爲メ綱ヲ執ルトキ

船舶位置ヲ變更センカ爲メ、綱索ヲ浮標又ハ棧橋等ニ執ルトキハ、必要以外ニ之

ヲ延長スヘカラス、

(ヌ) 繫船浮標及其ノ使用料

港則實施ノ港ニ於テハ、定期郵便船ノ爲メ繫船浮標ノ設アルヲ以テ、之ヲ使用セ

ント欲スル者ハ、成規ノ使用料ヲ添ヘテ願書ヲ港務局ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ、

而シテ使用料及使用時間ニ關スル規定ハ左ノ如シ、

- 一、使用料ハ二十四時間ニ付金參圓トス二十四時間未滿ノ端數ハ二十四時間トシテ計算ス
- 二、使用時間ヲ定ムルニハ港務局ニテ浮標ノ使用ヲ指定シタル時ヨリ起算ス
- 三、既納ノ使用料ハ使用者ニ於テ實際使用セサルトキト雖モ之ヲ返納セス

(ル) 浮標ニ繫留スル船舶ノ投錨

浮標ニ繫留スル船舶、荒天ニ際シ更ニ投錨セント欲スルトモハ、該浮標ニ結付ケタル錨鎖ヲ相應ニ延長シタル後錨ヲ投スヘシ、

(オ) 應急準備

暴風雨ノ來ラントスルトキ或ハ警報信號ヲ海岸ニ掲ケタルトキハ、港界内ノ各船舶ハ直ニ一個以上ノ豫備錨ヲ投下スヘキ準備ヲ爲シ、汽船ニ於テハ此外蒸氣ヲ發生スヘシ、

(ウ) 避難

港内ノ船舶風波等ノ爲メ避難セント欲スルトキハ、港務局ノ許可ヲ待タス適宜ノ錨地ニ就クコトヲ得、

(カ) 夜間ノ入港

日没後入港スル船舶ハ、日出ニ至ル迄港界ノ外ニ在リテ航路ヲ避ケ停止スヘシ、但シ定期郵便船ニシテ豫メ繫船浮標若クハ錨地ヲ指示セラレタルモノハ、天候其他ノ事情ノ許ス限リ直ニ之ニ向テ進入スルコトヲ得ヘシ、尤モ横濱ニ於テハ夜中港内ニ進入セントスル定期郵便船ハ、港界外燈明船近傍ニ停止シ、港務及檢疫官吏ニ對シ長聲汽笛ヲ三發スヘキ旨ヲ告示セリ、

(備考)

港内ノ碇泊又ハ運航ニ關シ以上ニ定ムルモノ、外ハ別ニ海上衝突豫防法ニ依ル

(五) 危險物ヲ積載シタル船舶ノ入港手續

爆發物又ハ容易ニ燃焼スヘキ物料等即チ危險ノ虞アル物品ヲ多量(常用以上ヲ意味ス)積載シタル船舶ハ、直ニ港則實施ノ港内ニ入ルコトヲ得ス、須ク港界ノ外ニ停止シ成規ノ信號ヲ示シツ、港長ノ來ルヲ待チ、其ノ指定スル場所ニ於テ投錨シ、且荷卸ヲ爲スヘシ、而シテ又斯ル危險物ヲ船積セントスル船舶ハ、亦均ク港長ノ指定スル場所ニ於テスヘキモノトス、

前項ニ謂ユル爆發物及容易ニ燃燒スヘキ物料トハ如何ナルモノヲ云フヤ、港則施行細則ノ規定ニ依レハ左ノ如シ、

(イ) 爆發物

「アラスチング、セラチン」、彈藥包、爆發管、「ダイマナイト」、煙火、導火管、「セリクナイト」、「ナイトログリセリン」、火藥、棉火藥、無煙火藥、雷管ノ類

(ロ) 容易ニ燃燒スヘキ物料

生石油(アルマ油、ラングリン)、石油、「ナフタ」、的列並底油、依的兒、偏蘇爾、石油偏陣、「アセトン」、酒精及硫化炭素ノ類、其他華氏九十五度以上ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノ

第三 船舶ニ關スル 稅關手續(貨物ノ稅關手續ハ第

(一) 手續ノ大要

外國貿易船、即チ外國貿易ノ爲メ、海外諸國ニ通航スル船舶ハ、其ノ内國船タルト外國船タルトヲ問ハス、我カ開港場ニ(本項未參看)入港シタルトキハ、必スヤ成規ノ通り稅關手續ヲ爲サ、ルヘカラス、即チ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間内ニ左ノ書類ヲ稅關ニ差出シ、之ト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀(若クハ之ニ代ルヘキ

書類)ヲモ稅關ニ預ケ入ルヘシ、

- 一、入港届 (Report of Arrival)
- 二、積荷目録 (Manifest)
- 三、艙口申告書 (List of Hatches)
- 四、船用品目録 (List of ship's Stores)
- 五、旅客氏名表 (List of Passengers)

又出港セントスルトキハ出港届 (Report of Departure)ヲ爲シ出港免狀ヲ受クヘシ、然レトモ別ニ貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時間内ニ出港スル外國貿易船ニ於テハ、其ノ出入トモ前述ノ手續ヲ履ムニ及ハサルモノトス(但シ噸稅ハ納メ)、

其他沿海(内國)通航船ニシテ外國貨物ヲ陸揚スル爲メ開港場ニ入港シタルトキニハ、船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間内ニ其ノ貨物ノ積荷目録(沿海通航船外國貨物回漕目録ト通稱ス)ノミヲ稅關ニ差出シ、又此種ノ船舶カ外國貨物ヲ積載シテ出港セントスルトキモ、同ク其ノ貨物ノ積荷目録ヲ稅關ニ差出スヘシ、但シ此ノ目録ハ貨物ノ

陸揚ヲ爲スヘキ地ヲ異ニスルニ從ヒ夫々之ヲ作成スヘキモノトス、

總テ外國貨物ヲ積載シタル船舶ハ、税關長ノ許可ヲ得タル場合ノ外ハ積荷目録ヲ差出シタル後ニ非サレハ貨物ヲ積卸スルコトヲ得ス(貨物陸揚ノ際ハ船舶ノ税關官吏ニ積荷目録受領証ヲ示スヘシ)又右ニ同ク許可ヲ得タル場合(此ノ場合ニハ夜間、平日、休日トモ一時間ニ付三圓、休日ニハ貨物ヲ積卸スルコトヲ得サルモノトス、但シ旅客携帶品及郵便物ノ如キハ是等ノ束縛ヲ受クルコトナク任意ニ積卸スルヲ得ヘシ、)

(二)入港及出港届

前示入港届ニハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港日時、及乗組員ノ數ヲ記シ、出港届ニハ船名、國籍、仕向港、及出港日時ヲ記スヘシ、

(三)積荷目録

此ノ目録ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量、及荷受人ヲ記スヘシ、而シテ此ノ目録ハ之ヲ税關ニ差出シタル時ヨリ二十四時間内ナラハ税關ノ許可ヲ得テ訂正補足スルコトヲ得ヘシ、

(四)艙口申告書

申告書ニハ艙口ノ所在、箇數并ニ船名、國籍ヲ記スヘシ、

(五)船用品目録

此ノ目録ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格并ニ船名、國籍ヲ記スヘシ、

(六)旅客氏名表

此表ニハ旅客ノ氏名、國籍、乗船地及上陸地并ニ船名、國籍ヲ記スヘシ、

(七)出港免狀 (Certificate of Clearance)

外國貿易船カ受クヘキ出港ノ免許ハ一ノ文書ニシテ之ヲ出港免狀ト云フ、税關ハ之ヲ交附スルト同時ニ豫テ預リ置キタル船舶國籍証書其他ノ書類ヲ返付スルモノトス、

(八)外國貿易船ト不開港場

外國貿易船ハ海難其他已ムヲ得サル事故アル場合ニ非サレハ、不開港場ニ出入スルコトヲ得サル原則ニシテ、若シ已ムヲ得サル事故ノ爲メ入港シタルトキハ、船長ハ直ニ其ノ事由ヲ税關官吏(若シ該官吏不在ノトキハ警察官吏)ニ届出スヘシ、

外國貨物ニシテ(一)假ニ陸揚シタルモノ、(二)連航ニ堪ヘサル船舶ニ積載シタルモノ、又ハ(三)難破シタルモノヲ不開港場ヨリ開港場ニ回漕セントスル船舶ハ、其ノ船長ヨリ陸揚港、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記スル申請書ヲ税關官吏ニ差出シ認許証ヲ受ケ、開港場ニ入港ノ上ハ二十四時間内ニ此ノ証書ヲ税關ニ差出シ、然ル後陸揚ノ手續ヲ爲スヘシ、

外國貨物ヲ假ニ陸揚セントスル船舶ハ、豫メ船長ヨリ該貨物ノ記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記スル申告書ヲ税關(税關ノ設ナキ地ニ於テハ税關官吏又ハ警察官吏)ニ差出スヘキモノニジテ、海難其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ豫メ此ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ陸揚ノ後直ニ其旨ヲ申出ツヘシ、

其他外國貿易船ニシテ其ノ修繕ノ爲メ又ハ開港場ニテ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚スル爲メ、不開港場ニ出入セント欲スルモノアルトキハ、當分ノ内税關長ハ必要ト認ムル限り之ニ特許ヲ與フルコトヲ得ヘキヲ以テ、此ノ特典ヲ受ケント欲スル船舶ハ、港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由(貨物ノ陸揚ニ係ルトキハ其ノ品名、數量)

ヲ記スル申請書ヲ税關長ニ差出シ、船長ヨリ特許手数料(壹回ニ付拾圓)ヲ納ムヘシ、

(九)外國貿易船ト船用品積入

外國貿易船カ船用品即チ船内ノ普通需用品ヲ積入レントスルトキハ、船長ヨリ其ノ物品ノ種類、數量及價格ヲ記スル申告書ヲ税關(税關ノ設ナキ地ニ於テハ税關官吏又ハ警察官吏)ニ差出スヘシ、

(十)沿海通航船ト外國ノ港

沿海通航船カ海難其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ外國ノ港ニ寄航シタルトキハ、本邦ニ歸着ノ後其地所轄ノ税關ニ申出テ、又外國ノ港ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ、同ク歸着ノ後其地所轄ノ税關ニ該品ノ種類、數量及原價ヲ記スル目錄ヲ差出スヘシ、

(十一)船舶資格ノ變更

外國貿易船ヲ沿海通航船ニ變シ又ハ沿海通航船ヲ外國貿易船ニ變セントスルトキハ、其旨ヲ税關(監視部)ニ申出テ認可證ヲ受クルコトヲ要ス、而シテ後段ノ場合ニハ認可證ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ船舶國籍證書ヲ預ケ入レ、尙ホ船用品目錄

及艙口申告書ヲ差出スヘシ、

(十二) 税關棧橋ノ使用

茲ニ序ナカラ横濱ノ税關棧橋ヲ使用スルノ手續等ヲ畧記スヘシ、即チ該棧橋ニ繫留セント欲スル船舶ハ、税關長宛ニテ成規ノ願書ヲ差出シ繫船免狀ヲ受クヘシ、其ノ繫船料ハ登簿噸數一噸ニ付貳錢ノ割合(一噸未満ノ端數ハ之ヲ除ク)ニシテ、船舶繫留ノ時ヨリ二十四時間ヲ過クルモ引續キ繫留セント欲スルトキハ、更ニ願書ヲ差出シテ免許ヲ得サルヘカラス、而シテ此後ノ繫船料ハ二十四時間毎ニ前示ノ半額即チ一噸ニ付壹錢ノ割合トス(但シ二十四時間未満モ二)其他定期航海船ニ付テハ、税關長ハ大藏大臣ノ認可ヲ得タル上一定ノ期間繫船料ノ割合ヲ減シ、繫留ヲ許スノ特約ヲ爲スコトヲ得ヘシ、現ニ東洋汽船會社船舶ヲ始メ佛獨郵船ノ如キハ此ノ特約ヲ結ビツ、アリ、

棧橋ヨリ陸揚又ハ船積スル貨物ハ、税關所屬ノ貨車ヲ借用シテ之ヲ運搬スヘキモノニシテ(運搬用人夫ハ税關ノ認可ヲ受ケタル者ニ限ル)貨車使用料ハ壹輛十二時間ニ付貳拾錢ニシテ十二時間未満モ十二時間トシテ計算ス、

棧橋ニ繫留スル船舶ハ左ノ諸件ニ注意スルヲ要ス、

- 一、税關長指定ノ場所ニ繫留スヘキモノニシテ、税關長ハ必要アレハ其ノ場所ヲ變セシメ、又ハ一時棧橋ヲ離レシメ、若クハ繫船免狀ヲ取消スコトモアルヘシ、
- 二、既納ノ繫船料ハ決シテ返付セス、但シ税關長ヨリ繫船免許ノ時限以内ニ免狀ヲ取消シタルトキハ之ヲ返付スヘシ、
- 三、爆發質又ハ高度燃焼質ノ物品并ニ石炭、荷足、其他ノ物品ヲ汚染スヘキ貨物ハ、棧橋ヨリ陸揚又ハ船積スルコトヲ得ス、
- 四、棧橋繫留中ノ船舶又ハ棧橋ニ於テ、瀝青、麥兒、其他燃焼質ノ物品ヲ燻ムヘカラス、

(參照) 帝國開港場

我國從來ノ開港場即チ横濱、神戸、新潟、夷港、大阪、長崎ノ七港ノ外、左ノ二十三港ハ開港場ニ指定セラレ三十二年八月四日以後關稅法ヲ施行セラル(但シ絲崎ハ後ニ追加セラル)

駿河國清水	尾張國武豐	伊勢國四日市
備後國絲崎	長門國下ノ關	肥前國門司
筑前國博多	肥前國唐津	肥前國口ノ津
肥後國三角	對馬國嚴原	對馬國佐須奈
對馬國鹿見	琉球國那覇	石見國濱田
伯耆國境	丹後國宮津	越前國敦賀
能登國七尾 <small>(南灣)</small>	越中國伏木	後志國小樽
釧路國釧路	膽振國室蘭	但麥、石炭、硫黃、麥粉、木炭、セメント、硫酸、滿鐵鐵、晒粉、木材、板、竹材ノ輸出ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

其他臺灣ニ基隆、淡水、安平、打狗ノ四開港場アリ、三十二年八月三日附ノ臺灣總督府令ヲ以テ、更ニ左ノ八港ヲ開港ト爲スヘキ旨指定セラレタレトモ、是等ノ新開港場ハ當分ノ内支那形船ニ限り出入スルコトヲ許セリ、

臺北縣	舊港		
臺中縣	後壠	梧棲	鹿港
臺南縣	東石港	東港	
澎湖廳	媽宮		下湖口

第四 噸稅 (Tonnage Dues)

(一) 噸稅ノ納付

内外國ノ船舶ヲ問ハス苟モ海外貿易ノ爲メ我カ開港場ニ入港シタルトキハ、従前ハ船舶ノ大小ヲ問ハス入港手数料十五圓、出港手数料七圓ヲ稅關ニ納ムル規則ナリシモ、噸稅法ノ實施ト同時ニ此ノ出入港手数料ハ廢止セラレ、單ニ入港ノ都度ノミ登簿噸數一噸(又ハ積量十石)ニ付五錢宛ノ割合ヲ以テ、船長ヨリ其港ノ稅關(又ハ稅關支署)ニ納付スヘキコト、爲レリ(入港届ノ際納付スルヲ便宜トス)而シテ一時ニ拾五錢宛ノ割合ヲ以テ納付スルトキハ、其後滿一ケ年間其港ニ於テ噸稅ヲ納ムルニ及ハサル特典アリ、此ノ特典ヲ受

ケント欲スル者ハ其旨ヲ稅關ニ申出テ其ノ認證ヲ受クヘシ、

(二) 除外例

海難其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ開港場ニ入港シタル外國貿易船ハ、規定ノ噸稅ヲ納付スルヲ要セス、但シ此際ハ其ノ事由ヲ稅關ニ向テ詳細證明スヘシ、

(三) 積量測度ノ事

開港場ニ入港シタル外國貿易船ニシテ、我國ト積量測度法ヲ異ニスル外國ニ屬スルモノナルトキハ、我國ノ測度法ニ依テ噸數ヲ換算スヘシ、其他稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ入港船舶ノ測度ヲ爲サシムルコトヲ得、

(四) 證明手数料

噸稅納付済ノ證書又ハ前示船舶測度ノ證書ヲ受ケントスルトキハ、證書一通ニ付手数料壹圓五十錢ヲ納メテ稅關ヨリ申受クヘシ、

(五) 罰則

船舶若シ噸稅ノ逋脫ヲ圖リ、又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ、船長ハ其

ノ當ニ納ムヘカリシ税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處セラルヘシ、

第五 外國諸港ニ於ケル税目、料金等

右ノ如ク我國ノ開港場ニ入港スル外國通航船ハ成規ノ噸税ヲ納付シ、又水先人ヲ雇入レタルトキハ水先案内料ヲ仕拂フヲ要スト雖モ、外國ノ諸港ニ出入スルトキハ各其地ニ定メアル特別規則ニ依リ諸種ノ税金ヲ納付シ又幾多ノ料金ヲ仕拂ハサルヘカラス、例ヘハ英領諸港ニ至ル船舶ハ燈臺税 (Light Dues) ヲ納メ、蘇士運河ヲ通航スルモノハ通航税ヲ納メ、馬耳塞ニ入港スルモノハ衛生税、埠頭税、消防隊費、見張料、曳船料ノ如キ特種ノ費用ヲ仕辨スルノ必要アリ、又安土府^{アントワゼル}ニ出入スルモノハ貨物積卸監視税、繫船料及水上警察手数料ヲ納メ、シヤトルニ至ルモノハ入港税、船舶検査手数料等ヲ納ムルヲ要スルカ如シ、

第六 管海官廳ニ對スル手續

(一) 航海日誌其他ノ書類提出ノ事

日本船舶ニシテ外國ニ通航スルモノハ、外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ノ港ニ到着スル

毎ニ、入港ノ時ヨリ二十四時間以内ニ其港ノ管海官廳(若シ該官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ同官廳) 航海日誌 (Official Log) ヲ差出シテ檢閲ヲ受クヘシ(入港ノ時ヨリ十二時間以内ニ出帆スル船舶ハ此ノ手續ヲ要セス)、左スレハ管海官廳ニ於テハ檢閲ノ上其旨及檢閲ノ年月日ヲ記シ之ニ捺印シテ船長ニ返付スヘシ、

其他内國通航船タルト外國通航船タルトヲ問ハス、管海官廳ヨリ取調等ノ必要アル爲メ、船内備付ノ書類ヲ差出スヘキ旨命令セラレタルトキハ、直ニ之ニ從フヘキハ勿論ニシテ、時トシテ船員、旅客ハ船内ノ出來事ニ付キ該官廳ニ呼出サレ訊問ヲ受クルコトモアルヘシ、

(二) 海難其他ノ事故報告ノ事

(イ) 海難其他事故ノ報告

船舶ノ航行中(一)豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ、(二)人命若クハ他船ヲ救助シタルトキ、(三)衝突、火災、若クハ他ノ海難ニ罹リタルトキ、(四)敵艦若クハ海賊ニ船舶ヲ捕獲セラレタルトキ、又ハ(五)船内ニ死亡者ヲ生シタルトキハ、其後最初ニ到着シタル

管海官廳アル港ノ同官廳ニ船長自ラ出頭シテ報告書ヲ差出スヘシ、若シ前示(二)以下ノ事故カ碇泊中ニ起リタルトキ又ハ船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキハ、其港ノ管海官廳(若シ該官廳ナキトキハ其後最)ニ出頭報告スヘシ、

(ロ) 報告書ノ認証

前項ノ場合ニ於テ管海官廳ヨリ特ニ認証ヲ受クルノ必要アルトキハ、船長ハ別ニ報告書(海難ノ爲メ生シタル貨物ノ損害ニ付キ認証ヲ受)ヲ作り成規ノ手数料(一件ニ付壹圓)ヲ納メ其ノ認証ヲ申請スヘシ、該官廳ニ於テハ認証ヲ爲シタル旨及認証ノ年月日ヲ其ノ報告書ニ記シ捺印ノ上返附スヘシ、

(ハ) 報告書ノ書式

前示海難等ノ報告及管海官廳ノ認証ヲ受クヘキ報告書ニハ、左ノ事項ヲ明記シ、船長之ニ署名捺印スヘキモノトス、

- 一、船名
- 二、船籍港
- 三、船主

- 四、報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及日時
- 五、報告スヘキ事實ノ顛末

(三) 海員不始未届出ノ事

海技免狀ヲ有スル海員カ、乗船執職中左ノ事項ニ該當スル不始未アリタルトキハ、其ノ船舶ノ船長又ハ代理者ヨリ碇泊中ナレハ其地、航行中ナレハ其後最初ニ到着シタル地ノ海事局、海務署、警察署、又ハ市町村役場(外國ニ在リテハ帝國領事館又ハ貿易事務館)ニ其旨ヲ詳細届出ツヘシ、

- 一、其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二、自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若クハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 三、人ヲ殺傷シタルトキ
- 四、海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
- 五、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 六、乱酔粗暴其他ノ失行アリタルトキ

(四) 船内ニ於ケル死亡、出生

(イ) 海員ノ死亡及遺産目録ノ作成

海員船内ニ於テ死亡シタルトキハ、船長ハ重立チタル海員二名以上ヲ立會ハシメテ其ノ遺産ヲ取調ヘ遺産目錄ヲ作成スヘシ、此ノ目錄ニハ(一)死亡シタル海員氏名、本籍地、住所、及死亡ノ年月日時、(二)遺産ノ品名及數量、(三)遺産目錄ヲ作成シタル年月日ヲ記シ、船長及右立會人連署スヘキモノトス、

(ロ) 船内ニ於ケル出生、死亡ノ戶籍手續

海員ト旅客トヲ問ハス航海中船内ニ於テ出生又ハ死亡アリシトキハ、船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ二十四時間内ニ乗船者中ヨリ撰ヘル證人ノ前ニ於テ、航海日誌中「出生」又ハ「死亡」ノ欄内ニ必要ノ諸件ヲ記入シ、證人ト共ニ署名捺印スヘシ、而シテ本邦ノ港ニ到着シタルトキハ、二十四時間以内ニ右航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付シ、若シ又外國ノ港ニ入港シタルトキハ、遲滞ナク右謄本ヲ其地駐在ノ帝國公使又ハ領事ニ送付スヘシ、

(ハ) 遺産目錄ノ提出

前項ノ如ク戶籍法ニ依リ死亡ニ關シテ航海日誌ノ謄本ヲ戶籍吏、公使又ハ領事ニ

送付スル場合ニハ、船長ハ其港ノ管海官廳(該官廳ナキトキハ其後最初ニ着シタル管海官廳アル港ノ同官廳)ニ遺産目錄ヲ差出スヘシ、但シ死亡ニ關シ右ノ如ク日誌ノ謄本ヲ送付スルノ必要ナキ場合ニ於テモ、船長ハ管海官廳ニ遺産目錄ヲ差出スヘキモノトス、而シテ該目錄ヲ受ケタル管海官廳ハ、船長ニ命シテ該官廳又ハ其ノ指定スル管海官廳ニ遺産其物ヲ差出サシムルコトヲ得ヘシ、

第七 檢疫ノ手續

(一) 手續ノ大要

海外諸港又ハ臺灣ヨリ横濱、神戸、長崎、門司、下ノ關、口ノ津等ノ如キ檢疫施行ノ海港ニ來ル内外國船舶(大和船、漁船等ヲ除ク)ハ、海港檢疫法ニ依リ傳染病豫防ノ爲メ其ノ入港スル前ニ檢疫官吏ノ檢疫ヲ受ケサルヘカラス(臺灣ニ於テハ基隆、淡、水南港ニテ檢疫ヲ行フ)、即チ以上ノ船舶カ檢疫所ニ接近スルトキハ、一時停止シテ檢疫官吏ノ臨檢ヲ待チ、(尤モ郵便急入港ヲ要スル船舶ニシテ日没後檢疫ヲ受ケントスルモノハ檢疫番船又ハ見張所附近ニ於テ長汽笛三聲ヲ發シ臨檢ヲ求ムヘシ)船長(船醫ノ乗組ムト)ヨリ成規ノ用紙ニ船名、船籍、噸數、船主、發航港、寄航港、仕向港、旅客、船員、飲食品ノ積入地、

積荷ノ種類及船積地、積荷中「ばろ」、古綿等ノ有無、傳染病患者又ハ死亡者ノ有無、傳染病地ヨリ來航スル船舶ト交通ノ有無等ニ關スル詳細ノ事實ヲ記入セル「明告書」ヲ差出シ、之ト同時ニ旅客、船員ヲ甲板ニ集合シ、其他船室モ一應ノ検査ヲ受ケ、異狀ナシト認メラルレハ成規ノ許可書ヲ付與セラルヘシ、此ノ許可書ヲ得タル上ニ非サレハ其港ニ入港スルコトヲ得サルハ勿論、縦シ入港シタリトテ陸地若クハ他船ト交通スルコトモ、旅客及船員ヲ上陸セシムルコトモ、貨物其他ノ物件ヲ陸揚スルコトヲモ均ク得サルノ規則ニシテ、若シ又一旦入港シタル後傳染病患者ヲ船内ニ生シタルトキハ、直ニ検査官吏ノ指圖ニ從ヒ更ニ検査ヲ受ケ、同ク其ノ許可證ヲ得ルニ非サレハ他港ニ進航シ陸地若クハ他船ト交通シ旅客及船員ノ上陸、貨物其他ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得サル者トス、而シテ是等ノ規則ニ違背スルトキハ五拾圓乃至五百圓ノ罰金ニ處セラルヘシ、其他東洋諸港ニ於テハ、支那沿岸ノ「ベスト」流行地ヲ經由スル船舶ニ向テ最モ嚴重ニ検査法ヲ施行スルノミナラス、同地ヨリ乗船シタル下等支那人ノ上陸ヲ禁スル場所モ有ルヲ以テ、船長船主ハ常ニ這般ノ消息ヲ詳ニスルコト亦肝要ナリ、

(二) 検査港、検査所及検査病

(イ) 検査ヲ施行スル海港ハ左ノ如シ

- (一) 横濱
- (二) 神戸
- (三) 長崎
- (四) 山口ノ津
- (五) 基隆
- (六) 淡水

其他臨時検査ヲ行フ海港ハ内務大臣(又ハ臺灣總督)ヨリ指定スルノ規則ニシテ、左ノ五港ハ三十三年二月十一日ヨリ臨時検査ヲ行ハル、コト、爲レリ、

- (一) 函館
- (二) 小樽
- (三) 室蘭
- (四) 清水
- (五) 唐津

(ロ) 検査事務ヲ掌ラシムル爲メ左ノ海港検査所ヲ設ク、

- (一) 横濱海港検査所(在横濱)
- (二) 神戸海港検査所(在和田岬)
- (三) 長崎海港検査所(在女神)
- (四) 門司海港検査所(在門司)
- (五) 長崎海港検査所支所(在口ノ津)

(六)基隆海港檢疫所(在基隆)

(備考)

- 一、横濱、口ノ津又ハ淡水ニテ檢疫ヲ受ケ消毒ヲ要スル船舶ハ、夫々長濱、女神、基隆ニ回航セシム、
- 二、小樽、室蘭ニ來航スル船舶ニテ消毒ヲ要スルモノハ函館ニ、清水ニ來航シ消毒ヲ要スルモノハ長濱ニ、唐津ニ來航シ消毒ヲ要スルモノハ女神又ハ彦島ニ、當該官吏ニ於テ回航セシムルコトアルヘシ、

又三十三年四月一月ヨリ左ノ各地ニ臨時海港檢疫所(所在道廳府縣ノ警部)ヲ開設セラル

- (一)函館 (二)小樽 (三)室蘭
- (四)清水 (五)武豊 (六)四日市
- (七)品津 (八)唐津 (九)殿原
- (十)角 (十一)鹿兒島 (十二)那霸

(ハ)檢疫ヲ施行スル傳染病ハ左ノ如シ

- (一)虎列刺 (Cholera) (二)痘瘡 (Small-Pox) (三)猩紅熱 (Scarlet-fever)
- (四)ペスト (Pest) (五)黃熱 (Yellow-fever)

其他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ要スルトキハ内務大臣(又ハ臺灣總督)ヨリ指定ス、

(三)傳染病ニ關スル檢疫官吏ノ處分權

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル内外國船舶ニシテ、傳染病流行地ヲ經由スルカ若クハ實

際傳染病患者アリタルモノ檢疫施行港(内地、臺灣共)ニ入港セントスルトキハ、其

ノ入港前ヨリ檢疫所長ノ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號(檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前橋頭ニ黃旗ヲ掲

ヲ掲クヘキモノニシテ(但シ檢疫ヲ施行セサル港ニ入港セントスルトキハ同ク檢疫信號)懸テ檢疫官吏

本船ニ臨檢シ左ノ區別ニ從ヒ適宜處分ヲ爲スヘシ、

- 一、現ニ傳染病患者若クハ死亡者アルモノハ一定ノ期間停船ヲ命ジ(一)ペスト(七日間、虎列刺及黃熱ハ五日)患者死亡者ノ處分ヲ指示シ、船舶其他ノ物件ノ消毒法ヲ施行シ、且ツ必要アリト認ムルトキハ旅客、船員ヲ檢疫所ニ移轉セシムルコト
- 二、航海中傳染病患者若クハ死亡者アリタルモノハ、第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 三、傳染病流行地(其都度内務省又ハ臺灣總督府ヨリ告示ス)ヲ發シ又ハ其地ヲ經テ來航シ、若クハ其ノ船舶ニ傳染病毒ノ汚染シタル疑アルモノハ、必要ト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 四、停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ、更ニ右第一號ノ規定ニ依リ處分スルコト
- 五、傳染病ノ疑アル出者アルトキハ、消毒ヲ要セサルモ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

(注意)

- 一、船長以下ノ船員及旅客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ答ヘ又其ノ請求アルトキハ船長、船醫其他ノ船員ヨリ成規ノ用紙ニ事實ヲ記スル「明告書」ヲ差出スヘシ
- 二、停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得シテ他ニ移轉スヘカラス
- 三、檢疫所ニ移轉セシメラレタル旅客、船員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得シテ本船其他ト交通シ又ハ積荷其他ノ物件ヲ持チ出スヘカラス

(四) 檢疫所へノ移轉

傳染病患者又ハ死亡者ヲ生シタル船舶ニ同乗シ、該患者又ハ死亡者ニ觸接シタルカ若クハ其ノ疑アル旅客、船員ハ、檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメラルヘキ規定ニシテ、前項第一號ノ停留期間ト同ク「ベスト」患者ニ付テハ七日間、虎列刺又ハ黃熱患者ニ付テハ五日間停留セラルヘシ、若シ停留中其ノ一人ニテモ新ニ傳染病ヲ發スルトキハ、其ノ全部又ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ前述ノ期間丈ケ引續キ停留ヲ命セラルヘシ、但シ本船ニハ別ニ累ヲ及ホサ、ルモノトス、

(五) 傳染病死亡者ノ處分

死体ハ指定ノ場所ニ於テ火葬シ、其ノ遺骨ハ引受人又ハ船長(若クハ其ノ代理人)ニ引渡サルヘシ、若シ引受人ナク船長モ在ラサルカ又ハ引受ヲ拒ムトキハ、行旅病人及死亡人取扱法ニ依リ處分セラルヘシ、而シテ親族又ハ縁故アル者ヨリ死躰引渡ヲ願出ラタルトキハ、病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ許可セラルヘシ、

(六) 消毒費ノ定額及支辨方

船舶、積荷、其他ノ物件ヲ消毒スルニハ、檢疫官吏自ラ之ヲ行ヒ、船長其他ノ乗組員ハ之ヲ補助スルノ義務アリ、而シテ是等ノ消毒費ハ船主又ハ船長(若クハ其代理人)之ヲ支辨スヘキモノニシテ、其ノ定額左ノ如シ、

- 一、船舶消毒費
 - 登簿噸數百噸未満 拾圓 (臺灣ニ於テハ一〇乃至一五)
 - 同百噸以上千噸未満 貳拾圓 (同)
 - 同千噸以上二千噸未満 參拾圓 (同)
 - 二千噸以上ハ一千噸ヲ増ス毎ニ拾圓ヲ加フ
- (其他臺灣ニ於テハ日本形船舶及漁船ハ大小ヲ問ハス一圓乃至十圓トス)
- 二、積荷消毒費 一個ニ付拾錢 (臺灣ニ於テハ拾錢乃至壹圓)
- 三、旅客、船員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費
 - 一二等旅客及之ニ準スヘキ船員 一人分ニ付壹圓 (臺灣ニ於テハ壹圓乃至參圓)
 - 三等旅客及之ニ準スヘキ船員 一人分ニ付拾錢 (同)
 - (其他臺灣ニ於テハ日本形船舶支那形ノ旅客船員及漁船漁夫ハ一人ニ付五錢乃至十錢トス)

(七) 傳染病患者等ニ關スル費用

檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費并ニ傳染病患者又ハ死者ニ關スル費用ハ、船員ニ屬スル分ハ船長(若クハ其ノ代理人)ヨリ之ヲ支辨シ、旅客ニ屬スル分ハ本人ヨ

リ之ヲ支辨スヘキモノニシテ、其ノ金額ハ海港檢疫所長ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得タル上定ムヘシ、

(八) 事實隱蔽ノ罰則

前述ノ如ク海外諸港又ハ臺灣ヨリ來航スル船舶ハ、傳染病豫防ノ精神ニ從ヒ必スヤ成規ノ檢疫ヲ受ケ、檢疫官吏ノ指圖ニ依リ相當ノ手續ヲ爲スヘキ事ハ航海者ノ決シテ輕忽ニ附スルヘカラサル所ナリ、然ルニ船内ニ傳染病患者アル場合ノ如キハ、爲ニ幾日間ノ停船ヲ命セラレ、船主及旅客ニ多少ノ迷惑ヲ惹起スヘキヲ以テ、動モスレハ事實ヲ隱蔽スルノ弊害アリ、之カ結果トシテ恐ルヘキ傳染病ヲ蔓延シ非常ノ損害ヲ伴フヘキヲ以テ、苟モ航海者タル者ハ公益ヲ重ンシ決シテ違法ノ行爲ナキコトヲ要ス、海港檢疫法ニ此種ノ罰則ヲ左ノ如ク規定セリ、

檢疫其他檢疫法ノ執行ヲ拒絶若クハ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辨ヲ爲サス若クハ虛偽ノ事實ヲ答辨シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ貳拾圓乃至二百圓ノ罰金ニ處ス
船長若クハ船長ノ職務ヲ行フ者カ前示ノ罪ヲ犯シ又ハ旅客、海員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ五拾圓乃至五百圓ノ罰金ニ處ス

第二十章 海 難

第一 海難ノ種類

船舶カ海上ニ於テ遭遇スル虞アル危険ハ、暴風怒濤ノ如キ自然力ノ災害ノミナラス、時トシテハ人事上ノ異變ヲ生スルコトモ甚ナカラス、試ニ海上ノ危険即チ海難ノ種類ヲ枚舉セハ、衝突、乗揚（座礁、膠沙等）火災、風災、機關破裂、船内ノ暴動、海賊、強盜、外敵ノ襲撃等ニシテ是等ノ海難ニ罹リタルトキハ、小ニシテハ船艙ヲ破損シ貨物ヲ損傷シ大ニシテハ船舶ヲ沈没シ人命ヲ喪失スヘシ、左レハ一船ヲ指揮スル船長ハ、海難ニ臨ミ事ノ大小緩急ニ應シテ夫々適當ノ處置ヲ施シ、可成損害ヲ少ナクスルノ覺悟最モ必要ナリトス、

第二 救護及退船ノ心得

海難ヲ救護スルニ方リ注意スヘキハ、人命ノ救助ヲ先ニシ各員ニ救命具ヲ携帯セシムヘキコトニシテ、次ニ郵便物、必要書類、船艙及貨物ノ保護ニ及ホスヘシ、船舶愈々危

急ニ迫リ救護ノ見込ナキニ至リタルトキハ、船長ハ先ツ旅客及乗組員ヲ悉ク退船セシメ、己レ自ラハ最後ニ本船ヲ去ルヘキモノトス、而シテ船長以外ノ乗組員ハ終始船長ノ命令ヲ奉シテ進退シ、其ノ一部ハ旅客ヲ乗セタル端艇ヲ操轉シツ、避難スヘキモ、殘ル人員ハ何レモ船内ニ留マリ上長ノ指圖ニ從ヒ救護方ニ盡力シ、又機關長以下ノ機關部員ハ海水機關室ニ侵入スル時ト雖モ船長ノ命令アルニ非サレハ侵水ノ爲メ汽鐘ノ火消滅スルマテ機關室ヲ去ルヘカラス、應テ救護ノ手段盡キ船体沈没セントスルニ至レハ、船長カ「總員退去」ノ命令ニ依リ各自船舶ヲ去リ、最後ニ船長ハ其ノ瞬間マテ指揮シタル船舶ニ訣別スヘキナリ、

第三 投荷及荷卸

船舶暴風ニ遭遇スルカ若クハ多量ノ侵水アルトキハ、船舶ノ安全ヲ保タンカ爲メ積荷ノ一部ヲ投棄シテ船体ヲ輕クスルノ必要アルヘシ、之ヲ投荷又ハ打荷 (Tossing) ト云フ、此ノ場合ニハ決シテ必要以外ノ投棄ヲ爲スヘカラサルハ勿論、先ツ比較上廉價ニシテ重量大ナルモノヲ撰ヒ、最モ少ナキ損害ヲ以テ最モ効力アル方法ヲ探ルニ注意スヘキハ理

ノ當然ナリトス、又船舶カ海難ノ爲メ積荷ヲ目的地マテ運送スルコト能ハス、途中ニテ陸揚スルヲ通例荷卸ト云フ、此ノ場合ニハ適當ノ保存法ヲ施シ、其ノ處分法ニ付テハ船主又ハ荷主ト打合スルノ必要アルヘシ、尤モ腐蝕若クハ毀損シ易キ貨物ニシテ急速ノ處分ヲ要スヘキモノハ、船長ノ見込ヲ以テ臨機ノ處分ヲ爲スヘキコト勿論トス、

第四 軍艦ノ援助

元來軍艦ハ海難ニ罹レル船舶ヲ援助スルノ任務ヲ有ス、帝國艦隊職員勤務令第三十四條ニ曰ク「司令長官ハ内外國艦船座礁、火災、其他危難ニ罹レル事實ヲ見聞スルトキハ臨機應下ノ艦船ニ命シ相當ノ救護ヲナサシムルコトヲ得」又軍艦職員勤務令第二百二十六條ニ曰ク「艦長遭難ノ艦船ヲ發見シタルトキハ之ヲ救助スヘシ又陸地ニ火災アルトキハ便宜ニ從ヒ消防ノ處置ヲ施スヘシ」ト、以テ軍艦任務ノ在ル所ヲ知ルヘシ、故ニ船舶カ一朝危險ニ陥リタルトキハ軍艦ヨリ相當ノ援助ヲ假リ得ヘキコト明ニシテ、茲ニ一二ノ例ヲ擧クレハ、暴風ノ爲メ踪跡ヲ失ヒタルトキハ、船主ハ海軍省又ハ鎮守府ニ申出テ搜索方ヲ請願スルコトヲ得ヘク或ハ座礁、膠沙シテ容易ニ浮キ揚ラサルトキハ、之カ曳出方

ヲ請願スルコトヲ得ヘク、或ハ又難破シタルトキ若クハ船内ニ暴動アリタルトキハ、最寄ニ在ル軍艦ノ助力ヲ請フコトヲ得ルナリ、

第五 海難ノ認證

船舶カ航海中(碇泊中)左ノ事故ヲ生シタルトキハ、成規ノ通り最寄ノ管海官廳(海警局又ハ海務署)ノ外指定ノ沿海市町村(モ然リ)ニ届出ヲ爲スノ外、後日ノ證ニ供スル爲メ報告書ヲ作り同官廳ノ認證ヲ受クルコト必要ナルヘシ(此ノ手續ニ付テハ第十九章第六(二)參看)、是レ船長ノ等閑ニ附スヘカラサル所ニシテ、延テ船主ノ利害ニ緊切ナル關係ヲ及ホスヘキモノトス、

- 一、豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 - 二、豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
 - 三、人命又ハ他船ヲ救護シタルトキ
 - 四、衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ
 - 五、本船捕獲セラレタルトキ
 - 六、船内ニ死亡者(殊ニ變死者又ハ殺)アリタルトキ(害セラレタル者)
- 其他海難ノ爲メ船休又ハ積荷ヲ損傷シ若クハ損傷ノ疑アルニ方リ、必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲシテ海損ノ鑑定ヲ爲サシムヘシ、

第六 他船ノ救護 (Salvage)

船舶若シ他船ト衝突シ、他船ノ人命又ハ船舫ヲ救護スルノ必要アルトキハ、自船ニ急迫ノ危険ナキ限り、之カ救護ニ盡力スヘキコト當然ニシテ、此ノ場合ニハ自他ノ船名、船籍港、發航港及到達港ヲ相告知スルノ義務アルモノトス、航海中救護ヲ求ムル遭難船ヲ認メタルトキモ、亦同ク自船ニ急迫ノ危険ナキ限り義務トシテ人命救助ニ必要ナル手段ヲ盡スヘキコトナレトモ、船舶及其ノ積荷ニ付テハ右衝突ノ場合ト異ナリ、必スシモ自ラ進テ救護スヘキノ義務ナシ、斯ル際ニ遭難船ノ乗組員ヨリ船舶積荷ノ救助ヲ依頼セラル、トキハ、船長ハ其ノ救護ノ爲メ本船ニ及ホスヘキ利害ノ關係ヲ熟慮シテ慎重事ヲ處セサルヘカラス、即チ遭難船ヲ曳行キ又ハ其ノ積荷ヲ本船内ニ積移スノ餘力アリトスルモ、之カ爲メ不時ノ勞力ト時間ヲ費シ、剩サヘ多少ノ危険ヲ冒スノ常ナルヲ以テ、之ニ對シテ被救護者ヨリ相當ノ報酬ヲ得ヘキヤ否ヤヲ考ヘ、又斯ル義務外ノ救護ヲ爲スニ付テハ、若シ其後本船ニ損害ヲ生スルコトアルモ保險者ハ該損害賠償ノ責ナカルヘキコトヲ省察スル等、十分ニ本船ノ利益成算ヲ確メタル上救護ノ依頼ニ應スヘキモノトス、

海外主要ノ港ニ於テハ水難救護ヲ營業トスル會社又ハ組合ノ設アリ(附錄第十四參看) 常ニ蒸氣唧筒、潜水器等救護ニ必要ナル諸般ノ器具ヲ用意シ、又特ニ救護用ノ船舶ヲ準備シ置キ、一朝海難ノ起ルニ會シ該會社ニ依頼セハ、直ニ現場ニ駆付ケテ船艙及積荷ノ救護ニ盡力スルヲ例トス、之カ爲メ海上保險者ニ非常ノ利便ヲ與フルノミナラス一般船主ヲ裨益スルノ多キハ明瞭ナリ、而シテ遭難船舶ノ救護ニ關シ、救護者タル會社等ト被救護者タル遭難船トノ間ニ結フヘキ救護契約(Salvage Agreement)ニ二様ノ主義アリ、一ハ救護其効ヲ奏セハ若干ノ報酬ヲ呈スヘシト約束スルモノニシテ、一ハ若シ救護其効ヲ奏セサルトキハ毫モ報酬ヲ受ケサルヘシト云フモノ(即チNo cure no pay)是ナリ、右ノ如ク遭難者ヨリ救護ヲ依頼シ豫メ契約ヲ結ビ救護ヲ受クルモノハ、英法ニ所謂(Implied or Engaged Salvage)ニシテ契約中ノ報酬ハ當然之ヲ仕拂フコトヲ要ス、蓋シ遭難船ヲ其儘ニ放棄シ置クトキハ普通ノ漂流物ト看做サレ之ヲ拾得シタル者ハ、我國ニ於テハ水難救護法ノ規定ニ依リ該物件價格ノ十分ノ一ニ相當スル報酬ヲ受クルヲ得ヘシト雖モ、航海ノ途中他船ヲ救護スルハ、前述ノ如ク多クノ勞力ト費用ヲ要スル外亦冒險

ノ所業タルヲ以テ、之ニ對シ相當ノ報酬ヲ受クヘキハ當然ニシテ、報酬額カ救護セラレタル物件ノ價格ノ三分ノ一ナルハ各國間ニ行ハル、普通ノ慣例ナルカ如シ、尤モ非常ノ危険ヲ冒シ盡力シタルニ拘ラス、救ヒ上ケタル物件ノ價格案外ニ少額ナルトキハ、其ノ二分ノ一迄ノ報酬ヲ請求スルヲ得ヘシ、之ニ反シ若シ救護者ニ於テ遭難者危急ニ瀕スルヲ奇貨トシ不當至極ノ報酬ヲ請求シ、遭難者ハ急迫ノ際之ヲ拒ムニ由ナク不本意ナカラ契約ヲ結ヒタルカ如キ場合ニハ、裁判官ノ認定ニ依リ相當ノ金額マテ報酬ヲ減スルヲ得セシムル事、亦各國法令ノ一致スル所ナリ、其他契約ニ依ラス偶然ニ救護ヲ受クル場合アリ、英法ノ(Voluntary Salvage)ト稱スルモノ是ナリ、此ノ場合ニハ相方ノ示談ヲ以テ事後ヲ善クスルノ慣習ナレトモ、若シ談判不調ニ歸スルコトアラハ、亦同ク裁判官ノ判決ヲ仰キ、其ノ相當ト認ムル報酬ヲ被救護者ヨリ仕拂ハサルヘカラスト知ルヘシ、尙ホ救護報酬額(Salvage award)ノ分配方ニ付テ一言スヘシ、我國ニ於テハ斯ル方法ニ關スル何等ノ規定ナシト雖モ、海外諸國ニ在リテハ或ハ法令ヲ以テ定メ、或ハ當時ノ狀況ニ從ヒ裁判官ノ認定ニ委スルモノ、如シ、即チ一例ヲ示セハ獨逸、瑞典等ニ於テハ報

酬ノ半額ヲ自ラ手ヲ下シタル救護者ニ與ヘ、殘ル半額ハ一半ヲ船主及船長ニテ取得シ、他ノ一半ヲハ他ノ船員ニ分與セシムルノ規定アリ、又英國ニ於テハ海事裁判所ハ報酬ノ分配方ニモ干涉シ、或ハ船長以下船員カ多額ヲ得ルコトアリ、或ハ船主カ多額ヲ得ルコトアリ、其ノ場合ニ依リ大ニ異同ヲ見ルト云フ、

第七 海難ノ報告

船舶カ海難ニ罹リタルトキハ成規ノ通り最寄ノ管海官廳ニ届出ツヘキハ勿論(此ノ手續ニ付テハ第十九章第 六(二)參看)直ニ船主其他ノ關係者ニ報告スルノ必要アルモノニシテ、其ノ報告ハ事ノ輕重緩急ニ依リ固ヨリ異同アルヘシト雖モ、先ツ電信ヲ以テ要領ヲ通報シ置キ、次ニ郵書ヲ以テ顛末ヲ詳報スルノ例ナリ、而シテ此ノ顛末報告ニハ大要左ノ事項ヲ明記スヘキモノトス、

- 一、事件ノ發生シタル日時、場所及原因
- 二、當直役員ノ氏名
- 三、當直舵取及看守ノ氏名
- 四、當時施シタル危難豫防ノ處置
- 五、機關ノ運轉方法

- 六、旅客及船員ノ員數并ニ其ノ死傷ノ有無
- 七、船舶損傷ノ箇所、程度并ニ其ノ進航ノ適否
- 八、郵便物及貨物ノ數量并ニ其ノ損害ノ有無
- 九、當時施シタル救助ノ方法
- 十、衝突ノ場合ニ於テハ他船ノ名稱、國籍、所有者、發航港、到達港及損害ノ現狀

右海難顛末報告ニハ當該官廳ニ差出シタル報告書其他書類ノ謄本ヲ添ヘ、又船長以下ノ船員カ海難事件ニ關シ當該官廳ノ取調若クハ審問ヲ受ケタルトキハ、其ノ訊問ニ對シテ答辨シタル要領ヲ船主ニ報告スルヲ要ス、其他海難ノ爲メ生シタル損害及費用ニ關シ詳細ノ記録ヲ作り置クカ如キモ亦須要ノ事ニシテ、船員タル者ユメ怠ルヘカラサル所ナリトス、

第八 水難救護ノ義務

(一) 市町村長及警察官ノ救難義務

水難事件ヲ最初ニ認知シタル市町村長(臺灣ニ於テハ辨務署長)ハ、水難救護法ノ命スル所ニ依リ救護ノ事務ヲ行フヘキモノニシテ(通例遭難船ヲ發見シタル沿岸住民ヨリ最寄ニ駐在スル警察官ニ報告スレハ警察官ハ更ニ市町村長ニ通知ス)直ニ現場ニ臨ミ救護ノ爲メ必要ナル處置ヲ爲スヘシ、此際警察官ハ市町村長ニ助

カシ、市町村長若シ現場ニ在ラサルトキハ自ラ之ニ代テ職務ヲ行フヘキモノトス、

(二)市町村長ノ權利及之ヲ冒ス者ニ對スル罰則

市町村長ハ遭難船救護ノ爲メ人足ヲ招集使役シ、舟車馬匹其他ノ物件ヲ徵用シ又他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得ヘキモノニシテ、救護ノ際防害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲アル者ハ之ヲ退去セシメ、又暴行ヲ爲ス者アラハ其ノ身軀ヲ拘束スルコトヲ得ヘシ、其他遭難船並ニ救上ケタル他ノ物件ヲ保管、公賣又ハ引渡ス等ノ權利ヲ附與セラル、而シテ是等ノ權利ヲ執行スルニ方リ、之ヲ拒ミ若クハ防クル者アラハ罰金其他ノ刑ニ處セラルヘシ即チ左ノ如シ、

(イ)遭難船救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處セラル、

- 一、正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セン又ハ車馬其他物件ノ徵用若クハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者
- 二、市町村長ヨリ招集セラレナカラ其ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スルコトヲ拒ミタル者
- 三、市町村長方救護ノ際暴行者ノ身軀ヲ拘束セントスル場合ニ助力ヲ命セラレタルニ拘ラス其ノ命ヲ拒ミタル者

(ロ)遭難船救護ノ場合ニ妨害ヲ爲シタル者ハ、一ヶ月乃至六ヶ月ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加セラル、

(三)船難報告書

船長ハ遭難後遲滞ナク左ノ事項ヲ記スル船難報告書ヲ作り市町村長ニ差出スヘキモノニシテ、該報告書ニ市町村長ノ認證ヲ受クル必要アルトキハ、特ニ二通ヲ差出シ、其一通ノ末尾ニ於テ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨ノ記入ヲ受クヘシ、

- 一、船種、船名、
- 二、噸數又ハ積石數
- 三、船籍港
- 四、船主
- 五、發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所
- 六、遭難及救護ノ顛末
- 七、船舶ノ損害
- 八、死傷者ノ氏名
- 九、滅失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、數量、荷造ノ種類、個數、記號、荷造人ノ氏名等

船長若シ右ノ船難報告書ヲ差出スコトヲ怠リタルキハ、五圓乃至五十圓ノ罰金ニ處セラレ、又詐僞ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタルトキハ、十一日乃至六ヶ月ノ禁錮又ハ三十圓乃至三百圓ノ罰金ニ處セラルヘシ、

(四)救護物件引渡ノ手續

市町村長ハ遭難船其他救上ケタル物件ヲ保管又ハ公賣スルノ權利アルコト前述ノ如クニシテ、然ル後救護ニ關係シタル者(遭難船ノ船員及船主、船長ノ意ニ反シテ強テ救護シタル者、救護ノ際妨害又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者等ヲ除ク)ノ勞務報酬(一)、救護ノ爲メ要シタル車馬等ノ徵用又ハ土地ノ使用ニ對スル補償(地方習慣上賃テ各人勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度、及被害ノ大小ヲ斟酌シテ定ム)(二)、救上ケタル物件ノ運搬保管又ハ公賣ニ要シタル費用(三)、ヲ合算シテ救護費用ヲ定メ、其ノ金額ヲ船長又ハ船主ニ通知シ一定ノ期間内ニ納付セシムヘシ、而シテ之ヲ納付スレハ豫テ市町村長ノ保管ニ係ル救護物件一切ヲ引渡スモノトス、尤モ船長又ハ船主ニシテ擔保物ヲ供スルトキハ、右ノ救護費用ヲ納付セサル前ニ救護物件ノ全部若クハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得ヘシ、茲ニ一言スヘキハ以上ノ規定アルニ拘ラス、船員ノ所持品、船員及旅客ノ食料、旅客ノ無連賃手荷物等ハ、請求ニ依リ何時ニテモ引渡ヲ受ケ得ヘキモノナルコト是ナリ、

船長又ハ船主ニシテ若シ市町村長指定ノ期間ヲ經過スルモ救護費用ヲ納付セサルトキハ、市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保物ヲ公賣シ、其得タル金額ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘキナリ、

而シテ前述ノ如ク市町村長カ遭難船ノ救護ニ盡力スルモ竟ニ其効ナク、船舶始メ船内ニ積載シタル貨物ノ一品ヲモ救上クルコト能ハサルトキハ如何スヘキヤト云フニ、此ノ場合ニハ救護ノ費用ハ一切國庫ノ負擔ニ歸スヘキモノニシテ、縦シ又人命ノミ救助セラレタリトスルモ、船舶又ハ貨物ニシテ救上ケラレサル以上ハ、依テ以テ救護費用ヲ支辨セシムルニ途ナキナリ、然レトモ人命救助者ハ他ノ物件ヲ救上ケタル者ヨリ重キヲ措カルヘキハ當然ニシテ、勞務ノ報酬ヲ受クルニモ之ヲ先ニスヘク、又褒章條例ニ依リ自己ノ危險ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル廉ヲ以テ名譽ノ紅綬褒章ヲ下賜セラル、事アルヘシ、其他船舶航海中海難ノ爲メ運航ノ自由ヲ失ヒ他船ニ曳船ヲ依頼スル場合ノ如ク相互ノ間ニ救護契約ヲ結フトキハ、假ヒ救護ノ地位ニ立テル船舶ノ盡力カ其ノ目的ヲ達スルニ及ハサルニセヨ、契約面ニ從ヒ相當ノ報酬ヲ請求シ得ヘキハ勿論ナリトス、

(五) 漂流物及沈没品ノ取扱手續

航海者、漁民又ハ沿岸住民ハ、海上ニ漂流シ又ハ水底ニ沈没シタル物件即チ船舶、船用品、積荷、材木等ヲ拾得スルコト珍ラシカラス、此ノ場合ニハ速ニ最寄ノ市町村長

ニ引渡スヘキモノナレトモ、該物件ノ所有者ニシテ分明ナル以上ハ拾得ノ日ヨリ七日
内ニ限り拾得者ハ之ヲ其ノ所有者ニ直接引渡スコトヲ得ヘシ、而シテ此ノ場合ニハ拾
得者ハ所有者ヨリ報酬トシテ、河川ニ漂流スル材木ナラハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其
他ノ漂流物ナラハ該物件價額ノ十分ノ一、沈没品ナラハ同三分ノ一ニ相當スル金額以
内ヲ受クルコトヲ得ヘキモノトス、

然ルニ拾得者ヨリ一旦市町村長ニ引渡シタル上ハ、市町村長ハ之ヲ保管スルト共ニ
新聞其他便宜ノ方法ニ依テ所有者ヘ引渡ノ旨ヲ公告シ、若シ公告前ニ其ノ所有者知レ
タルトキハ直ニ之ヲ告知シ別ニ公告セサルモ可ナリ、而シテ斯ク公告又ハ告知シタル
日ヨリ一年以内ニ限り、所有者ハ河川ニ漂流スル材木ナラハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其
他ノ漂流物ナラハ該物件價格ノ十分ノ一、沈没品ナラハ同三分ノ一ニ相當スル金額ト、公
告、保管、公賣及評價ニ要シタル費用トヲ、市町村長ニ納メ物件ノ引渡ヲ受クルヲ得ヘ
シ、此ノ場合ニハ市町村長ハ、拾得者ニ向テ右所有者ヨリ納メタル前段ノ金額（即チ
當該物件價格ノ十五分ノ一、十分ノ一又ハ三分ノ一）ヲ報酬トシテ支給スヘキモノトス、

其他警察官カ航路、錨地又ハ建物ニ障害ヲ爲スト認メ、漂流物又ハ沈没品ヲ取除ク
コナキニ非ス、此ノ場合ニハ警察官ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡シ、市町村長ハ前項
ノ場合ト同ク之カ保管ヲ爲スト共ニ公告又ハ告知ヲ爲シ、其日ヨリ一年以内ニ所有者
出テ物件ノ引渡ヲ請フトキハ其ノ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメタル
上該物件ヲ引渡スヘキモノトス、

（注意）本項ニ上來敘述シタル市町村長ノ事務ハ、東京、京都、大阪ノ三市ニテハ區長、市町村制ヲ施行セザ
ル地ニテハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フモノト知ルヘシ、

第九 水難救濟會救難所

是レ國內有志家ノ設立ニ係ル帝國水難救濟會ノ建設スル所ニシテ、各救難所ニハ見張
所ヲ設ケ看守ヲ置キ救助船ヲ備フ、若シ海上ニ遭難船アリ一タヒ看守ノ眼ニ映スルトキ
ハ、直ニ之ヲ救難所長及救助夫長ニ通知スヘシ、是ニ於テ救助船ハ救助夫長ノ指揮ノ下
ニ立ロニ用意セラレ、組長、救助夫之ニ乗込ミ狂風ヲ凌キ怒濤ヲ押分ケツ、目指ス所ノ
遭難船ニ近ツキ人命財産ノ救助ニ盡力スヘシ、救濟會ノ事業ハ輓近頗ル振作シ、目下既
設救難所十六ヶ所、現ニ計畫中ノ者六個所アリ其ノ成績着々見ルヘキモノアリト雖モ、

救濟會ニ於テハ尙ホ益々擴張ノ方針ヲ取り全國沿岸ニ無慮百八箇所ヲ設置スルニ非サレハ已マサルノ決心ナリ、而シテ同會及救難所ノ組織事業等ニ付テハ第八章第二節第三ヲ參看スヘシ、

第六篇 運送

運送ト航海ト相待テ船主營業ノ目的ヲ達スヘキハ前篇ノ冒頭ニ一言シタル所ニシテ、今兩者ノ性質ヲ對照セハ航海ノ事タル全然船主ノ義務ニ屬シ幾多ノ費用ヲ支出セサルヲ得サルニ反シ、運送ハ安全ナル航海ノ報酬トシテ直接ニ收入ノ歸スル所ナルヲ以テ、何レノ船主モ此事ニ最モ意ヲ致スノ深キハ偶然ニ非サルナリ、本編ハ旅客、郵便物及貨物ノ三章ニ分チ、或ハ法令ノ定ムル所ニ據リ或ハ内外汽船會社ノ慣例ヲ引用シテ逐次説明ヲ加フヘシ、

第二十一章 旅客ノ運送

第一 乘船切符 (Passage ticket)

(一) 性質

乘船切符ハ船舶ニ乗込ム旅客カ、此ヲ以テ其ノ指定地マテ航海スルノ權利アルコトヲ証スルモノニシテ、船長ハ此ノ切符ノ所有者ヲ指定地マテ安全ニ運送シ上陸セシム

ルノ義務アリ、故ニ乗船切符ハ恰モ貨物運送ノ場合ニ於ケル運送契約書又ハ船荷証券同様ノ効力ヲ有スルモノニシテ、該切符ヲ賣買シタル以上ハ最早運送契約ヲ結ビタルモノト知ルヘシ、蓋シ旅客ノ運送ト云ヒ貨物ノ運送ト云ヒ共ニ請負契約ノ一種ナルヲ以テ、運送者ニ於テ契約通り運送ヲ終了シタル後始テ其ノ運送賃ヲ請求スヘキモノナルコト、法律上ノ原則ナリト雖モ、實際ノ慣例ヲ觀ルニ兩者必ラスシモ相同シカラサルモノ、如シ、即チ貨物ニ付テハ之ヲ目的地マテ運送シ其ノ陸揚ヲ終リタル上ニ運送賃ヲ仕拂フノ場合多キモ、旅客ニ在リテハ之ニ反シ先ツ切符ヲ購入シテ然ル後乗船スル所謂運送賃前拂ノ場合多キカ如シ、

(二)種類

乗船切符ニハ記名式ト無記名式トノ兩種アリ、記名式ノ切符ハ内外汽船會社ニ於テ通例使用スルモノニシテ、旅客ノ氏名ヲ記載シ當人ニ限り契約シタルモノナレハ、之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ又之ヲ讓渡シタリトテ無効ナレトモ、無記名式ノ切符ハ旅客ノ氏名ヲ記載セス誰人トテ別ニ指定セサルモノナルヲ以テ、隨意ニ之ヲ讓渡シ

得ヘキナリ(商法第六三〇條)。

(三)書式

乗船切符ノ書式ハ船主ニ於テ任意之ヲ定メ、其ノ大小精粗固ヨリ一様ナラスト雖モ、大概切符ノ表面ニハ(一)旅客ノ氏名、乗船地及上陸地、(二)旅客ノ等級、乗込ムヘキ船舶及寢床ノ番號、(三)受領シタル運送賃、(四)切符ノ發行者、發行地、及發行年月日等ノ事項ヲ記載シ又裏面ニハ(一)切符ノ効力ハ其ノ記名セラレタル旅客ニ限り且ツ其ノ指示スル航海ニ限ルコト、(二)天災其他不可抗力ノ爲メニ生シタル航海ノ遲延若クハ停船ノ影響、檢疫ニ關スル費用等ノ如キ旅客ノ損害ニ對シ船主ハ責ヲ負ハサルコト、(三)乗船下船又ハ乗替ノ費用(解賃等)ハ旅客自辨ノ事、(四)手荷物ノ制限其ノ保管及之ニ對スル責任ノ事等ヲ列示シ、切符所有ノ旅客ハ是等ノ個條ヲ承諾シタルモノト認ムル旨ヲ記載スルノ例ナリ、

第二 船主船長ト旅客トノ關係

(一)船主ノ責任

(イ) 旅客航海中ノ食料ヲ負担スル事

旅客カ航海中ノ食料即チ乗船ノ時ヨリ上陸ノ時マテノ食料ハ、船主之ヲ負担スルモノニシテ、旅客ノ等級(一、二、三等)ニ從ヒ船内ニ於テ適宜食事ヲ供スルノ原則ナリ(商法第六三一條)、是レ旅客ノ運送賃ニハ食料ノ費用ヲモ包含スルモノト推定シタルニ由ルト雖モ、若シ當事者間ニ於テ食料ノ負担ニ付キ別段ニ契約スルカ(移民運送ノ場合ノ如キ往々此例アリ)又ハ反對ノ慣習(近距離ノ航海ニ在リテハ食料ヲ旅客持ニスルコト内外ノ慣習ナリ)アル以上ハ、固ヨリ之ニ從フヘキモノト知ルヘシ、

(ロ) 航海ノ途中ニ於ケル船舶修繕中旅客ニ住所及食料ヲ供給スル事

船舶カ航海ノ途中ニ於テ破損ノ爲メ修繕ノ必要ヲ生シタルトキハ、港内ニ繫船ノ儘修繕スルトキノ如ク旅客ヲ船内ニ留メ置キ得ル場合ハ勿論、船渠ニ入レ修繕スルトキノ如ク旅客ヲ船内ニ留ムルコト能ハサル場合ニ於テモ、船主ハ其間相當ノ住所ト食料トヲ供給スルノ義務アリ、故ニ一時旅客ノ上陸ヲ求メサルヲ得サルトキハ、船主ノ費用ヲ以テ旅客ヲ相當ノ旅店ニ案内シ同所ニ寢食セシムルヘキナリ(商法第六

三六條)、

然レトモ船主ハ右ノ如ク修繕ノ爲メ停船ヲ要スル場合ニハ、旅客ヲ他ノ船舶ニ乗換ヘシメ契約通り其ノ上陸港マテ運送スルヲ得ヘキモノニシテ、旅客ハ甘シテ之ニ應ジサルヘカラサルモノトス、尤モ此際旅客ノ既得權ヲ害セサル爲メ、可成以前ノ船舶ト同等ノ船便ヲ以テスルコトニ注意スヘシ、若シ速力遅鈍ニシテ航海日數ヲ著ク延長スヘキカ又ハ老朽脆弱ニシテ大ニ危険ノ虞アルトキノ如ク一層劣等ノ船舶ヲ用フルニ於テハ、旅客ハ斷然之ヲ拒絶スルモ隨意ナリトス(同上)、

(ハ) 天災等ノ爲メ航海ヲ遅延シタルトキ旅客ニ食料ヲ供給スル事

天災其他已ムヲ得サル事由ノ爲メ航海ヲ遅延シタルトキハ、其ノ發航前ナルト發航後ナルトヲ問ハス前項繫船修繕ノ場合ト均ク、船主ハ旅客ノ食料ヲ負担スヘキコト當然ニシテ、例ヘハ旅客乗船ノ後暴風雨ノ爲メ出帆スルヲ得サルカ、又ハ航海中不良ノ天候ニ出逢ヒ豫定セサル港ニ避難停泊スルカ、又ハ船内ニ傳染病患者ヲ生シタル爲メ停船ヲ命セラレタル場合ノ如キ是ナリ、

(ニ) 船主又ハ船員ノ不注意ニ原因スル損害賠償

船主ハ自己又ハ船員ノ不注意ノ爲メ旅客ノ身軀ニ傷害ヲ興ヘタルトキハ、損害賠償ノ責アリ、而シテ裁判所ニ於テ右賠償金高ノ多少ヲ定ムルニハ、被害者タル旅客ノ被害ノ輕重、年齢、身分ヲ始メ家族ノ生計費等種々ノ情况ヲ斟酌スヘキモノトス
(商法第三五〇條準用)、

(二) 船長ノ權利及義務

(イ) 危險物ヲ所持シ又ハ不穩ノ舉動アル旅客ニ對スル事

旅客若シ船内ニ於テ兇器、爆發物、劇藥等ノ危險物ヲ所持スルトキハ、船長之ヲ保管シ又ハ放棄スルコトヲ得ヘシ、若シ又旅客ニシテ不穩ノ舉動アリ人身又ハ船舶ニ危害ヲ加ヘントスルトキハ、之カ防禦ノ爲メ必要ト認ムル時日間其ノ身軀ヲ拘束スルモ差支ナシ (船員法第四三條)、

(ロ) 疾病ニ罹レル旅客ニ對スル事

船長ハ重症患者ハ勿論、假令重症ナラサルモ傳染病又ハ精神病ニ罹リタル旅客ノ

乗船ヲ拒絕スルヲ得ヘキモノニシテ、航海中若シ斯ル患者ヲ生シタルトキハ、最寄ノ寄航地ニ於テ下船ヲ請求スルモ可ナリ、尤モ是等ノ旅客ハ上陸ノ後自費ヲ以テ療養ヲ爲シ、全快ノ上ハ再ヒ同船主ノ船舶ニ便乗シ航海ヲ繼續スルノ權利アルモノトス、

(ハ) 不行跡ノ旅客ニ對スル事

旅客ニシテ若シ竊盜、姦通等不行跡ノ態アリ、他ノ旅客ヲ妨碍シ一同ヨリ擯斥セラル、トキハ、船長ハ食堂ニ出入スルヲ拒ミ其ノ室内ニ於テ食事ヲ取ラシムルコトヲ得ヘシ、

(ニ) 非常ノ際旅客ニ對スル命令

非常ノ際船長ハ旅客ニ對シ職務上必要ナル命令ヲ爲シ得ヘキモノニシテ、海賊ノ襲撃ヲ受ケタル場合ノ如キハ、一船防禦ノ爲メ旅客ニ命令シテ相當ノ助力ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ、

(ホ) 運送賃等ヲ仕拂ハサル旅客ニ對スル事

旅客若シ運送貨又ハ酒、煙草代等ヲ仕拂ハサルトキハ如何ニ處置スヘキヤ、英法ニ依レハ船長ハ船内ニ在ル該旅客ノ手荷物又ハ他ノ財産ヲ留置スルコトヲ得ヘシ、然レトモ旅客ノ現ニ身ニ着ケ居ル衣服ニハ觸ル、コトヲ得ス、又旅客ノ身体ヲ抑留^{デテイン}スル權利ナキモトス、

(ヘ) 旅客ノ健康及安全ニ關スル注意

船長ハ常ニ旅客ノ健康及安全ニ注意スヘキハ勿論ニシテ、旅客中疾病ニ罹ル者アルトキハ醫師ヲシテ診察治療セシメ、惡疫流行ノ際ニハ特ニ船内ノ衛生ニ注意スヘシ、而シテ一朝海難ノ爲メ本船危急ニ瀕スル場合ニ在リテハ第一着ニ旅客ヲ救助スルノ義務アリ、此ノ義務ヲ盡シタル後ニ非サレハ船長ハ本船ヲ去ルヘカラス、

(三) 旅客ノ義務

(イ) 出帆時刻前ニ乗船スヘキ事

船舶ハ最初航海ノ途ニ上ルトキト中途ニ寄港シタルトキヲ問ハス出帆ノ時刻ノ定メアルヲ以テ、旅客タルモノ此ノ定時刻前ニ乗船セサルヘカラス、然ルニ旅客カ此

ノ定時刻マテ乗船セサルトキハ、船長ハ之ヲ待タス出帆スルヲ得ヘキモノニシテ、是レ本ト旅客自身ノ過失ト謂フヘキヲ以テ、勿論全額ノ運送貨ヲ支拂フノ義務ヲ免ルヘカラス(商法第六三三條)、

(ロ) 船内ノ紀律ヲ守リ且ツ非常ノ際船務ニ助力スヘキ事

旅客ハ船内ノ秩序及風紀ヲ紊ルカ如キ行爲アル可ラサルハ勿論、若シ又非常ノ際船長ヨリ必要ナル命令ヲ與ヘラレタルトキハ之ニ服従スルノ義務アルモノトス、即チ船内ノ紀律ニ關スル船房規則等ヲ堅ク遵守スヘキハ前段ノ好例ニシテ、火災、衝突、海賊ノ襲撃等ノ場合ニ於テ、共同ノ危険ヲ避クル爲メ旅客ノ助力ヲ要求セラレタルトキノ如キハ後段ノ的例ナリ、

第二 船主ト備船者トノ關係

旅客ノ運送ハ通例船主ト個々ノ旅客トノ間ニ契約スルヲ常トスレトモ、時トシテ移民人夫等一時ニ多數ノ人間ヲ運送スル場合ノ如ク、船腹ノ全部又ハ一部ヲ目的トシテ備船契約ヲ結フコトアリ、斯ル場合ニ於テハ船主ト備船者トノ間ニ於ケル權利義務ノ關係ハ、

後章ニ述フル貨物運送ノ爲メ備船スル場合ト殆ト異同ナキモノニシテ、唯運送ノ目的物カ人間タルト物品タルトノ差異アルノミ(商法第六四〇條)、

第四 旅客運送契約ト運送賃

(一) 契約ノ取結

乗船切符ノ代價ハ即チ旅客ノ運送賃ニシテ、該切符ヲ購ヘハ即チ運送契約ヲ取結ヒタルト同様ナルヲ以テ、船長又ハ船主ハ切符相當ノ船室及寢床ヲ供シ、旅客乗船ノ後指定地マテ安全ニ運送スルノ責アリ、而シテ旅客カ豫メ運送契約ヲ取結ヒ置カント欲セハ、先ツ運送賃ノ半額ヲ仕拂ヒ乗船ノ際殘ル半額ヲ仕拂フノ例ナレトモ、重ナル汽船會社ニ於テハ大概對人信用ヲ以テ豫約ヲ爲シ別ニ前金ヲ徴収セサルノ風ナルカ如シ、

(二) 契約ノ解除

旅客ハ一旦乗船切符ヲ購ヒ運送ヲ契約シタル後ト雖モ、自己ノ都合ニ依リ此ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ、然レトモ之カ賠償トシテ船舶ノ發航前ナラハ運送賃ノ半額、

發航後ナラハ其ノ全額ヲ支拂ハサルヘカラス(商法第六三四條)、尤モ我國重ナル汽船會社ノ慣習ニテハ、旅客カ切符ヲ購ヒタル後乗船時刻ニ後レタルトキハ、二十四時間以内ナラハ運送賃ノ一割ヲ仕拂ヒ切符取消ヲ請求シ得ルノ例ナリ、

(三) 契約ノ停止

旅客自身死亡スルカ若クハ疾病其他一身ニ關スル不可抗力ノ爲メ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ、事若シ船舶ノ發航前ナラハ、船主ハ損害賠償トシテ該旅客ニ向テ約定運送賃ノ四分ノ一ヲ請求スルヲ得ヘク、又發航後ナラハ、約定運送賃ノ四分ノ一カ或ハ既ニ航海ヲ爲シタル割合ニ應スル丈ケノ運送賃カ其ノ孰レカ一方ヲ撰ンテ請求スルヲ得ヘシ(商法第六三四條)、

(四) 契約ノ終了

船舶カ沈没シタルトキ(一)、修繕ノ見込ナキニ至リタルトキ(二)、若クハ捕獲セラレタルトキ(三)、即チ運送ノ任務ヲ果スヘキ船舶其物カ既ニ烏有ニ歸シ又ハ航海ノ用ヲ爲サス又ハ船主ノ所有ヲ離レタルモノナルヲ以テ、海員雇入契約及貨物運送契約ノ終了

スルト同ク、旅客ノ運送契約モ自カラ終了スヘキハ勿論ノ次第ナリ、而シテ此事若シ船舶ノ發航前ニ生シタラハ、毫モ運送賃ヲ仕拂フノ必要ナク、若シ運送賃ヲ仕拂ヒタル後ナラハ之ヲ還付スヘキモノナルモ、之ニ反シテ航海中ニ事ヲ生センニハ、其時マテ既ニ多少ノ航海ヲ爲シ旅客ノ用ヲ辨シタルヲ以テ、之ニ相當スル丈ケ運送賃ヲ支拂フヘキハ亦當然ナリトス（商法第六三七條）、

(五) 船中取運送賃

乗船切符ヲ有セサル旅客ハ之ニ乗船セシメサルノ原則ナレトモ、我國在來ノ慣例トシテ船舶ノ出帆時刻ニ切迫シテ乗船シ切符ヲ購フノ暇ナキ者、又ハ乗船ノ後切符ヲ所持セサルコトヲ發見セラレタル者ニ向ヒ、「船中取運送賃」ト稱スル普通一割増ノ運送賃ヲ徵收シ、次ノ寄港地迄渡航セシムルヲ許セリ、斯ク次ノ寄港地迄ニ限リタル所以ハ、船舶出帆ノ後其地ノ支店ヨリ乗船切符賣上高ニ依テ旅客ノ等級及員數ヲ次ノ寄港地ナル支店ニ通知シ、該支店ハ此ノ通知ヲ得テ其地ニテ乗船セシメ得ヘキ旅客ノ等級及員數ヲ知り契約ヲ結フノ例ナルヲ以テ、右ノ通知ニ洩レタル前示ノ無切符乗船者ノ

占メタル客室ハ、次ノ寄港地ニ於テ己ニ契約済ト爲リ、從テ該旅客ノ下船ヲ要スルコト之レ有ルヘケレハナリ、然レトモ次ノ寄港地ニ至ルモ別ニ契約ナキトキハ、旅客ハ更ニ其ノ目的地迄ノ乗船切符ヲ購ヒ、其儘航海ヲ繼續スルヲ得ヘキハ論ヲ待タス、其他旅客ハ航海ノ途中ニ於テ等級ノ繰上又ハ一室ノ專用ヲ請求スルコトアリ、此ノ場合ニハ差支ナキ限り成規ノ運送賃（一室専用ノ場合ニハ固有ノ寢床ヲ除キ各寢床ニ付半額ヲ徵スルノ例ナリ）ニ對スル差金ヲ追徴シ、次ノ寄港地迄應諾スルコトヲ得ヘシ、而シテ此ノ場合ニモ次ノ寄港地迄ニ限ルヘキ所以ハ前項ノ理由ニ等シ、

(六) 中途ノ上陸

旅客時トシテ中途ノ港ニ上陸シ、暫ク滞在ノ後同船主ノ他ノ船舶ニ依テ目的地ニ渡航センコトヲ請求スル者アルヘシ、斯ル場合ニハ重ナル汽船會社ノ慣習トシテ、旅客ノ便宜ノ爲メ本船ヨリ「滯陸券」ヲ發行交付シ、以テ其ノ運送契約ノ効力ヲ一定ノ時日間維持セシムルノ常ナリ、

(七) 無賃渡航者

運送賃ヲ仕拂ハスシテ渡航シタル者、又ハ最初ヨリ切符ヲ所有セスシテ窃ニ乗船シ船中ニ於テ發見セラル、モ運送賃ヲ仕拂フヘキ金錢ナキ者ハ、是レ無錢渡航者ト稱スヘキモノニシテ、船長ハ之ニ對シ手荷物其他ノ財産(其身ニ着ケ居ル衣服ヲ除ク)ヲ差押ヘ、飽マテ運送賃ヲ要求スルヲ得ヘキノミナラス、斯ル旅客ハ法律上罰金其他相當ノ處分ヲ免ル可ラサルナリ、

第五 旅客運送賃ノ割引

小兒其他ノ家族カ主人ト同船ニ乗込ムキ、又ハ海陸軍人、外交官、宣教師等ノ乗船スルレハ、内外汽船會社何レモ相當ノ割引ヲ爲スノ慣習ニシテ、其他往復切符(多少ノ割引アリ)ニシテ、世界一周切符等ヲ發行シテ旅客ノ便ニ供スルモノ亦少ナカラス、茲ニ日本郵船會社ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ、

(一) 小兒(但シ父母又ハ他ノ保護者ト同船スルヲ要ス)

(イ) 濠洲及米國航船舶ニ於テ

一、三歳未満(米國航船ハ二歳未満) 無賃

但シ二人以上アルトキハ一人ヲ除ク外各人ニ付普通運送賃ノ四分ノ一ヲ申受ク

一、五歳未満 普通運送賃ノ四分ノ一

一、十二歳未満 半額

(ロ) 其他ノ船舶ニ於テ

一、四歳未満 無賃

但シ二人以上アルトキハ一人ヲ除ク外各人ニ付四分ノ一ヲ申受ク

一、十二歳未満 半額

(二) 家族

一、濠洲航船ニ於テ成年者(此ノ場合ニハ十ニ歳以上ヲ云フ)ノ乗船切符四人分以上ヲ購フトキ

一割引

一、同六人分以上ヲ購フトキ 一割五分引

(三) 日本海陸軍人及軍屬ハ貳割引、外交官及宣教師ハ一割五分引、郵便官吏公用ノ爲メ乗船スルトキハ多クハ無賃ノ例ナリ、

(四) 僕婢ハ普通ノ旅客ト同様ニ乗船切符ヲ求メサルヘカラサルノ規則ナレトモ、三等切符ヲ有スル者ハ隨意ニ一等室ニ出入シテ主人ノ用辨ヲナスコトヲ得ヘシ、但シ主人ノ室内ニ於テ食事ヲ爲シ若クハ就眠スルコトヲ許サス、

第六 旅客手荷物 (Passage)

(一) 無賃手荷物ノ制限

旅客カ船内ニ無賃携帶シ得ヘキ手荷物ハ、重量及容積ニ一定ノ制限アリ (商法第六三二條參看)、此ノ制限ハ乗船切符ノ等級并ニ目的地ノ遠近ニ應シ差異アルモノニシテ若シ成規ノ制限ヲ超過シタルトキハ、其ノ超過シタル部分ニ對シテ相當ノ運送賃ヲ請求スルヲ得ヘキコト論ヲ待タス、今日本郵船會社ニ於ケル無賃手荷物ノ制限ヲ見ルニ、左ノ如ク旅客ノ等級、航海ノ長短ニ應シ重量及容積ノ制限ヲ異ニスルヲ知ルヘシ、

等級	重量		容積
	短航海	長航海	
成年一等旅客	一〇〇 <small>斤</small> (二二、〇〇〇) <small>斤</small>	三五〇 <small>斤</small> (四二、〇〇〇) <small>斤</small>	四〇 <small>立方呎</small>

同 二等旅客	七五 <small>斤</small> (九、〇〇〇)	二五〇 <small>斤</small> (三〇、〇〇〇)	三〇
同 三等旅客	五〇 <small>斤</small> (六、〇〇〇)	一五〇 <small>斤</small> (一八、〇〇〇)	二〇

(備考)

小兒無賃手荷物ノ制限ハ其ノ支拂ヒタル運送賃ノ高ニ應シテ之ヲ定ム、又豫備寢床ヲ有シ之ニ對シテ半額ノ運送賃ヲ仕拂ヒタル旅客ハ、二倍ノ手荷物ヲ無賃携帶スルコトヲ得、

(二) 手荷物ト爲スヘカラサル性質ノ物品

元來旅客ノ手荷物ハ其ノ日用物品 (Personal effects) ニ限ルモノニシテ、商品、酒類、爆發藥、加害物等ハ一切之ヲ手荷物ト爲スヘカラス、金銀財寶ノ如キモ一定ノ價額以上 (日本郵船會社ニテハ五百圓以上) ノモノハ之ヲ手荷物トシテ取扱フコトヲ得ス、須ク其旨ヲ申出テ成規ノ運送賃ヲ支拂フヘキモノトス、

(三) 手荷物ニ對スル責任

旅客手荷物ノ運送ニ付テ船主及船長ノ負フヘキ責任ハ、旅客ヨリ手荷物ノ保管ヲ依託セラレタル場合ト (事務長ニ依託、依託セラレサル場合トニ依リ輕重ヲ異ニス、甲ノ場合ニハ無運賃ノトキト雖モ (運送賃ヲ徴收シタルトキハ勿論ナリ) 貨物運送ノ場合ト同一ノ責任アルモノニシ

テ、若シ船主又ハ船員ノ不注意ニ由リ滅失、毀損等ヲ生シタルトキハ其ノ損害ヲ賠償セサルヘカラス、又乙ノ場合ニハ旅客自ラ其ノ手荷物ヲ保管監督スヘキモノナルヲ以テ、實際船主又ハ船員ノ過失ヨリ生シタル損害ニ非サレハ賠償スルノ責ナシ(商法第三五一及第三五二條準用)、

其他旅客カ手荷物ト爲スヘカラサル性質ノ物品ヲ手荷物トシテ依託シ、又ハ無賃制限以上ノ高價ナル金銀財寶ヲ竊ニ他ノ手荷物ニ混入シテ依託シタルトキノ如キハ、萬一之ヲ紛失シ或ハ之カ爲ニ損害ヲ生スルモ船主及船長ハ責任ヲ負フヘキ限ニ在ラサルハ勿論、之ヲ發見セラル、トキハ旅客自ラ却テ罰金ニ處セラル、コトアルヘシ、

(四) 遺留シタル手荷物ノ處分

旅客カ上陸ノ際其ノ手荷物ヲ船内ニ遺留シタルトキハ、船長ハ直ニ其旨ヲ本人ニ通知シテ之カ引取ヲ促スカ、若クハ便宜上其地ノ支店ニ引渡シ該支店ヲシテ適宜處分セシムルヲ例トス、然ルニ旅客若シ船内ニテ死亡シタルトキハ、其ノ遺留シ在ル手荷物類ハ船長之ヲ保管シ、其ノ目錄ヲ作りテ之ヲ最寄ノ管海官廳ニ差出シ、若シ同官廳ノ

命令アルトキハ遺産其物ヲモ差出サ、ルヘカラス(船員法施行細則第二十一條及第二十二條)、而シテ船長カ死亡旅客ノ手荷物ヲ處分スルニ付テハ、須ク其ノ相續人ノ爲メ最モ利益タルヘキ方法ヲ取ルノ義務アルモノナリ(商法第六三八條)、

第七 旅客定員

(一) 普通旅客

各船舶ニ搭載シ得ヘキ旅客ノ定員ハ、航路ノ遠近并ニ客室ノ等級、積量ニ應シ、當該官吏(海事官)ノ定ムル所ニシテ、其ノ標準ハ左ノ如シ(船舶検査法施行、細則第十九條)、

第一、遠洋航船

- 一等室
- 二等室 一人ニ付〔面積十二平方尺、容積七十二立方尺〕以上
- 三等室

第二、近海航船

- 一等室 遠洋航船ノ一等室ニ同シ

- 二等室 一人ニ付〔面積十二平方尺〕以上
- 二等室 一人ニ付〔面積六十六平方尺〕以上
- 三等室 一人ニ付〔面積九平方尺〕以上
- 三等室 一人ニ付〔面積五十五平方尺〕以上

但シ航路ヲ定限シ其ノ航路ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ時間二十四時間以内ナルトキハ沿海航路ノ割合ニ據ルコトヲ得

第三、沿海航船

- 一等室 一人ニ付〔面積十二平方尺〕以上
- 一等室 一人ニ付〔面積六十六平方尺〕以上
- 二等室 一人ニ付〔面積八平方尺〕以上
- 二等室 一人ニ付〔面積五十五平方尺〕以上
- 三等室 一人ニ付〔面積六平方尺〕以上
- 三等室 一人ニ付〔面積四十四平方尺〕以上

但シ航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ時間六時間以内ナルトキハ平水航船ノ割合ニ據ルコトヲ得
(注意)

本項ノ定員ハ一定ノ算法ニ依リ當該官吏ノ定ムル所ニテ、各客室ニ搭載シ得ヘキ最大人数ヲ指示スルモノナ
レトモ、船主ハ各客室ニ付テ實際其ノ必要ト認ムル丈ケノ備付 (Accommodation) ナ爲スニ止マルコト往々
有之ヲ以テ、時トシテ寢床ノ員數ヲ検査証書面ノ旅客定員數ヨリ少ナキ場合アリト知ルヘシ、

(二)別種旅客

特別ノ契約ヲ以テ移住民又ハ人夫等ノ多人數ヲ一時ニ運送セントスルトキハ、船主

若クハ船長ハ契約相手方ノ連署ヲ以テ當該官廳 (海事局又ハ海務署) ニ申請スヘシ、然ルトキハ當該官吏ハ是等ノ別種旅客ヲ搭載スヘキ場所及準備ノ適否ヲ査定シ、左ノ標準ニ依テ定員ヲ定ムルモノトス (船舶検査法施行細則第二十條)

第一、近海航路區域外航行

- 一人ニ付〔面積九平方尺〕以上
- 一人ニ付〔面積五十五平方尺〕以上

第二、近海航路區域内航行

- 航行時間二十四時間以上ナルトキ
- 一人ニ付〔面積七平方尺〕以上
- 一人ニ付〔面積四十四平方尺〕以上

航行時間二十四時間未滿ナルトキ

- 一人ニ付〔面積五平方尺〕以上
- 一人ニ付〔面積二十五平方尺〕以上

第八 旅客名簿 (Passengers List)

旅客名簿ハ商法ノ定ムル所ニ依リ、海員名簿、屬具目錄、航海日誌等ト共ニ常ニ船内ニ備置クヘキモノニシテ、一定ノ書式ニ據リ船名、番號、總噸數、登簿噸數、旅客定員

(一、二、三等)船主及船長ノ名稱、住所、並ニ實際乗船シタル旅客ノ等級、氏名、國籍、住所、年齢、乗船又ハ下船シタル年月日及港名ヲ記入スヘキモノトス、尤モ内國ノ航海ニ限ル船舶ニ於テハ、當該官廳ノ認可ヲ經タル上適宜前記ノ事項ヲ省略スルコトヲ得ヘシ(逓信省令第十九號第一、二條及第四號書式)

第九 船房規則(Cabin Regulations)

各船舶ノ客室ニハ船房規則(厚紙或ハ木板ヲ用ユ)ヲ掲ケ置キ、船内ニ於テ旅客ノ心得ト爲スヘキ左ノ如キ條項ヲ記載スルノ常ニシテ、船長及事務長ハ旅客ヲシテ該條項ニ違反セシメサル様注意スルヲ要ス、

- 一、喫煙室又ハ甲板上特ニ指定スル場所以外ニ於テハ一切喫煙ヲ禁スル事
- 二、蠟燭、燐寸、ランプ等火災ヲ生スル虞アルモノハ客室内ニ於テ一切使用スヘカラサル事
- 三、食事ノ時刻、食卓ニ着クトキノ注意、及酒類ノ注文ニ關スル事
- 四、貴重品ノ預ケ方、手荷物ニ對スル責任、及手荷物室ノ開放日時ニ關スル事
- 五、入浴日時ノ事
- 六、消燈時刻ノ事
- 七、賭博禁止ノ事
- 八、室外ニ於テ裸躰ヲ禁スル事

九、船員ノ執務ヲ妨ケヘカラサル事

十、難船ノ場合ニ處スル注意ノ事

十一、其他船内ノ風紀及秩序ヲ紊スヘキ所爲アルヘカラサル事

(備考)

一等旅客食事ノ時刻ハ大概左ノ如ク定ムルモノニシテ二等旅客ノ分ハ半時間宛早キヲ通例トス

(甲)日本郵船會社船舶ニ於テ

朝 食 午前八時三十分

晝 食 午后零時三十分

夜 食 午后六時三十分

(乙)加奈陀郵船「エムプレス、ボート」ニ於テ

朝 食 午前八時三十分ヨリ

晝 食 午后一時ヨリ二時マテ

夜 食 午后七時

但シ小兒及僕婢ニハ朝食七時四十五分、晝食正午ト定メ更ニ午後五時ニ紅茶ヲ出ス

第十 船醫(Doctor or Surgeon)

(一) 船醫ノ乗組

由來船長ハ船内衛生ノ事ヲモ心得常ニ一通ノ醫藥ヲ備ヘ置キ、若シ病人又ハ負傷者アレハ相當ノ手當ヲ爲スノ慣例ナリシモ、近來ノ旅客船ニ於テハ必ス専門ノ技能ヲ具

フル醫師ヲ乗組マセ、船長監督ノ下ニ船内ノ醫務衛生ヲ主管セシメ、旅客ヲ始メ一般船員ニシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受クルトキハ、無料ニテ治療セシムルヲ常トス、

(二) 船醫ノ職務

船醫ハ常ニ旅客及船員ノ健康ヲ保ツコトヲ勉メ、船内各室ノ採光、通風、及清潔ニ注意シ、食物飲料水ノ善惡ハ勿論、庖厨、浣水路、便所等不潔ノ虞多キ場所ノ掃除ヲ監視セサルヘカラス、其他船醫カ實際ノ事務ニ付キ注意スヘキ事項ヲ舉クレハ大要左ノ如シ

- 一、新ニ海員ヲ雇入ル、場合ニハ精密ニ身軀検査ヲ爲シ果シテ役務ニ堪フルヤ否ヲ診定スヘキ事
- 二、外國ニ航行スルトキハ豫メ海員ノ身軀ヲ検査シ不健全ノモノアルトキハ船長又ハ事務長ヲ經テ相當ノ處置ヲ爲スヘキ事
- 三、外國ニ航行スルトキハ出帆前ニ其地ノ當該官廳ヨリ船舶健全證書ヲ受クルノ常ナレハ船醫ハ主トシテ此ノ事務ヲ擔當スヘキ事
- 四、遠洋ニ航行スルトキハ出帆前ニ船員一同ニ種痘ヲ施シ天然痘流行地ニ向ケ又ハ流行地ヨリ出帆スル際ノ如キハ旅客ニモ亦之ヲ施スヘキ事
- 五、旅客若シ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受クルトキハ最モ叮嚀ニ治療シ部下ニシテ親切ニ看護セシムヘキ事
- 六、船員中疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル者アルトキハ診察ノ上病症ノ輕重ニ應ジテ休役、減役等ニ區別シ

船長ニ意見ヲ申出ツヘキ事

- 七、傳染病ノ流行地ニ入港スルトキハ之カ豫防法ヲ施行シ必要アレハ交通遮斷ヲ爲スヘキ事
- 八、船内ニ傳染病患者ヲ生シタルトキハ成規ノ手續ニ依リ隔離、消毒及豫防ノ方法ヲ嚴量ニ施行スヘキ事
- 九、船内ニ重病患者ヲ生シ到底航海ニ堪ヘサルモノト認ムルトキハ船長ニ申出テ上陸入院ノ手續ヲ爲シ又死亡者アルトキハ死亡証ヲ作り船長ニ差出スヘキ事
- 十、檢疫地ニ至ルトキハ豫メ必要ノ準備ヲ整ヘ檢疫官臨檢ノ際ハ之ニ立會ヒ便宜ヲ與フルト共ニ檢疫ノ終了ヲ速ナラシムルニ努ムヘキ事

第十一 旅客ノ待遇及旅客申告簿

船長ハ一旦乗船シタル旅客ニ對シ當ニ切符相當ノ客室及食事ヲ給スルノミヲ以テ満足スヘキニ非ス、須ク其ノ待遇取扱ニ十分ノ注意ヲ爲スヘシ、蓋シ旅客ノ待遇ノ事ハ、船長監督ノ下ニ事務長等ノ主トシテ擔當スル所ニテ、其ノ待遇ノ善惡ハ忽チ船主ノ利害ニ痛切ナル影響ヲ及ホスヘキモノナレハ、常ニ叮嚀懇切ヲ旨トシ快樂ト便宜トヲ與フルニ志スヘキハ勿論ナリ、此點ヨリ觀察スルトキハ、船長ハ海上ノ技術ニ堪能ナルノミナラス兼テ社交的ノ才能ヲ備ヘ、且ツ事務長以下司厨、給仕等ニ至ルマテ最モ其ノ撰擇ヲ慎マサルヲ得ス、船内ノ旅客ハ男女老幼ヲ問ハス貴賤貧富ヲ論セス相當ノ待遇ヲ爲サ、ルヘカ

ラサルヲ以テ、船長、事務長タルモノハ宜ク禮節ニ嫻ヒ應待ニ巧ニ而モ舉動温雅ニシテ所謂紳士ノ品格ヲ備フルヲ要ス、且旅客ノ多クハ海上ノ生活ニ慣レサルモノナレハ、旅情ヲ慰メ船鬱ヲ散セシムルコトニ勉メ、旅客若シ船暈ニ艱ミ或ハ疾病ニ罹ルトキハ特ニ懇切ヲ盡シテ看護セシムヘシ、左レハ「良船長の名は忽ち内外の間に喧傳せられ、旅客は競て該船長の指揮する船舶を撰て乗船するの常なり」ト云フモ亦偶然ニ非サルナリ、

以上ノ如ク旅客ニ對スル船長ノ義務ハ頗ル廣濶ナルヲ以テ、今日壯大快速ノ旅客船ニ於テハ船長ノ責任寧ロ過大ナルヤノ感アリ、從テ分業ヲ可トスルノ説起リ、大西洋通ノ英船ノ如キハ、船長ハ日々船内ノ各部ヲ巡視スルノ外、終始船橋又ハ甲板上ニ在リテ旅客ノ待遇等ニハ自ら干與セサルコト、爲シ、又獨逸ノ大郵船「ウキルヘルム、デル、グローク」號ノ如キハ、一名ノ航海十官(Navigating Officer)ヲ置キ船長ヲ補助セシメ、室外ノ任務ニ付キ船長ニ交代シ得ヘキ權能ヲ與フト云フ、是等ノ分業法ハ實際ノ利害上ヨリ又法律ノ關係上ヨリ果シテ得策ナルヘキ乎、今茲ニ明言スルヲ得スト雖モ、要スルニ船長ハ技術ニ關スル本務ノ外ニ旅客ニ關スル諸般ノ副務ヲ有スルモノナレハ、我邦ノ如キモ今

後壯大ナル旅客船ヲ運用スルノ曉ニ至ラハ、必スヤ是等ノ問題ヲ惹起スルニ至ルヘキナリ、

其他我遞信省ハ旅客ノ待遇ニ關シ監督ノ途ヲ開ケリ、即チ航海獎勵金ヲ受クル船舶及特別助成航路ニ使用スル船舶ニ命シ、遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル申告簿(Passengers Complaint-Book)ヲ船内ニ備置キ、該申告簿保管者ノ氏名并ニ旅客ノ請求ニ應シ之ヲ差出スヘキ旨ヲ船内見易キ場所ニ揭示シ、以テ旅客ヲシテ船長以下船員ノ旅客ニ對スル待遇、其他船内ノ事柄ニ付キ不當ト認ムルモノアラハ何時ニテモ之ニ記載セシムルコト、ナセリ、該申告簿ハ船長又ハ一等運轉士之ヲ保管シ、一航海ヲ終フル毎ニ記載事項ノ有無ニ關セス遞信省ニ差出シ其ノ檢閲ヲ受クヘキモノトス、

第十一 移民等運送ニ關スル注意

移住民、出稼人又ハ人夫等ノ勞働ノ目的ヲ以テ海外若クハ國內ノ離島ニ渡航スヘキ者ヲ搭載運送セント欲スル船舶ハ、先ツ船舶検査法施行細則第二十條ニ依リ、當該官廳(海事局又ハ海務署)ニ検査ヲ申請シ別種旅客室検査證書ヲ受ケサルヘカララス、而シテ

愈、海航ノ途ニ就クニ先ダチ、航海ノ準備、船内ノ設備等ニ付テ諸般ノ注意ヲ要スルコト勿論ニシテ、試ニ其ノ大要ヲ臚列スレハ左ノ如シ、

- 一、羅針盤、時辰儀、海圖、錨、錨鎖、消防具、救命具、夜間信號等ノ如キ機裝品ハ成規ノ員數ヲ備フヘキ事
- 二、寢床、運動場、便所、病室等ハ必要ニ應ジ夫々設置スヘキ事
- 三、採光及通風ニ注意シ食物、飲料水(蒸餾器、清水槽トモ)、醫藥(醫療器械トモ)等ヲ整備スヘキ事
- 四、定員以内ノ移民ヲ乗船セシメ且ツ其ノ名簿ヲ調製スヘキ事
- 五、移民監督者、醫師及通辨(外國渡航ノ際者)ヲ乗組マシムヘキ事
- 六、火藥、爆發藥等ノ危險物ハ勿論、其他移民ノ健康ヲ害スルカ如キ性質ノモノハ船内ニ積入ルヘカラス又家畜類ハ不潔且ツ騒々敷モノナルヲ以テ客室ノ近傍ニ搭載スヘカラサル事
- 七、船内ノ秩序及衛生ニ注意スヘキ事
- 八、外國渡航ノトキハ移民カ旅行券ヲ所有スルヲ確メタル上乘船セシメ又移民及船員一同ニ對シ醫師ノ健康證書(身軀検査ヲ受ケタル上)并ニ當該國領事ノ証明書ヲ受ケ又各般ノ準備整頓シタル上稅關ノ出港免許ヲ受ケヘキ事
- 九、其他船主ハ移民ノ運送ニ關シ其ノ取扱人(即チ移民會社)ト特別ノ契約ヲ結ビ相互ノ責任ヲ定ムルノ常ナルヲ以テ双方之ヲ遵守スヘキハ勿論トス

第二十二章 郵便物ノ運送

第一 郵便物ニ關スル政府、船主間ノ關係

郵便物 (Mail Matters) トハ、夫ノ郵便條例ニ規定スル各種ノ郵便物ヲ始メ小包郵便物並ニ郵便及小包郵便用ノ物品ヲ總稱スルモノナリ、元來郵便物運送ノ事タル政府ノ命令又ハ政府トノ特別契約ニ依ルモノニシテ、世ノ船主ハ郵便物ヲ定期ニ無償運送スルノ代リニ、政府ヨリ郵便補助料、航海獎勵金若クハ航路助成金トシテ少ナカラサル保護金ヲ受ケ、相互ノ間ニ義務的ノ關係ヲ成立スルコトナレハ、之ヲ搭載スル船舶ニ於テハ一般御用品ニ對スル場合ト均ク、其ノ受渡、保管、取扱等ニ十分ノ注意ヲ用ヒ、其ノ任務ヲ完ウスルニ努ムヘキコト理ノ當然ニシテ、若シ船主又ハ船員其他使用人ノ過失ニ依リ滅失、毀損等ノ不都合アルトキハ、嚴重ノ處分ヲ免ルヘカラサルコト亦明白ノ次第ナリ、

第二 郵便物ノ受渡手續

郵便船即チ總テ郵便物ノ運送ニ任スル船舶ハ、郵便航送記 (Record of Mails carried)

ナルモノヲ船内ニ備置キ、各港發着ノ都度豫メ船名及出帆時刻ヲ其地ノ郵便局ニ届出テ置キ、出帆時刻ノ前ニ至リ該郵便局ニ船員ヲ差出シ、愈々郵便物ヲ受取ル際ニハ之ト同時ニ郵便局ヨリ交附スヘキ郵便引渡證(又ハ送狀)ト對照シ、其ノ相違ナキヲ認メタル上該引渡證ニ署名シ、且ツ郵便航送記ニ右郵便物ノ種類、數量等ヲ成規ノ如ク記入シ、當該官吏ノ署名ヲ受ケ、然ル後其ノ郵便物ヲ受取リ船積ノ手續ヲ爲スヲ常トス、又郵便物引渡ノ手續ヲ言ヘハ、船舶ノ着港スルヤ、他ノ積荷ニ先テ其地宛ノ郵便物ヲ陸揚シ、郵便航送記ニ對照シテ之ヲ郵便局ニ引渡シ(送狀アルトキハ添付スヘシ)、當該官吏ノ署名ヲ受クヘシ、

以上ハ陸上ニ於テ郵便物ノ受渡ヲ爲スノ場合ヲ示シタルモノナレトモ、或ハ郵便官吏本船ニ出張シ船内ニ於テ直接ニ受渡ヲ爲スコトアリ、或ハ便宜上支店若クハ代理店ヲ經テ郵便局ト間接ニ受渡ヲ爲スコトアリトス、

第三 郵便物ノ保管取扱ノ注意

郵便物ハ特ニ郵便室ノ設アル船舶ニ於テハ該室ニ積入レ、其ノ設ナキモノニ於テハ盜難、濕氣、火災等ノ憂ナキ安全ナル場所ヲ撰ヒ之ヲ保管スヘシ、且ツ其ノ取扱方ヲ鄭重

ニシ蹈付、投付等ノ粗暴ナル所爲アルヘカラサルハ勿論、我國ノ慣習トシテ取扱ノ主任者ハ通例二等運轉士ナレトモ、航海獎勵金又ハ航路助成金ヲ受クル船舶ニ於テハ郵便官吏ノ乗込ムトキハ該官吏、乗込マサルトキハ船長、一等運轉士又ハ事務長ニ取扱ノ責ヲ歸スルコトヲ特ニ規定セリ、其他郵便室及郵便函ノ鍵ハ船長、一等運轉士又ハ事務長ノ手ニ保管シ其ノ開閉ニ注意スルノ常ナリ、

第四 船内ノ郵便函

郵便船ハ船内適當ノ場所即チ旅客ノ最モ見易ク且ツ安全ナル場所ニ郵便函ヲ備付ケ、旅客及船員ノ信書其他ノ郵便物ヲ投函セシムルニ供ス、開函ハ通例船舶ノ拔錨後ト投錨後ノ二回ニシテ、從テ函内ヨリ取集メタル郵便物ヲ碇泊中ノ分ト航海中ノ分トニ區分結束シ、夫々郵便航送記ニ記入シ置キ、寄航地ニ着港スル毎ニ他ノ郵便物ト共ニ之ヲ郵便局ニ引渡シ、航送記ニ當該官吏ノ署名ヲ受クヘシ、

第五 郵便官吏ノ乗船

郵便官吏郵便用ノ爲メ船舶ニ乗込ムトキハ、前述ノ如ク郵便物ノ取扱ハ其ノ責ニ歸ス

ルノ常ニシテ、船舶ニ於テハ該官吏ニ相當ノ事務室ヲ供スヘキハ勿論、無賃ヲ以テ資格相當ノ寢室ト食事トヲ給シ、其ノ待遇方ニ厚ク注意スルコトヲ要ス、

第六 郵便物ノ處分

航海中海難等ノ爲メ船舶危急ニ瀕スルトキハ、船長ハ人命ノ次ニ郵便物ヲ救護スルノ義務アリ、而シテ其ノ救護シ得タル郵便物ハ遲滞ナク最寄ノ郵便局ニ送付スルカ若クハ他ノ船舶ニ積移シ運送セシムルカ、臨機適當ノ處分ヲ取ルコト肝要ナリ、而シテ斯ル場合ハ勿論其他一般ニ郵便物ヲ滅失、毀損シタルトキハ、速ニ事ノ顛末ヲ遞信省（外國ニ在リテハ帝國領事館）及船主ニ詳細届出ツヘキモノニシテ、滅失、毀損等ニ付テハ天災其他不可抗力ニ原因セサル限り船主又ハ船長ノ責ヲ免ルヘカラサルモノトス、

郵便函ニ投入シタル郵便物中若シ貨幣、危險物等違法ノ物品アルトキハ船長ハ自ラ之ヲ處分セス、別ニ保管シテ船舶着港ノ際他ノ郵便物ト共ニ郵船局ニ引渡シ其旨ヲ通スヘシ、

第七 郵便旗章

郵便物ヲ搭載スル船舶ハ、各港出入ノ際前橋ニ成規ノ郵便旗章ヲ掲クヘシ、

本船ト陸地トノ間ヲ往復スル郵便物輸送用ノ小蒸汽船又ハ端艇ハ、晝間ハ遞信省ノ徽章ヲ附スル旗章、夜間ハ同徽章ヲ附スル角燈若クハ提灯ヲ掲クヘキモノトス、

第八 外國艦隊又ハ軍艦ニ發着スル郵便物ノ取扱方

日本船舶ハ外國ノ艦隊（又ハ軍艦）相互ノ間ニ發着スル閉囊郵便物ノ運送ヲ依頼セラレ、コトアルモ、一切之ヲ引請クヘカラサル成規ナリト雖モ、外國ノ艦隊（又ハ軍艦）ト其ノ本國郵便局トノ間ニ發着スル閉囊郵便物ニ付テハ之ニ反シ、萬國郵便條約第十五條ノ趣旨ニ依リ、該郵便物ノ運送ヲ依頼セラレタルトキハ、心好ク之ヲ引請ケ、彼此ノ間ニ立テ媒介ノ勞ヲ取ルヘキモノト知ルヘシ、

第二十三章 貨物ノ運送

第一 貨物運送契約

貨物ハ海上運送ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ、其ノ運送契約ヲ取結フニハ船舶ノ全部又ハ一部ヲ目的トスル場合ト、個々ノ物品ヲ目的トスル場合トノ二様ニ區別スルヲ得ヘシ、甲ノ場合ニハ船主ヨリ船腹ノ全部又ハ一部ヲ貸付シ、之ニ對スル相當ノ運送賃ヲ受ケ其ノ船積スル物品ヲ運送スルモノニシテ、其ノ契約ヲ備船契約 (Charter-Party) ト云ヒ(備船契約ニ定航 Voyage Charter) 運送ヲ委託スル者ヲ備船者 (Charter) ト云フ、而シテ船主又ハ備船者ハ互ニ相手方ノ請求アレハ、運送契約書ヲ作リテ交附スヘキモノトス、乙ノ場合ニハ其ノ運送ヲ委託スル個々ノ物品ニ付キ、重量又ハ容積等ニ應シ運送賃ヲ定ムルモノニシテ、運送委託者ヲ荷送人又ハ荷主 (Shipper) ト云フ、而シテ茲ニ前示備船契約ト船舶賃貸借 (The hiring of a ship) トノ性質ノ區別ニ付テ一言スルノ必要アリ、即チ船舶ノ賃貸借契約ヲ結ビタル場合ニハ、賃借人 (Hire) ハ船舶其物ヲ賃借シタルモノニシテ、船主ト同様ノ權利義務ヲ有シ、自己ノ計算及責任ヲ以テ隨意ニ業務ヲ營ミ廣ク

第三者ト運送契約ヲ結フコトヲ得ヘシト雖モ、備船契約ハ之ニ反シ一種ノ運送契約ニ過キサルカ故ニ、此ノ場合ニハ船舶ハ依然船主ノ計算及責任ヲ以テ航海用ニ供セラレ、備船者ハ單ニ其ノ約定シタル船腹ノ全部又ハ一部ヲ運送ノ爲メ使用スルニ過キサルナリ、

第二 運送契約當事者間ノ關係

今貨物ノ運送契約ヲ履行スルニ方リ、船主、船長、備船者、荷送人及荷受人 (Consignee) ノ夫々有スヘキノ權利義務ノ一斑ヲ摘示セハ左ノ如シ(第四篇第十四章第三、船長ノ權利義務參看ノ事)

(一) 船主ノ責任及債權

イ) 船主、船員ノ不注意又ハ過失ト損害賠償

船主ハ船長以下ノ船員ヲシテ常ニ貨物ノ受渡、保管及運送方ニ十分注意セシムヘキハ勿論ニシテ、其ノ不注意ヨリ生シタル貨物ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付テハ自ら損害賠償ノ責ヲ負ハサルヘカラス、但シ數人相接續シテ運送スル場合ニハ連帶責任ヲ有スルモノトス(商法第三三七及第三三九條準用)、又船主ハ備船者若クハ荷送人ニ對シ發航ノ當時其ノ船舶ノ安全ナル航海ニ堪フルコトヲ保証スヘキモノニシテ、

若シ船舶カ航海ニ堪ヘサルカ又ハ船主自身ノ過失、船員等ノ惡意若クハ重大ナル過失ノ爲メ貨物ニ損害ヲ生シタルトキハ、船主ハ仮ヒ別段ノ特約ヲ爲シタリトテ其ハ無効ニシテ、法律上必スヤ賠償ノ責ヲ免ルヘキニ非ス(商法第五九一及第五九二條)、而シテ右損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ左ノ如ク區別スヘシ、

一、運送品ノ全部滅失シタルトキ又ハ延着シタルトキハ其ノ當ニ引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ相場ニ依ル

二、運送品ノ一部滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ殘部ノ引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ相場ニ依ル

尤モ運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フ必要ナキ運送貨其他ノ費用(即チ運送品ニ課セラルヘキ諸税ノ如シ)ハ、之ヲ右二項ノ賠償額ヨリ差引クヘキモノニシテ、然ラサレハ備船者又ハ荷送人ハ正當ノ時價ヲ以テ賠償ヲ受クルト共ニ當然ノ費用ヲモ支拂ハサルモノト爲ルヘシ(同第三四〇條準用)、其他船主又ハ船員ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ依リ運送品ヲ滅失、毀損シタル場合ニ於テハ、毫モ宥恕スヘキ理由ナキヲ以テ、前示ノ如ク到達地ノ相場ニ依テ賠償額ヲ定ムルヲ要セス、船主ハ荷送人又ハ備船者ノ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スルノ責アリ(同第三四一條準用)、

船主カ運送品ノ損害ニ對シ賠償ノ責アルコトハ前述ノ如シト雖モ、若シ荷受人ニシテ損害賠償請求ノ旨ヲ特ニ明告セスシテ、運送品ヲ受取り且ツ運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ、船主ノ責任茲ニ消滅シテ荷受人ハ最早賠償請求權ヲ失フニ至ルモノトス、尤モ該運送品ニ付キ直ニ發見シ能ハサル毀損若クハ一部ノ滅失アリテ、荷受人ヨリ引渡ヲ受ケタル後二週間以内ニ船主又ハ船長ニ其旨ヲ通知シタルトキ、又ハ船主若クハ船員ニ惡意アリタル場合ニハ此限ニ在ラスト知ルヘシ(同第三四八條準用)、

(ロ) 船主ノ責任期間

船主ノ責任ハ惡意ニ依リテ損害ヲ生シタル場合ヲ除クノ外、荷受人カ運送品ヲ受取りタル日ヨリ一年ヲ經過スルトキハ、時効ニ依リ消滅ス、而シテ運送品ノ全部滅失シタル場合ニハ、其ノ引渡アルヘカリシ日ヨリ起算スヘシ(同第三二八條準用)、

(ハ) 運送貨其他ノ請求權

船主ハ其ノ委託セラレタル貨物ヲ陸揚港マテ安全ニ運送シタル上ハ、之カ報酬ヲ

ル約定ノ運送賃(一)ハ勿論、其他附隨ノ費用(二)、立替金(三)、并ニ運送品ノ價格ニ應スル共同海損又ハ海難救助費(四)ヲ請求スルノ權利アルモノニシテ、此ノ權利ハ船長及海員カ船舶及未收運賃ノ上ニ請求權ヲ及ホス場合ヨリモ一層有力ナリ、即チ是等金額ノ仕拂ヲ受クルマテハ、船主ハ運送品ヲ留置シ結局運送品ヲ競賣シテモ辨償ノ途ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(英語ニテ之ヲ Lien for Freight and other charges ト云フ)、故ニ荷受人ニシテ普通ノ照會ヲ以テ該金額ヲ支拂フノ見込ナキトキハ、船主ハ須ク裁判所ニ申請シ其ノ許可ヲ得タル上、競賣法ノ規定ニ從ヒ右運送品ヲ競賣スヘシ、斯クテ其ノ得タル代金ノ内ヨリ當ニ支拂ヲ受クヘキ金額ヲ受取り、若シ不足アラハ更ニ荷受人等ニ對シ之ヲ請求スルヲ得ヘキハ勿論ナリ、而シテ運送品ヲ一旦引渡シタル後ト雖モ、二週間以内ナラハ船主ハ其ノ運送品ノ上ニ競賣權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ、但シ二週以内ト雖モ第三者カ已ニ運送品ヲ占有シタルトキハ此限ニ在ラスト知ルヘシ(以上商法第六一〇條)、

尙ホ一言スヘキハ運送賃ハ荷モ其ノ請求權ノ承認セラル、場合ナラハ、貨物ノ損

害等ノ爲メ之ヲ減額スルヲ許サ、ル事ニシテ、荷受人ハ該損害ニ關シ起訴又ハ反訴ヲ爲シテ辨償ヲ求ムルノ途アルモ、兎ニ角最初ノ契約通り運送賃ノ全額ヲ支拂フノ義務ハ免ル、ヲ得サルモノナリ、

(ニ)船積又ハ陸揚ノ延滞ニ對スル報酬

備船契約ノ場合ニ於テハ、船主ハ運送品ノ船積ニ必要ナル準備ノ整頓スルト同時ニ其旨ヲ備船者ニ通知シ、又船長ハ陸揚ニ必要ナル準備ノ整頓スルト同時ニ其旨ヲ荷受人ニ通知スヘキモノニシテ、若シ船積期間又ハ陸揚期間(Lay Days)ノ定アルニ方リ(是等期間ハ契約又ハ習慣ニ依リ定マルモノニテ船積又ハ陸揚準備整頓ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ不可抗力ノ爲メ船積又ハ陸揚スルコト能ハサル日ヲ除ク)、備船者又ハ荷受人カ其ノ期間ヲ經過シタル後船積又ハ陸揚シタルトキハ、特別ノ約束ナクモ船主ハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(同第五九四及第六〇五條)、英法ニ於テハ碇泊期間ヲ超過シタルトキハ、其ノ超過時日ニ對シ一日又ハ一時間若干ノ割合ヲ以テ停船料(Demurrage)ヲ收ムルヲ例トス、

(ホ)船主債權ノ時効

船主カ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル運送賃其他ノ債權ハ一ケ年ヲ經過スレハ時効ニ依リ消滅スヘシ(同第六一八條)、

(二) 船長ノ權限

(イ) 不法船積物品ノ處分

船長ハ備船者又ハ荷送人カ法令ニ違犯シ(戰時禁制品、輸出禁止品又ハ税關規
則ニ背キ船積シタル物品等ヲ云フ)又ハ相當

ノ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ヲ、何時ニテモ陸揚スルコトヲ得、若シ他ニ危害ヲ及ホスヘキ性質ノモノナルトキハ、之ヲ放棄スルモ差支ナシ(同第五九三條)、

(ロ) 航海中荷主ノ爲メ積荷ヲ處分スル事

船長ハ航海中荷主ノ利益ノ爲メ積荷ヲ賣却又ハ保護スルノ權利ヲ有スルモノニシテ、積荷賣却ノ場合ニハ船主ハ爲ニ運送賃ヲ失ヒ固ヨリ不利益ノ事ニ相違ナキヲ以テ、船長カ斯ル處分ヲ爲スニハ、(一)貨物ノ處分方ニ付キ荷主ト打合セ其ノ指圖ヲ待ツノ違ナカリシ事ト、(二)賣却スルノ萬已ムヲ得サリシ事トノ兩理由ヲ明証セサルヲ得ス、例ヘハ菓實、生肉、飲料類ニシテ航海中腐敗ノ兆候アリ、急速ノ處置ヲ施サ

レハ全損ニ歸スルノ憂アリタル場合、又ハ船舶破損ノ爲メ某港ニ避難スルモ修繕地マテ赴クコト能ハス、去リトテ其ノ貨物ヲ他船ニ積替フル便宜ヲ有セサリシ場合ノ如キハ、此ノ賣却權ヲ行ハサルヲ得サルヘシ、

其他航海中積荷カ稍、腐敗若クハ毀損スルモ、之ヲ賣却スヘキマテニ至ラサルトキハ、直ニ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ保護スヘキハ多言ヲ須サスシテ明ナリ(以上商法第五六五條)、

(ハ) 航海繼續ノ爲メ積荷ヲ處分スル事

航海ノ途中ニ於テ船舶ノ修繕費、海難救助費等航海ヲ繼續スルニ必要ノ費用ヲ支辨スル爲メ、船長ハ積荷ヲ賣却若クハ質入スルコトヲ得ヘキモノニシテ、又航海繼續ノ爲メ必要アル以上ハ、積荷ヲ航海ノ用ニ供スルモ可ナリ、例ヘハ暴風ニ出逢ヒ燃料石炭ヲ消費シ盡クシタルニ由リ、最寄ノ避難港ニ達スルマテ積荷石炭ヲ取り燃焼スルカ如キ、又航海中已ムヲ得サル事由ノ爲メ糧食欠乏シ、積荷中ノ食料品ヲ利用スルカ如キ是ナリ(同第五六八及第五七二條)、

(ニ) 共同ノ危険ヲ避クル爲メ積荷ヲ處分スル事

船長ハ航海中不虞ノ災難ニ罹リタルトキハ、共同ノ危険ヲ避ケンカ爲メ其見込ヲ以テ適宜積荷ヲ處分スルヲ得ヘキモノニシテ、即チ暴風激浪ノ爲メ船体ヲ輕減スルノ必要アリ、積荷ヲ投棄若クハ陸揚スルカ如キ、又ハ船舶ノ沈没ヲ避ケンカ爲メ故意ニ淺瀬ニ乗揚クルカ如キ、又ハ船内ニ火災アリ其ノ大事ニ至ルヲ防カンカ爲メ、石油火藥其他ノ爆發物ヲ投棄スルカ如キ之カ好例ナリ、

(ホ) 運送品ヲ供託スル事

運送品カ陸揚港ニ安全到達シタルトキハ、荷受人ハ船長ノ通知ヲ待チ或ハ別ニ通知ナクモ遲滞ナク之カ受取ノ手續ヲ爲スヘキモノナルニ、若シ之ヲ怠ルトキハ、船長ハ供託法ノ規定ニ從ヒ陸上ノ倉庫ニ供託スルコトヲ得ヘシ、此場合ニハ速ニ其旨ヲ荷受人ニ通知スルヲ要ス、若シ荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ、或ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ、船長ハ須ク運送品ヲ供託シタル上其旨ヲ備船者又ハ荷送人ニ通知スヘシ(同第六〇七條)、

(三) 備船者又ハ荷送人ノ義務

(イ) 船積ヲ怠ルヘカラサル事

備船契約ノ場合ニ於テ、備船者ハ船主ヨリ船積準備整頓シタル旨ヲ通知シ來ルトキハ、遲滞ナク運送品ノ船積ニ着手シ、船積期間ノ定メアルトキハ之ヲ經過セサル様特ニ注意スヘシ、又個々ノ物品ヲ運送スル場合ニ於テハ、荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ相當ノ期間内ニ運送品ヲ船積セサルヘカラス、

(ロ) 運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交附スヘキ事

備船者又ハ荷送人ハ輸出免狀、關稅受取証及關稅明細書ノ如キ運送ニ必要ナル書類ヲ船積期間内ニ船長ニ交附スヘシ(同第六〇四條)、

(ハ) 貴重品ヲ明告スヘキ事

荷送人ハ貨幣、有價証券、地金銀、其他高價ナル物品ノ運送ヲ委託スルトキハ、其ノ種類及價額ヲ明告シテ特別ノ注意ヲ求ムルト共ニ、比較上高キ運送賃ヲ支拂フヘキモノナリ、然ルニ此ノ手續ヲ履マス普通ノ運送品ト僞リ或ハ之ト混同スルモノ

ニ付テハ、縱令滅失毀損ノ事アルモ船主ハ全然損害賠償ノ責ニ任セサルヘシ(同第三三八條準用)、

(四) 荷受人ノ義務

(イ) 陸揚ヲ怠ルヘカラサル事

備船契約ノ場合ニ於テ、荷受人ハ船長ヨリ運送品ノ陸揚準備整頓シタル旨ヲ通知シ來ルトキハ、猶豫ナク運送品ノ陸揚ニ着手シ、期間ノ定アルトキハ之ヲ經過セサル様特ニ注意スヘシ、又個々ノ物品ヲ運送スル場合ニ於テハ、船長ハ前述ノ如ク陸揚準備整頓ノ旨ヲ通知スルヲ要セス、又陸揚期間モ別段確定セサルノ例ナルヲ以テ、荷受人ハ唯、船長ノ指圖ニ從ヒ可成速ニ運送品ヲ陸揚スルヲ必要トスルノミ(同第六〇五條)、

(ロ) 運送賃等ヲ仕拂フヘキ事

荷受人ハ運送品ヲ受取ルト同時ニ、運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ、運送賃(一)、附隨ノ費用(二)、立替金(三)、並ニ運送品ノ價格ニ應スル共同海損又ハ海難救助費

(四)ヲ支拂フノ義務アルモノニシテ、船長ハ是等ノ金額ト引換ニアラサレハ運送品ヲ引渡サ、ルモ可ナリ(商法第六〇六條)、元來荷受人ハ備船者又ハ荷送人ト船主トノ間ニ取結ヒタル運送契約ノ効果ニ依リ、運送品ノ引渡ヲ請求シ得ヘキモノニシテ、多クハ備船者又ハ荷送人ノ代理人タルヘク、然ラサルモ代理人ト同一ノ地位ニ立ツモノナルカ故ニ、備船者又ハ荷送人ノ當ニ負フヘキ這般ノ義務ヲ負フハ亦當然ノ事トス、

第三 貨物運送賃

(一) 運送賃ノ説明及仕拂期

貨物運送賃(Freight)トハ、海上ノ運送ヲ委託シタル貨物ノ運送及其ノ引渡ニ對シ支拂フヘキ報酬ニシテ、貨物カ陸揚港マテ安全ニ運送セラレ愈、引渡ヲ受クルトキニ之ヲ支拂フヲ原則トス、蓋シ運送契約ノ性質タルヤ一種ノ請負契約ニシテ、請負契約ハ其ノ仕事ノ結果ニ對シ報酬ヲ與フヘキ原則ナルヲ以テ、本邦ノ商法ニ於テモ此ノ原則ヲ應用シ運送賃ヲ定ムルニ、契約履行ノ後即チ運送ノ結果タルヘキ引渡ノ際ヲ標準

トシタルハ固ヨリ當然ト謂フヘシ、然レトモ是レ素ト公益ニ關スル強制的規定ニ非サルカ故ニ、從來我國ニ往々行ハレタル慣習ノ如ク、當事者ノ間ニ前拂ノ事即チ船積ノ當時ニ支拂フコトヲ特約シタルトキハ勿論之ニ從フヘキモノトス、

(一)運送賃ノ定メ方

貨物ノ運送賃ヲ定ムルニハ、運送品ノ重量、(鐵材、石炭等)、容積(雜貨ノ如キ輕重物品ノ場合)、若クハ元價(金銀貨幣其他)ヲ以テスル場合ト、運送ニ費シタル期間ヲ以テスル場合トノ別アリ、甲ノ場合ニハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量容積若クハ元價ニ依リ之ヲ定メ、乙ノ場合ニハ船積着手ノ日ヨリ陸揚終了ノ日マテヲ計算シテ之ヲ定ム、但シ天災、其他不可抗力ノ爲メ船舶カ發着港若クハ航海ノ途中ニ碇泊シ又ハ航海ノ途中ニ船舶ヲ修繕シタル時日等ハ之ヲ算入セサルヲ例トス、然レトモ是等ハ元來強制的規定ニ非サルヲ以テ、當事者カ豫メ合意ノ上別段ノ特約ヲ結フモ隨意ナリト知ルヘシ(商法第六〇八及第六〇九條)、

(三)積荷滅失ノ場合ニ於ケル運送賃

天災其他不可抗力ノ爲メ運送品ノ全部又ハ一部ヲ滅失シ目的港マテ運送シ終フルコト能ハサルトキハ、船主ハ之ニ對スル運送賃ヲ請求スヘカラサルハ勿論、若シ既ニ受取リタル運送賃アルトキハ須ク之ヲ返付スヘシ、是レ請負契約ノ性質上ヨリ來ル當然ノ結果ナリ(但シ一部滅失ノ場合ニハ殘餘ノ部分ヲ引渡シ之ニ相當スル運送賃ヲ請求シ得ヘキハ勿論トス)、然レトモ運送品其者ノ性質若クハ瑕疵ノ爲メ又ハ荷送人ノ過失(荷造ノ不完全ナル如キ)ノ爲メ滅失シタル場合ニハ、其ノ損害ハ當然先方ノ負擔ニ歸シ船主ハ運送賃ノ全額ヲ請求スルヲ得ヘキナリ(商法第三三六條準用)、英國法ニ於テ俵詰ノ穀類カ未熟若クハ濕潤ノ爲メ航海中腐蝕シタル場合又ハ家畜カ船積ノ後病死シタル場合ノ如キハ、「貨物固有ノ缺點」(inherent vice)ヨリ損害ヲ生シタルモノトシテ、船主及船長ニ責任ヲ負ハシメサルモ右ト同一ノ理由ナリ、

(四)備船者又ハ荷送人カ船積ヲ怠リ發航シタル場合ノ運送賃

備船者カ船積期間ヲ經過スルモ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキ、又ハ備船者カ未タ運送品ノ全部ヲ船積セサルニ自ラ船長ニ對シ發航ヲ請求シタルトキハ、船長ハ直ニ發

航スルコトヲ得ヘキモノニシテ、是等ノ場合ニ於テハ傭船者ハ運送賃全額ノ外ニ運送品ノ全部ヲ船積セサル爲メ生シタル費用（例ヘハ「バラスト」購入費及貨物積換費ノ如シ）ヲ支拂ヒ、尙ホ船主ノ請求アレハ相當ノ擔保ヲ供スヘキモノトス（同第五九六及第五九七條）、而シテ又荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リ豫定ノ期日ヲ經過スルトキモ、船長ハ均ク直ニ發航スルコトヲ得ヘク、荷送人ハ運送賃ノ全額ヲ仕拂ハサルヘカラス、尤モ船主カ右ノ代リニ他ノ運送品ヲ引受ケタルトキハ、是ヨリ得タル運送賃ヲ差引クヘキコト當然ナリ（同第六〇二條第二項）、

(五) 運送契約ノ解除ト運送賃

傭船者又ハ荷送人ハ一旦運送契約ヲ結ヒタル後ト雖モ、自己ノ都合ニ依リ之ヲ解除スルコトヲ得ヘシ、然レトモ之ト同時ニ船主ニ對シ全額又ハ一部ノ運送賃ヲ仕拂フカ若クハ損害ヲ賠償スルノ責アルモノニシテ、法律上其ノ支拂高ノ定メ方ハ船舶ノ發航前ト發航後トニ由テ多少ヲ異ニス、即チ之ヲ左ニ略説スヘシ、

(イ) 傭船契約ノ場合ニ於テ發航前ニ契約ヲ解除シタルトキハ、傭船者ハ運送賃ノ半額

ヲ支拂ヒ、其他附隨ノ費用（關稅ノ如キ）及立替金アルトキハ之ヲモ支拂ハサルヘカラス（商法第五九八及第五九九條第一項）、

(ロ) 往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ傭船者カ其ノ歸航ニ就ク前ニ契約ヲ解除シタルトキ、又ハ他港ヨリ船積港ニ回航スヘキ場合ニ於テ傭船者カ其ノ船積港ヲ出帆スル前ニ契約ヲ解除シタルトキハ、運送賃ノ三分ノ二ト附隨ノ費用及立替金トヲ支拂フ外ニ、尙ホ是等ノ場合ニハ既ニ一部ノ航海ヲ了シタルモノナレハ、其ノ航海中若シ共同海損又ハ海難救助費ヲ生シタルトキハ、傭船者ハ其ノ運送品ノ價格ニ應シテ之ヲモ負擔スヘキモノトス（同上兩條各第二項）、

(ハ) 運送品ノ全部ト一部トヲ問ハス一旦船積シタル後發航前ニ契約ヲ解除シタルトキハ、傭船者ハ更ニ其ノ船積及陸揚ノ費用ヲモ負擔セサルヘカラサルハ當然ナリ（同第五九八條第三項）、

(ニ) 傭船者カ船積期間内ニ運送品ヲ船積セサルトキハ、默示ノ契約解除ト看做スヘシ、之カ結果トシテ船主ハ前示(イ)(ロ)ノ區別ニ從ヒ損害賠償トシテ運送賃ノ半額又ハ